

2024年4月～2025年3月 愛媛大学農学部研究業績目録

- A : 著書
 - B : 学術論文
 - B1 : 総説
 - B2 : 査読ありの原著論文, 短報・速報論文及び Proceedings
 - B3 : 査読なしの原著論文, 短報・速報論文及び Proceedings
 - C : 学術講演
 - D : その他 (参考業績)
- (*印付き著者は当該教育分野所属を表す)

食料生産学科 (Department of Food Production Science)

農業生産学専門教育コース (Course of Agro-Biological Science)

作物学教育分野 (Laboratory of Crop Science)

- B-1 Hatakeyama Y*, Arakia T*, Hatakeyama K. Effects of prolonged graphene oxide treatment on biomass production and grain yield in hydroponically grown rice. *ACS Agricultural Science and Technology*. 4. 2024.
- B3-1 Wada H, Hatakeyama Y*, Erra-Balsells R, Muneta T, Nonami H, Ueda H, Yamaga-Hatakeyama Y, Miyashita N, Araki T*. 'Roly-poly toy' motion during pollen exudation promotes rapid pollen adhesion in rice. *Research Square*. <https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-4273294/v1>. 2024.
- C-1 Wada H, Hatakeyama Y*, Muneta T, Erra-Balsells R, Nonami H, Yamaga-Hatakeyama Y, Ueda H, Miyashita N, Araki T*. 'Roly-poly Toy' motion during pollen exudation may be essential for rapid pollen adhesion in rice. P7.9. *Society for Experimental Biology (SEB) Conference 2024. Prague, Czech*. 2024年7月5日.
- C-2 小野みいな*・寺本亮生*・西森杏奈*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 茎数制限処理がハダカムギの硝子率およびその変異に及ぼす影響. 日本作物学会第258回講演会要旨集43. 岡山. 2024年9月26日.
- C-3 山中美里佳*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 開花期高温による不稔発生および抑制メカニズムの検討ーイネ73品種の比較ー. 日本作物学会第258回講演会要旨集53. 岡山. 2024年9月26日.
- C-4 Jannatul Ferdush*・今泉恵里*・畠山友翔*・荒木卓哉*. ハトムギにおける短期間の水ストレスに対する乾物生産および光合成関連形質の反応. 日本作物学会第258回講演会要旨集95. 岡山. 2024年9月26日.
- C-5 山中美里佳*・近藤七葵*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 開花期高温がイネの不稔発生におよぼす影響とその品種間比較. 日本作物学会四国談話会第61回講演会. 日作紀四国談話会報. 61:15-16. 松山. 2024年11月28日.
- C-6 安田光里*・Jannatul Ferdush*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 水分欠乏およびその後の灌水処理がハトムギにおける乾物生産および光合成関連形質に及ぼす影響. 日本作物学会四国談話会第61回講演会. 日作紀四国談話会報. 61:29-30. 松山. 2024年11月29日.
- C-7 西森杏奈*・小野みいな*・鳥生快*・額田遥斗*・南場大輝*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 晩播期に異なるタイミングで播種したハダカムギ品種「ハルヒメボシ」の乾物生産および収量. 日本作物学会四国談話会第61回講演会. 日作紀四国談話会報. 61:31-32. 松山. 2024年11月29日.
- C-8 鳥生快*・西森杏奈*・小野みいな*・南場大輝*・額田遥斗*・畠山友翔*・荒木卓哉*. 実肥施用が遅まきしたハダカムギ品種「ハルヒメボシ」の収量および品質に及ぼす影響. 日本作物学会四国談話会第61回講演会. 日作紀四国談話会報. 61:33-34. 松山. 2024年11月29日.
- C-9 小野みいな*・原口晃輔*・松井菜奈*・三宅真輝*・西森杏奈*・南場大輝*・鳥生快*・額田遥斗*・畠

山友翔*・荒木卓哉*．茎数制限がハダカムギ品種「ハルヒメボシ」の乾物生産，収量および品質に及ぼす影響．日本作物学会四国談話会第 61 回講演会．日作紀四国談話会報．61：35-36．松山．2024 年 11 月 29 日．

- C-10 南場大輝*・原口晃輔*・松井奈菜*・小野みいな*・西森杏奈*・三宅真輝*・鳥生快*・額田遥斗*・山友翔*・荒木卓哉*．成熟期前の穂への散水処理および降雨がハダカムギの硝子率に与える影響．成熟期前の穂への散水処理および降雨がハダカムギの硝子率に与える影響．日本作物学会四国談話会第 61 回講演会．日作紀四国談話会報．61：37-38．松山．2024 年 11 月 29 日．
- C-11 山中美里佳*・近藤七葵*・山友翔*・荒木卓哉*．開花期高温下でのイネの花粉の飛散能力が不稔発生の品種間差に及ぼす影響．日本作物学会第 259 回講演会．日本作物学会第 259 回講演会要旨集．87．藤沢．2025 年 3 月 28 日．
- C-12 南場大輝*・原口晃輔*・松井奈菜*・小野みいな*・西森杏奈*・三宅真輝*・鳥生快*・額田遥斗*・山友翔*・荒木卓哉*．ハダカムギ 3 品種における穂への散水，子実の浸水および降雨が硝子率に与える影響．日本作物学会第 259 回講演会．日本作物学会第 259 回講演会要旨集．101．藤沢．2025 年 3 月 29 日．
- D-1 荒木卓哉*．光合成産物の転流の基礎知識．愛媛大学植物工場研究センター2024 年度人材育成プログラム．A コース【発展偏】HA-1 植物生体情報活用のための植物生理生態．オンライン．2024 年 9 月 12 日．
- D-2 山友翔*．ハダカムギにおける硝子率低減技術の開発．日本作物学会四国談話会第 61 回講演会．日作紀四国談話会報．61：66-68．松山．2024 年 11 月 28 日．
- D-3 Yuto Hatakeyama*．Why was heat-induced rice chalkiness improved by nitrogen application?-. cell-specific analysis unveiled the mechanisms-. International Joint Meeting of Young Researchers for Future Research Collaboration. Mastuyama. 2025 年 3 月 14 日．

果樹学教育分野 (Laboratory of Pomology)

なし

蔬菜花卉学教育分野 (Laboratory of Vegetable and Flower Science)

- B2-1 札埜高志*・平田富士男・加藤真司．都市公園内に設けられた水田における稲作経験のない市民による粗放的水稻栽培実現の可能性．人間・植物関係学会雑誌．24：1-8．2025．
- B2-2 片岡圭子*・平井南帆*・野村陽香*・村上理子*・福井咲乃*．中果系カラーピーマン‘パプリ娘’の無種子果実形成と乾物分配，ならびに植物成長調節物質がその形成に及ぼす影響．園芸学研究．印刷中．2025．
- C-1 加藤真司・横田樹広・平田富士男・札埜高志*．農業経験のない市民による稲作の実現条件の把握（中間発表）～市民モニターによる実証実験報告～．第 55 回日本緑化工学会大会研究交流発表会．東京農業大学．2024 年 9 月 12 日-14 日．
- C-2 札埜高志*・岡田淳史・木村保・中瀬浩太・前田泰芳・大藪崇司．食品リサイクル堆肥の施用および吸水性泥土改良材の添加がビオラの成長と開花に及ぼす影響．園芸学会令和 6 年度秋季大会．琉球大学．2024 年 11 月 3 日-5 日．
- C-3 樋上啓子・山本聡・札埜高志*．アオノリュウゼツランの開花時期の形態の違いによる評価の違い．人間・植物関係学会，日本園芸療法学会 2024 年度合同大会．神戸学院大学．2024 年 11 月 9 日-10 日．
- C-4 松尾比呂志・樋上啓子・札埜高志*．農業用ウェアに対する意識調査とその試作．人間・植物関係学会・日本園芸療法学会 2024 年度合同大会．神戸学院大学．2024 年 11 月 9 日-10 日．
- C-5 大内彩加*・大橋広明*．ピンク花ハエマンサス (*Haemanthus sp.*) の花序培養による増殖の検討．国際植物増殖者会議日本支部第 29 回宮崎大会．講演要旨集 6-7．宮崎県都城市．2024 年 11 月．
- C-6 大内彩加*・片岡圭子*・大橋広明*．ヒガンバナ科植物 2 種（ヒガンバナおよびロドフィアラ）の花

序培養による増殖方法の検討. 第 88 回日本育種学会四国談話会講演会. 講演要旨集 19-20. 松山市. 2024 年 11 月.

- C-7 札埜高志*・岡田淳史・木村保・中瀬浩太・前田泰芳・樋上啓子・大藪崇司. 食品リサイクル堆肥混合培養土がビオラの成長と開花に及ぼす影響. 園芸学会令和 7 年度春季大会. 日本大学. 2025 年 3 月 20 日-21 日.
- D-1 大橋広明*. 「佐田岬しあわせプロジェクト」への発展を目的とした教育研究活動—集客を目的とした佐田岬半島の生物資源の活用—. 令和 5 年度 伊方町地域調査研究等事業 事業報告書. 2024 年 4 月.
- D-2 札埜高志*. 竹材を園芸培養土として利用する. AGN ニュース. 140 : 2. 2024.
- D-3 札埜高志*. 植物のふやし方. 神戸市シルバーカレッジ総合芸術コース園芸専攻講座. 神戸市. 2024 年 6 月 27 日.
- D-4 札埜高志*. 園芸と健康. 阪神シニアカレッジ園芸科. 宝塚市. 2024 年 9 月 9 日.

畜産学教育分野 (Laboratory of Animal Production)

- B2-1 Takahashi M*, Khan S, Cline MA, Tachibana T*. Possible role of neuropeptide Y on zymosan- and lipopolysaccharide-induced change in gastrointestinal feed passage via the medulla oblongata in chicks. *Comparative Biochemistry and Physiology Part A*. 289: 111565. 2024.
- B2-2 Tachibana T*, One C*, Khan S, Cline MA. Effect of platelet-activating factor on food intake, cloacal temperature, voluntary activity and crop emptying rate in chicks. *Prostaglandins & Other Lipid Mediators*. 8: 106818. 2024.
- B2-3 Takahashi M*, Ishida T*, Khan S, Makino R, Cline MA, Tachibana T*. Zymosan and lipopolysaccharide decrease gene expression of neuronal nitric oxide synthase in peripheral organs in chicks. *Veterinary Immunology and Immunopathology*. 271: 110752. 2024.
- B2-4 Tachibana T*, Mimura R*, Khan S, Cline MA. Effects of synthetic CpG oligodeoxynucleotide K3 on immune response, behavior, and physiology in male layer chicks (*Gallus gallus*). *Journal of Poultry Science*. 61: 2024025. 2024.
- C-1 橋哲也*・シャキル カーン. ニワトリヒナにおけるリポポリサッカライドの影響に対するアロプリノールの効果. 日本畜産学会第 132 回大会. 京都大学. 2024 年 9 月 18 日.
- C-2 沖野芽衣子*・山下睦人*・橋哲也*. グリセルアルデヒドの腹腔内投与はニワトリヒナの血中肝臓損傷マーカーに影響を与えない. 日本家禽学会 2024 年秋季大会. 京都大学. 2024 年 9 月 19 日.
- C-3 沖野芽衣子*・牧野良輔*・橋哲也*. α -ジカルボニル化合物がニワトリ骨格筋細胞の生存能に及ぼす影響. 日本家禽学会 2024 年秋季大会. 京都大学. 2024 年 9 月 19 日.
- C-4 山田明里*・高橋真紀*・橋哲也*. ザイモサンによって発現が変動するニワトリヒナ肝臓内の遺伝子の網羅的解析. 日本家禽学会 2024 年秋季大会. 京都大学. 2024 年 9 月 19 日.
- C-5 三村麗奈*・橋哲也*. クラス A の CpG ODN はニワトリヒナの摂食行動と直腸温に影響を与えない. 第 74 回関西畜産学会広島大会. 東広島芸術文化ホール くらら 小ホール. 2024 年 11 月 25 日~26 日.
- C-6 青木麻奈*・沖野芽衣子*・牧野良輔*・橋哲也*. メチルグリオキサールがニワトリヒナの臓器損傷と酸化ストレスに与える影響. 第 74 回関西畜産学会広島大会. 東広島芸術文化ホール くらら 小ホール. 2024 年 11 月 25 日~26 日.
- C-7 長内宥樹*・橋哲也*. ニワトリヒナにおける細菌感染時のロイコトリエンの役割. 第 74 回関西畜産学会広島大会. 東広島芸術文化ホール くらら 小ホール. 2024 年 11 月 25 日~26 日.
- C-8 藤田萌々菜*・守分豪宏*・井川桃花・橋哲也*. 発酵コーヒーハスク添加飼料がブロイラーの成長成績に与える影響. 第 74 回関西畜産学会広島大会. 東広島芸術文化ホール くらら 小ホール. 2024 年 11 月 25 日~26 日.
- C-9 沖野芽衣子*・牧野良輔・橋哲也*. グリオキサールがニワトリヒナの臓器損傷と酸化ストレスに与え

る影響. 日本家禽学会 2025 年度春季大会. オンライン. 2025 年 3 月 27 日.

植物病学教育分野 (Laboratory of Plant Pathology)

- B2-1 Miyoshi S, Unung OO, Kaya H, Yaeno T*, Kobayashi K. CRISPR/Cas9-mediated resurrection of tobacco NB-LRR class virus resistance gene from a susceptible allele with partial duplication. *Journal of General Plant Pathology*. 90: 322–332. 2024.
- B2-2 Unung OO, Bensedira HES, Matsuura T, Mori IC, Shimomura Y, Yaeno T*, Kaya H, Kobayashi K. Possible roles of immunity-related response in modulating chlorosis induced by the silencing of chloroplast HSP90C in tobacco models. *Journal of General Plant Pathology*. 90: 298–308. 2024.
- B2-3 Wagh SG, Bhor SA, Miyao A, Hirochika H, Toriba T, Hirano HY, Kobayashi K, Yaeno T*, Nishiguchi M. Synergy between virus and three kingdom pathogens, fungus, bacterium and virus is lost in rice mutant lines of OsRDR1/6. *Plant Science*. 349: 112244. 2024.
- C-1 八丈野孝*・在間玄香*・鮎川侑*・鈴木智子・小林括平・藤井祥・岩瀬哲・久野裕・松島良・小林康一・永田典子. オオムギうどんこ病菌による色素体の分化. 第 80 回中国四国植物学会大会. 岡山. 2024 年 5 月.
- C-2 藤川弦音*・小出陽菜*・小林括平・吉田健太郎・久野裕・八丈野孝*. MLO はオオムギうどんこ病菌侵入時におけるカルシウムイオンの流動に関与するのか. 第 80 回中国四国植物学会大会. 岡山. 2024 年 5 月.
- C-3 高橋力*・小出陽菜*・小林括平・吉田健太郎・久野裕・八丈野孝*. オオムギうどんこ病菌エフェクター APEC1 は宿主のグリコール酸オキシダーゼと相互作用する. 第 80 回中国四国植物学会大会. 岡山. 2024 年 5 月.
- C-4 八丈野孝*・在間玄香*・高橋力*・鮎川侑*・鈴木智子・小林括平・藤井祥・岩瀬哲・久野裕・小林康一・永田典子. オオムギうどんこ病菌による宿主色素体分化の時空間制御. 植物微生物研究会第 33 回研究交流会. 高知. 2023 年 8 月.
- C-5 高橋力*・小出陽菜*・片山貴博*・井上知絵*・香口智宏*・小林括平・山岡直人*・西内巧・中神弘史・八丈野孝*. オオムギうどんこ病菌エフェクター APEC1 は宿主のグリコール酸オキシダーゼホモログと相互作用する. 植物微生物研究会第 33 回研究交流会. 高知. 2023 年 8 月.
- C-6 岡久真也*・小川翔也*・清水茜*・小林括平・吉田健太郎・八丈野孝*. レーザー熱膨張式マイクロインジェクション技術を利用したリアルタイムシングルセル HR 細胞死イメージング解析. 令和 6 年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-7 長門香澄*・在間玄香*・鮎川侑*・小林括平・藤井祥・岩瀬哲・久野裕・小林康一・永田典子・八丈野孝*. オオムギうどんこ病菌による葉肉細胞内の色素体変化. 令和 6 年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-8 福井奈緒*・高橋力*・鮎川侑*・小林括平・八丈野孝*. シロイヌナズナに感染する新たなうどんこ病菌の分離. 令和 6 年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-9 高橋力*・小出陽菜*・片山貴博*・井上智絵*・香口智宏*・小林括平・山岡直人*・西内巧・中神弘史・八丈野孝*. オオムギうどんこ病菌エフェクター APEC1 の標的候補であるグリコール酸オキシダーゼホモログの解析. 令和 6 年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-10 八丈野孝*・在間玄香*・鮎川侑*・鈴木智子・小林括平・藤井祥・岩瀬哲・久野裕・松島良・小林康一・永田典子. オオムギうどんこ病菌による表皮細胞プラスチドの崩壊. 令和 6 年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-11 八丈野孝*. ハダカムギの変異体育種と病害抵抗性. 日本作物学会四国談話会. 松山. 2024 年 11 月.
- C-12 高橋力*・小出陽菜*・片山貴博*・井上智絵*・香口智宏*・小林括平・山岡直人*・西内巧・中神弘史・八丈野孝*. オオムギうどんこ病菌エフェクター候補 APEC1 は宿主のグリコール酸オキシダーゼホモログと相互作用する. 第 19 回ムギ類研究会. 厚木. 2024 年 12 月.
- C-13 Ayukawa Y*, Misawa N*, Yaeno T*. Development of a simple method for horizontal chromosome transfer in

Fusarium oxysporum. The 5th Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology. Takamatsu. March, 2025.

- C-14 Okahisa M*, Ogawa S*, Kobayashi K, Ayukawa Y*, Yaeno T*. Single-cell analysis of HR cell death using a laser-assisted thermal-expansion microinjection technique. The 5th Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology. Takamatsu. March, 2025.
- C-15 岡久真也*・小川翔也*・小林括平・鮎川侑*・八丈野孝*. レーザー熱膨張式マイクロインジェクション技術を利用したリアルタイムシングルセル過敏感細胞死イメージング解析. 令和7年度日本植物病理学会大会. 高松. 2025年3月.

環境昆虫学教育分野 (Laboratory of Entomology)

- B2-1 Yoshitomi H*, Li X-F*. New record of *Eupyrochroa insignita* (Coleoptera: Pyrochroidae) from Myanmar. Japanese Journal of systematic Entomology. 30: 7-8. 2024.
- B2-2 Hayashi M, Kobayashi T, Yoshitomi H*, Sota T. Phylogenetic relationships among Dryopoidea beetles (Coleoptera: Polyphaga: Elateriformia) based on analysis of DNA sequence data from ultraconserved elements. Insect Systematics and Diversity. 8: 5. 2024.
- B2-3 Asano M, Yasuda K, Yoshitomi H*. The mature larval structures, bionomics and life cycles of *Attalus (Attalus) elongatulus* Lewis (Coleoptera: Malachiinae). Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae. 64: 207-211. 2024.
- B2-4 Yoshitomi H*, Jäch MA, Freitag H. Revision of the genus *Aesobia* Jäch, 1982 (Coleoptera: Elmidae). Koleopterologische Rundschau. 94: 121-132. 2024.
- B2-5 Yoshitomi H*. Revision of the genus *Tenomerga* (Coleoptera, Cupedidae) of Japan and its adjacent regions. Zootaxa. 5555: 201-226. 2024.
- B2-6 Nishikawa M*, Yoshitomi H*. New record of *Nesogaster lewisi* (de Bormans) (Dermaptera: Spongiphoridae: Nesogastorinae) from Laos, with note on Rudoraxinae Srivastava. Japanese Journal of systematic Entomology. 30: 321-328. 2024.
- B2-7 Hayashi M, Iwata Y, Yoshitomi H*. *Ochthebius lobatus* Pu, 1958 from Japan (Coleoptera, Hydraenidae). Japanese Journal of systematic Entomology. 30: 333-335. 2024.
- B2-8 Minkina L, Skelley P, Jakl S, Kral D, Li X-F*. Review of the genus *Rhyparus* Westwood, 1845 (Coleoptera: Scarabaeidae: Aphodiinae) in the Solomon Islands with description of two new species. Zootaxa. 5570: 563-573. 2025.
- B2-9 Maruyama M, Liang W-R, Sokh H, Ando K*. The second species of the enigmatic genus *Microblattellus* Ferrer, 2006 (Coleoptera, Tenebrionidae) from Cambodia: A possibility of termitophily in the genus. Zootaxa. 5575: 167-172. 2025.
- B2-10 Ando K*, Cheong LF. Notes on the Cnodalonini-species (Coleoptera, Tenebrionidae) in Singapore and its adjacent areas, with nine new species and some new records. Elytra, Tokyo, (n. ser.). 14: 27-48. 2024.
- B2-11 Ando K*, Yamashita S, Meleng P, Kaling CH, Gumal MT, Itioka T. Redescription of *Bolitonaeus quadridentatus* (Candèze, 1861), with two new *Bolitonaeus* species (Coleoptera, Tenebrionidae) from Sarawak, Borneo. Elytra, Tokyo, (n. ser.). 14: 49-60. 2024.
- B2-12 Schawaller W, Ando K*. New species and records of the genus *Basamus* Lacordaire (Coleoptera: Tenebrionidae), part 4. Japanese Journal of Systematic Entomology. 30: 23-28. 2024.
- B2-13 Ando K*, Cheong LF, Hazmi IR. Notes on the Tenebrionidae (Coleoptera) in Singapore and its adjacent areas, with ten new species of Cnodalonini. Elytra, Tokyo, (n. ser.). 14: 217-238. 2024.
- C-1 吉富博之*. 愛媛県のカシノナガキクイムシ. 2024年度四国昆虫研究会. 交流の里おうごし. 2024年7月13日.
- C-2 Ślipiński A, Yoshitomi H*, Yoshida T, Leschen RAB. Celebrating phylogeny and evolution of beetles by commemorating the birthday of Dr John F. Lawrence. In: Phylogeny and Evolution of Beetles -Symposium celebrating 90th Birthday of John Francis Lawrence. ICE2024. Kyoto. August 27, 2024.

- C-3 Yoshitomi H*. Phylogeny and evolution of Scirtoidea. In: Phylogeny and Evolution of Beetles -Symposium celebrating 90th Birthday of John Francis Lawrence. ICE2024. Kyoto. August 27, 2024.
- C-4 安藤清志*・山迫淳介・Maxim Nabozhenko. ゴミムシダマシ科の諸問題 I ホソヒゲナガキマワリ属の 2 亜属間の形態的相違について. 日本甲虫学会大阪年末例会. 大阪市立自然史博物館. 2024 年 12 月 14 日.
- C-5 吉富博之*. O1-8 世界最小のヒメドロムシ?—*Aesobia* 属の再検討. 日本甲虫学会第 14 回大会・日本昆虫分類学会第 27 回大会. 東京都立大学. 2024 年 11 月 16–17 日.
- C-6 李曉峰*. O3-2 カクマグソコガネ属 *Rhyparus* の内袋の反転膨隆方法 (コウチュウ目: コガネムシ科: マグソコガネ亜科). 日本甲虫学会第 14 回大会・日本昆虫分類学会第 27 回大会. 東京都立大学. 2024 年 11 月 16–17 日.
- C-7 吉富博之*. 複雑な雄交尾器の見方. 第 4 回オンライン基礎昆虫学会議. 2025 年 3 月 1 日.
- C-8 井原翼*・吉富博之*. ショートトークカマキリの卵寄生生物相. 第 4 回オンライン基礎昆虫学会議. 2025 年 3 月 1 日.
- D-1 吉富博之*. 乾材害虫の甲虫類. 第 1 回目 甲虫目概説. *agreeable* (シロアリ総合情報誌). 70: 10–11. 2024.
- D-2 山本栄治・吉富博之*. 久万高原町赤蔵ヶ池で採集されたマルハナノミ科. *しこくこげら*. 30: 38–39. 2024.
- D-3 吉富博之*. コケと甲虫. *昆虫と自然*. 59: 11–14. 2024.
- D-4 吉富博之*・武智礼央・濱口正幹. 愛媛県で得られたタイワンタケクマバチ. *南予生物フィールドノート*. 2024: 24008. 2024.
- D-5 吉富博之*. 乾材害虫の甲虫類. 第 2 回目 ナガシンクイ科. *agreeable* (シロアリ総合情報誌). 71: 8–9. 2024.
- D-6 吉富博之*. 別刷りという文化とその終焉. *さやばねニューシリーズ*. 54: 71–73. 2024.
- D-7 藤元遙哉・椎葉瞭太・吉富博之*. バイオリンムシ属 (コウチュウ目: オサムシ科: アトキリゴミムシ族) の内袋の検討. *さやばねニューシリーズ*. 54: 1–4. 2024.
- D-8 吉富博之*. 共通教育における環境教育プログラム「環境を考える」. p. 7, 環境報告書 2024. 国立大学法人愛媛大学. 2024.
- D-9 吉富博之*・亀澤洋. 日本産ナガシンクイムシ科のリスト. *さやばねニューシリーズ*. 55: 1–9. 2024.
- D-10 千田喜博・吉富博之*. 隠岐におけるイチモンジハムシの記録. *さやばねニューシリーズ*. 55: 20–21. 2024.
- D-11 吉富博之*. 愛媛県でシマクサアブ (クサアブ科) を確認. *Niche Life*. 12: 2. 2024.
- D-12 木本大貴・吉富博之*. 愛媛県のサツマゴキブリの分布. *Niche Life*. 12: 90–92. 2024.
- D-13 吉富博之*. 乾材害虫の甲虫類. 第 3 回目 ヒョウホンムシ科 (シバンムシ類). *agreeable* (シロアリ総合情報誌). 72: 10–11. 2024.
- D-14 李曉峰*. マダラクワガタ. *ジュニアえひめ新聞*. 551 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 4 月 14 日付け.
- D-15 中島惇*. アゲハモドキ. *ジュニアえひめ新聞*. 555 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 5 月 12 日付け.
- D-16 望月駿*. ルリチュウレンジ. *ジュニアえひめ新聞*. 559 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 6 月 9 日付け.
- D-17 國生竜之介*. エゾマルカギバラバチ. *ジュニアえひめ新聞*. 564 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 7 月 14 日付け.
- D-18 酒口諒也*. ルイスホソカタムシ. *ジュニアえひめ新聞*. 568 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 8 月 11 日付け.
- D-19 福田弘登*. チビクワガタ. *ジュニアえひめ新聞*. 572 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 9 月 8 日付け.
- D-20 姫田顕蔵*. オオミズアオ. *ジュニアえひめ新聞*. 576 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 10 月 13 日付け.
- D-21 武田和真*. ミヤマクワガタ. *ジュニアえひめ新聞*. 581 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 11 月 10 日付け.
- D-22 井原翼*. ヒメカマキリ. *ジュニアえひめ新聞*. 585 号. 5p. 愛媛新聞社. 2024 年 12 月 8 日付け.

- D-23 李曉峰*. オオフタホシマグソコガネ. ジュニアえひめ新聞. 589号. 5p. 愛媛新聞社. 2025年1月12日付け.
- D-24 中島惇*. クロシタアオイラガ. ジュニアえひめ新聞. 593号. 5p. 愛媛新聞社. 2025年2月9日付け.
- D-25 李曉峰*. マグソクワガタ. ジュニアえひめ新聞. 597号. 5p. 愛媛新聞社. 2025年3月9日付け.
- D-26 笹岡康則・安藤清志*. 宮崎県で採集されたウスリーオオカミキリの顛末記. さやばねニューシリーズ. 55:32-35. 2024.
- D-27 吉富博之*. 四国のキノカワハゴロモの記録. *Rostria*. 69:19-21. 2024.
- D-28 吉富博之*. 乾材害虫の甲虫類. 第4回目 その他の甲虫類. *agreeable* (シロアリ総合情報誌). 73:10-11. 2025.
- D-29 田村竜土・吉富博之*・植村優人. 愛媛県におけるナガフトヒゲナガゾウムシの初記録. さやばねニューシリーズ. 56:28. 2024.
- D-30 吉富博之*・酒口諒也*. 愛媛県のカシノナガキクイムシ. さやばねニューシリーズ. 56:8-11. 2024.

分子生物資源学教育分野 (Laboratory of Plant Molecular Biology and Virology)

- B2-1 Unung OO*, Bensedira HES*, Matsuura T, Mori IC, Shimomura Y*, Yaeno T, Kaya H*, Kobayashi K*. Possible roles of immunity-related response in modulating chlorosis induced by the silencing of chloroplast HSP90C in tobacco models. *Journal of General Plant Pathology*. 90: 298-308. 2024. doi.org/10.1007/s10327-024-01191-3. 2024.
- B2-2 Miyoshi S*, Unung OO*, Kaya H*, Yaeno T, Kobayashi K*. CRISPR/Cas9-mediated resurrection of tobacco NB-LRR class virus resistance gene from a susceptible allele with partial duplication. *Journal of General Plant Pathology*. 90: 322-332. 2024. doi.org/10.1007/s10327-024-01189-x.
- B2-3 Wagh SG*, Bhor SA*, Miyao A, Hirochika H, Toriba T, Hirano H-Y, Kobayashi K*, Yaeno T, Nishiguchi M*. Synergy between virus and three kingdom pathogens, fungus, bacterium and virus is lost in rice mutant lines of OsRDR1/6. *Plant Science*. 349: 112244. 2024. doi.org/10.1016/j.plantsci.2024.112244.
- B2-4 Jamaluddin I*, Manabe K*, Watanabe H*, Kaya H*, Kobayashi K*. Transgene-free genome editing in tobacco models can be facilitated by the gene encoding D-amino acid oxidase, a conditional negative selection marker. *SABRAO Journal of Breeding and Genetics*. 56: 2227-2236. 2024. http://doi.org/10.54910/sabrao.2024.56.6.5.
- C-1 三木葵葉*・島谷真奈*・秋山樹菜*・小林括平*・賀屋秀隆*. 植物におけるストレプトマイシン感受性の再評価と選抜マーカーとしての利用. 第80回中国四国植物学会大会. 岡山大学. 2024年5月11日.
- C-2 大野奈津美*・三木葵葉*・山本真結香*・吉田晟人*・根岸克弥・遠藤真咲・小林正樹・小林括平*・土岐精一・阿部光知・賀屋秀隆*. 内在 cis-element への直接変異導入によるシロイヌナズナ FT 遺伝子の発現制御メカニズムの解明. 第80回中国四国植物学会大会. 岡山大学. 2024年5月12日.
- C-3 古川成雪*, 黒谷賢一, 小林括平*, 野田口理孝, 賀屋秀隆*. *Nicotiana benthamiana* FT 遺伝子の探索・本物はどれ? 第146回講演会日本育種学会. 広島大学. 2024年9月20日.
- C-4 三木葵葉*・秋山樹菜*・島谷真奈*・石川歩・小林括平*・西浜竜一・賀屋秀隆*. シロイヌナズナおよびゼニゴケにおける Streptomycin 耐性遺伝子を利用した形質転換体選抜の検討. 第146回講演会日本育種学会. 広島大学. 2024年9月19日.
- C-5 Bensedira HES*, Unung OO*, Yaeno T, Kaya H*, Kobayashi K*. Functional analysis of CBP60 family transcription factors in N'-mediated virus resistance in tobacco. 令和6年度日本植物病理学会関西支部会. 松山. 2024年9月20日.
- C-6 真鍋歆奈*・渡邊穂佳*・賀屋秀隆*・小林括平*. 愛媛県開発中晩柑「甘平」の砂じょう由来カルスの培養とシュート誘導の試み. 第88回日本育種学会四国談話会. 愛媛大学. 2024年11月28日.
- C-7 渡邊穂佳*・真鍋歆奈*・イルマ ジャマルディン*・賀屋秀隆*・小林括平*. タバコにおけるポジティ

ブおよびネガティブ選択マーカー遺伝子としての D-アミノ酸酸化酵素遺伝子の利用可能性. 第 88 回日本育種学会四国談話会. 愛媛大学. 2024 年 11 月 28 日.

- C-8 坂本遼嘉*・新田雅晃・小林括平*・五味剣二・賀屋秀隆*. ゲノム編集によるイネ *D18* 遺伝子発現抑制変異体作出の試み. 第 88 回日本育種学会四国談話会. 愛媛大学. 2024 年 11 月 28 日.
- C-9 古川成雪*・黒谷賢一・小林括平*・野田口理孝・賀屋秀隆*. ゲノム編集による *Nicotiana benthamiana* FT 遺伝子の同定の試み. 第 88 回日本育種学会四国談話会. 愛媛大学. 2024 年 11 月 28 日.
- C-10 三木葵葉*・秋山樹奈*・島谷真奈*・石川歩・小林括平*・西浜竜一・賀屋秀隆. シロイヌナズナ・ゼニゴケ・イネにおける選抜マーカーとしての Streptomycin 耐性遺伝子利用の可能性について. 第 88 回日本育種学会四国談話会. 愛媛大学. 2024 年 11 月 28 日.
- C-11 賀屋秀隆*. ゲノム編集と関連領域の基礎的な話題. 令和 6 年度分野横断型ワーキンググループ勉強会. 愛媛県果樹研究センター, 2024 年 12 月 4 日.
- C-12 古川成雪*・黒谷賢一・小林括平*・野田口理孝・賀屋秀隆*. *Nicotiana benthamiana* FT 遺伝子の単離. 第 66 回日本植物生理学会. 金沢大学. 2025 年 3 月 14 日.
- C-13 平田峻也*・西村泰介・池田陽子・小林括平*・賀屋秀隆*. シロイヌナズナにおける de novo DNA メチル化編集技術の開発の試み. 第 66 回日本植物生理学会. 金沢大学. 2025 年 3 月 14 日.
- C-14 大野奈津美*・三木葵葉*・山本真結香*・吉田晟人*・根岸克弥・遠藤真咲・小林正樹・小林括平*・土岐精一・阿部光知・賀屋秀隆*. シロイヌナズナ花成制御遺伝子 FT の発現を司る内在 cis-element の役割について. 第 66 回日本植物生理学会. 金沢大学. 2025 年 3 月 14 日.
- C-15 Bensedira HES*, Unung OO*, Shimomura Y*, Matsuzaki H*, Yaeno T, Kaya H*, Kobayashi K*. Analysis of immunoregulatory roles of CBP60g and SARD1 in tobacco plants harboring *N'* resistance gene. The 5th Korea-Japan Joint Symposium on Plant Pathology. Takamatsu. 2025 年 3 月 25 日.
- C-16 Bensedira HES*, Unung OO*, Shimomura Y*, Yaeno T, Kaya H*, Kobayashi K*. Expression of CBP60 family transcription factors and Transcriptome Analyses in the *N'*-mediated Resistance Response in Tobacco. 令和 7 年度日本植物病理学会大会. 高松. 2025 年 3 月 27 日.

土壌肥料学教育分野 (Laboratory of Soil Science and Plant Nutrition)

- B2-1 Morita N, Toma Y, Ueno H*. Acceleration of composting by addition of clinker to tea leaf compost. Waste. 2: 72-84. 2024. <https://doi.org/10.3390/waste2010004>.
- B2-2 Morita M, Toma Y, Ueno H*. Co-composting bamboo powder and tea leaves affects the composting rate and improves compost quality. Advances in Bamboo Science. 8: 100099. 2024. <https://doi.org/10.1016/j.bamboo.2024.100099>.
- B2-3 当真要・溝手桃花・辻本泰地・上野秀人*. 愛媛県のハダカムギ圃場における籾殻炭の施用は土壤炭素を増加し地球温暖化を抑制する. 日本炭化学会誌. 2: 37-45. 2024. https://doi.org/10.32143/calbores.2.2_37.
- B2-4 Mon WW*, Toma Y, Ueno H*. Residual effects of rice husk biochar and organic manure application after 1 year on soil chemical properties, rice yield, and greenhouse gas emissions from paddy soils. Soil Systems. 8: 91. 2024. <https://doi.org/10.3390/soilsystems8030091>.
- B2-5 Mon WW*, Ueno H*. Short-term effect of the combined application of rice husk biochar and organic and inorganic fertilizers on radish growth and nitrogen use efficiency. Plants. 13: 2376. 2024. <https://doi.org/10.3390/plants13172376>.
- B2-6 当真要・井上久雄・金田 哲・市橋泰範・駒寿浩・上野秀人*. 有機物を活用したネイチャーポジティブな柑橘栽培を目指して. 日本土壌肥料学雑誌. 95: 155-160. 2024. https://doi.org/10.20710/dojo.95.3_155.
- B2-7 程為国・内田義崇・野副卓人・石黒宗秀・鳥山和伸・上野秀人*・当真要. 有機稲作栽培の拡大に向けて土壌肥料学からニューアプローチ. 日本土壌肥料学雑誌. 95: 410-416. 2024. https://doi.org/10.20710/dojo.95.6_410.

- C-1 Ueno H*, Nishimura S*, Mori K, Okamura Y, Sakamoto E, Kikuchi K. Rice growth and yield, and soil nutrients in Nature Farming paddy fields without fertilization and pesticides in mountainous areas in southwest Japan. Centennial Celebration and Congress of the International Union of Soil Sciences. ID ABS WEB: 137131. Florence, Italy. May 19–21, 2024.
- C-2 Mon WW*, Toma Y, Ueno H*. Changes in soil chemical properties and greenhouse gas emissions from paddy soils after one year of rice husk biochar application with or without organic manures. Centennial Celebration and Congress of the International Union of Soil Sciences. ID ABS WEB: 137356. Florence, Italy. May 19–21, 2024.
- C-3 西村詞生*・森久瑠実・岡村侑磨・上野秀人*. 愛媛県中山間地の自然農法水田における土壌養分供給特性および水稻生育と収量. 日本土壌肥料学会講演要旨集. 70 : 92. 福岡市. 2024 年 9 月 3 日.
- C-4 川村真穂*・山崎 凜*・井上久雄・上野秀人*. 製鋼スラグ肥料の 2 年連続施用が酸性土壌イヨカン園の土壌特性、葉の養分状態、果実品質に与える効果. 日本作物学会四国談話会会報. 61 : 2–3. 松山. 2024 年 11 月 28 日. https://doi.org/10.32307/shikokuj.61.0_2.
- C-5 萩原菜々*・井上久雄・当真 要・上野秀人*. 製鋼スラグ肥料の 5 年連続施用がカンキツ園の土壌、植物養分状態、果実品質に及ぼす効果. 日本作物学会四国談話会会報. 61 : 4–5. 松山. 2024 年 11 月 28 日. https://doi.org/10.32307/shikokuj.61.0_4.
- C-6 白石航*・上野秀人*・西村詞生*. 施設栽培ナスにおけるかん水同時施肥が収量・N₂O 排出量・土壌化学性に与える影響. 日本土壌肥料学会関西支部講演会. A13. 鳥取市. 2024 年 12 月
- C-7 財津こはく*・大西勇輝*・西村詞生*・黄地ヒカル*・大森誉紀・秋山 勉・山崎 凜*・上野秀人*. 愛媛県中予地域の水田転換畑における不耕起緑肥施用がダイズ生育や雑草防除、窒素吸収に与える効果. No. 14. 名古屋. 第 13 回ダイズ研究会. 2025 年 2 月 14 日.
- C-8 大西勇輝*・財津こはく*・西村詞生*・黄地ヒカル*・大森誉紀・秋山 勉・山崎 凜*・上野秀人*. 愛媛県中予地域の水田転換畑における不耕起緑肥施用が土壌の物理化学性に与える効果. 第 13 回ダイズ研究会. No. 15. 名古屋. 2025 年 2 月 14 日.
- C-9 黄地ヒカル*・西村詞生*・財津こはく*・大西勇輝*・大森誉紀・秋山 勉・山崎 凜*・上野秀人*. 愛媛県中予地域の普通畑における不耕起緑肥施用がダイズ生育や雑草防除、窒素吸収に与える効果. 第 13 回ダイズ研究会. No. 16. 名古屋市. 2025 年 2 月 14 日.
- D-1 上野秀人*. 土壌特性・成分分析法. 令和 6 年度第 68 回農業実験実習講習会（四国地区）テキスト.
- D-2 上野秀人*. 野外教育実習法. 令和 6 年度第 68 回農業実験実習講習会（四国地区）テキスト.
- D-3 上野秀人*. 持続可能な農業にマメ科緑肥の活用を. 農業共済新聞 1 面. 2024 年 8 月 14 日.
- D-4 上野秀人*. 緑肥作物の可能性～水田での緑肥作物の利用～. 今治市有機農業推進セミナーテキスト. 2025 年 3 月 25 日.

植物工場システム学専門教育コース（Course of Biomechanical System）

植物工場情報システム学教育分野（Laboratory of Information Systems for Plant Factory）

- C-1 相原孝徳・松尾龍冴・Islam MP*・羽藤堅治*. SPAD 値を用いた植物工場生産ミニトマトの生育評価方法の検討. 農業情報学会全国大会. 2023 年 5 月.
- C-2 Islam MP*, Hatou K*. Performance evaluation of DeepD381v2 for automatic classification of tomato leaf abnormalities. 農業情報学会全国大会. 2023 年 5 月.
- C-3 Sumire K, Islam MP*, Hatou K*. トマト葉障害の自動分類における Mobilenetv2 の性能評価. 農業情報学会全国大会. 2023 年 5 月.

- C-4 Islam MP*, Hatou K*, Shinagawa K, Aono M, Yaeno T. Performance evaluation of DeepD381v3 for automatic classification of plant leaf diseases. The meeting of Japanese Society of Agricultural, Biological and Environmental Engineers and Scientists. 2023年9月.
- C-5 Sumire K, Islam MP*, Hatou K*. トマト葉病害の自動分類における Mobilenetv2_07 の性能評価・The meeting of Japanese Society of Agricultural, Biological and Environmental Engineers and Scientists. 2023年9月.
- C-6 Sota K, Islam MP*, Sumire K, Matsumoto S, Hatou K*. DeepD381v2 を用いたミカン葉病の自動診断システムの性能調査. The meeting of Japanese Society of Agricultural, Biological and Environmental Engineers and Scientists. 2023年9月.
- C-7 相原孝徳・岡本宗樹・Islam M P*・羽藤堅治*. 推定 SPAD 値計測のための画像検束方法と解析プロトコルの検討. 日本生物環境工学会豊橋大会. 2023年9月.

緑化環境工学教育分野 (Laboratory of Physiological Green Systems)

- B1-1 高山弘太郎*. 光合成計測に基づいた環境制御の高度化. 施設と園芸. 205 (春). 2024.
- B1-2 高山弘太郎*. 観葉植物の育て方. 「植物にとっての必要な明るさ」監修. 2025年3月.
- B2-1 Fujiuchi N*, Inaba K*, Oh S*, Okajima S, Asai Y, Nishina H*, Takayama K*. Using a real-time photosynthesis and transpiration monitoring system to develop random forests models for predicting cherry tomato yield in a commercial greenhouse. *Environmental Control in Biology*. 62: 29–39. 2024.
- B2-2 扨佳勲・大林修一・松本博・井上隆信・大場佳成・磯山侑里・高山弘太郎*. 室内の弱光条件下における観葉植物の光合成・蒸散速度の光強度応答の解析-一時閉鎖型チャンバ法を用いた個体レベルでの計測-. *Eco-Engineering*. in press. 2025.
- B2-3 坂口直己・Dhanashri Shinde・岡理一郎・宇佐美由久・北島正裕・藤内直道*・井上隆信・高山弘太郎*. 人工光型植物工場において異なる光強度で栽培されたスイートバジルの上位葉と下位葉を対象とした VOC 計測. *植物環境工学*. 36 : 108–114. 2024.
- B2-4 Ishibashi H, Nishimura S, Tanaka K*, Haruta S, Takayama K*, Yamashiro H, Takeuchi I. Transcriptome analysis reveals limited toxic effects of the UV-filter benzophenone-3 (BP-3) on the hermatypic coral *Acropora tenuis* and its symbiotic dinoflagellates. *Marine Pollution Bulletin*. 201: 116260–116260. 2024.
- B2-5 Fujita H*, Fujiuchi N*, Isoyama Y, Oba Y, Takayama K*. Comparison of tomato canopy photosynthesis in a greenhouse estimated from single-leaf photosynthetic light-response curve and measured by real-time photosynthesis and transpiration monitoring system. *Journal of Agricultural Meteorology*. 81: 12–19. 2025.
- B2-6 Inagaki Y, Ishino N, Isoyama Y, Takayama K*. Effects of foliar application of a linoleic acid derivative on photosynthesis, transpiration, stomatal conductance in tomato. *Eco-Engineering*. In press. 2025.
- C-1 高山弘太郎*・藤内直道*. 電化セミクローズド・グリーン (パイプ) ハウスの開発戦略. 「スマート技術が可能にする環境配慮型農業生産」農業情報学会 2024 年度年次大会. 2024年5月25日.
- C-2 藤内直道*・山口裕成*・高山弘太郎*. イチゴ垂直2段栽培における下段の光環境改善による光合成促進効果の定量評価. 農業情報学会 2024 年度年次大会. 2024年5月26日.
- C-3 藤内直道*・山下美桜子*・田内楓*・磯山侑里・高山弘太郎*. ミニトマト収穫可能量把握のための日単位個体群画像計測: 果実検出および果実色解析. 農業情報学会 2024 年度年次大会. 2024年5月26日.
- C-4 Takayama K*. Sustainable greenhouse production through precise monitoring of photosynthesis and plant growth. 2024 International Forum on Bio-optics and Smart Agriculture. 2024年6月11日.
- C-5 Matsushita Y, Doi H, Takayama K*, Choi YJ, Takahashi K, Sawada K, Noda T. Fabrication of enzyme-based CMOS sucrose image sensor for sucrose visualization in plants. APCOT 2024. 2024年6月23日–26日.
- C-6 Mibu R, Choi YJ, Ide T, oda S, Kimura Y, Takahashi K, Noda T, Takayama K*, Sawada K. Quantification method of chlorophyll a, b standard reagent by filter-free wavelength sensor. APCOT2024. 2024年6月23日–26日.

- C-7 高山弘太郎*. 施設園芸を強くする最新スピーキングプラントアプローチ (SPA). 一般公開シンポジウム「中山間地域と里山の持続性に貢献する農林業 DX」. 2024 生態工学会年次大会 (愛媛大会). 2024 年 6 月 29 日.
- C-8 高山弘太郎*. 記念講演:豊川用水がつなぐスマート農業の地域実装～デジタル化と環境配慮で日本をリードする～. 豊川用水次世代農業推進協議会設立総会. 2024 年 7 月 2 日.
- C-9 高山弘太郎*. 地域をフィールドにした大学研究とその社会実装. 産学連携学会第 22 回大会 (愛媛大会) シンポジウム. 2024 年 7 月 13 日.
- C-10 高山弘太郎*. 環境に配慮しながら利益を上げるデジタル施設園芸. 施設園芸・植物工場展 (GPEC) 2024. 2024 年 7 月 25 日.
- C-11 高山弘太郎*. パネルセッション～産業の壁を超えていけ～ 農業×○○イノベーションの未来. 令和 6 年度 TOYOHASHI AGRIMEETUP 第 1 回交流会. 2024 年 7 月 29 日.
- C-12 高山弘太郎*. 生体情報計測の合成生物学分野への展開についての検討. えひめ農業未来カレッジ (愛媛県立農業大学校) 令和 6 年度農業 DX 公開講座 (第 2 回). 2024 年 7 月 31 日.
- C-13 高山弘太郎*. 環境に配慮したスマート化で農業は強くなる. 日本学術会議公開シンポジウム「ワンヘルス ～未来を創る世代とともに考える～」. 2024 年 8 月 8 日.
- C-14 高橋駿希・秋月拓磨・高山弘太郎*. 顔認識フレームワーク “DeepFace”を用いた植物視点での人間の反応の定量的評価-福祉施設における農福連携に向けて-. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 8 月 20 日.
- C-15 高山弘太郎*. 農学系技術シーズの社会実装の特殊性. 日本学術会議 公開シンポジウム「スタートアップが繋げる農学と農業～望ましい共創のあり方～」. 2024 年 8 月 29 日.
- C-16 万谷真理奈・増田佳乃子・大場佳成・東海林孝幸・高山弘太郎*. 気流可変型光合成蒸散計測システムの開発と性能評価. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-17 松下駿・Moliya Nurmalisa・東海林孝幸・高山弘太郎*. 温室内に設置された内張りカーテンの有無が群落内気流分布に与える影響. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-18 山中愁翔・坂本真滉・秋月拓磨・高山弘太郎*. つり下げ型受粉ロボットのための水平垂直移動プラットフォームの位置制御. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-19 久武洸嗣・大場佳成・磯山侑里・高山弘太郎*・高橋翔太・今川渉・江崎幾朗. 温室栽培ミカンを対象としたリアルタイム光合成蒸散計測. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-20 代田智教・藤内直道*・磯山侑里・大場佳成・秋月拓磨・高山弘太郎*. セミクローズド温室内のトマト群落を対象としたリアルタイム光合成計測-ダイナミック換気制御に対応した計測アルゴリズムの開発-. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-21 藤内直道*・山下美桜子*・磯山侑里・高山弘太郎*. トマト収穫可能量把握のための日単位個体群画像計測: 収穫果実の色相解析. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-22 平間淳司・片山直美・高山弘太郎*. OS 地域のイノベーションを推進する生物環境工学の新しいカタチ. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 18 日.
- C-23 磯山侑里・高山弘太郎*. 地域カーボンニュートラルに資するセミクローズド・パイプハウスの開発. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会 オーガナイズドセッション. 2024 年 9 月 18 日.
- C-24 高山弘太郎*. 農業デジタルツインのニーズと研究開発. 日本学術会議公開シンポジウム「農業デジタルツインの現状と展望」. 2024 年 9 月 19 日.
- C-25 長浩輝・秋月拓磨・高山弘太郎*. 行動情報に基づく一人称視点映像からの植物生体情報計測用画像の抽出. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 20 日.
- C-26 岸本健太郎・大場佳成・磯山侑里・増田佳乃子・秋月拓磨・高山弘太郎*. 葉面積計測機能付きハンディ光合成蒸散計測システムの開発. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 20 日.
- C-27 中尾優作・高山弘太郎*・Sreeramanan Subramaniam・秋月拓磨・Ankita Parab. 微気象制御による密閉容器内の小型植物体の蒸散促進. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 20 日.
- C-28 藤田光*・藤内直道*・磯山侑里・高山弘太郎*. 暗条件下における気温と湿度が葉温・呼吸速度・蒸

散速度に及ぼす影響の解析. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 20 日.

- C-29 古田友木・磯山侑里・秋月拓磨・高山弘太郎*. 異なる日にロボット計測されたトマト群落画像中の同一果房のマッチング. 日本生物環境工学会 2024 年大阪大会. 2024 年 9 月 20 日.
- C-30 高山弘太郎*. 高度植物生体情報を活用した環境配慮型デジタル施設園芸. 北海道施設園芸新技術セミナー. 2024 年 10 月 31 日.
- C-31 高山弘太郎*. 地域カーボンニュートラルに貢献する高生産性セミ・クローズド温室. とよしん食農セミナー. 2024 年 11 月 27 日.
- C-32 藤内直道*・渡邊ゆめの*・高山弘太郎*. 植物生体情報を用いたランダムフォレスト回帰モデルによる養液栽培ミニトマト収量予測. 2024 年度日本農業気象学会中国四国支部大会. 2024 年 11 月 28 日.
- C-33 藤内直道*・山下美桜子*・佐々木桜*・渡邊ゆめの*・磯山侑里・高山弘太郎*. 植物生体情報を用いたミニトマト収量予測～機械学習モデルとプロセスモデルの比較～. 日本農業気象学会 2025 年全国大会. 2025 年 3 月 13 日.
- D-1 高山弘太郎*. データは農業をどう変えた?. IT 農業ネットワーク交流フォーラム「テクノロジーは、農業をどう変える?」. パネルディスカッション. 2024 年 5 月 11 日.
- D-2 高山弘太郎*. スマート農業技術 活用へ協議会設立 愛知・豊川用水流域. 日本農業新聞. 2024 年 6 月 29 日.
- D-3 高山弘太郎*. 地域企業が排出する CO2 を有効活用する最新施設園芸. 豊橋技術科学大学協力会. 2024 年 7 月 24 日.
- D-4 高山弘太郎*. 未来のカタチ×農業～植物生育診断のための新しい技術、光合成を目で見る～. 令和 6 年度夏季研修講座理科教育講座 (主催: 豊橋市教育委員会). 2024 年 7 月 26 日.
- D-5 高山弘太郎*. 愛媛大学だからできる産学連携・スタートアップでイノベーション. アグリ・フードイノベーション公開セミナー 「愛媛大学で考えるアグリ・フードのスタートアップ」. パネルディスカッション. 2024 年 9 月 3 日.
- D-6 高山弘太郎・藤内直道*・加納賢三. 栽培計画に沿った計測データ活用. 植物工場産官学連携セミナー 施設園芸 DX のための栽培ノウハウと植物生体情報活用 第 1 回パネルディスカッション. 2024 年 9 月 10 日.
- D-7 高山弘太郎*. 地域カーボン・ニュートラルに貢献する植物生体情報活用型セミ・クローズド温室の開発. 2024 年度三菱 UFJ 銀行・中部地区 7 大学合同技術説明会. 2024 年 10 月 16 日.
- D-8 高山弘太郎*・加納賢三・藤内直道*. 植物環境応答に基づいた環境制御・栽培管理. 施設園芸 DX のための栽培ノウハウと植物生体情報活用 第 2 回 (全 3 回) 植物の生育に環境が及ぼす影響. パネルディスカッション. 2024 年 10 月 17 日.
- D-9 高山弘太郎*. 植物生体情報を活用した環境配慮型デジタル施設園芸. 東海デジタル人材育成プラットフォーム第 5 回セミナー. 2024 年 10 月 17 日.

植物細胞システム計測学教育分野 (Plant Biophysics/Biochemistry Research Laboratory)

- B3-1 Wada H*, Hatakeyama Y, Erra-Balsells R, Muneta T*, Nonami H*, Ueda H*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Miyashita N*, Araki T. 'Roly-poly toy' motion during pollen exudation promotes rapid pollen adhesion in rice. Research Square. 2024. <https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-4273294/v1>.
- C-1 Wada H*, Hatakeyama Y, Muneta T*, Erra-Balsells R, Nonami H*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Ueda H*, Miyashita N*, Araki T. 'Roly-poly Toy' motion during pollen exudation may be essential for rapid pollen adhesion in rice. Society for Experimental Biology (SEB) Conference 2024. P7.9. Prague, Czech. 2024 年 7 月 5 日.
- C-2 Ueda H*, Miyashita N*, Muneta T*, Erra-Balsells R, Nonami H*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Wada H*. On-site extraction and rapid determination of cellular metabolites associated with pollen foot formation in *Arabidopsis thaliana*. P7.13. SEB Conference 2024. Prague, Czech. 2024 年 7 月 5 日.

- C-3 藤田圭亮*・堀慎一郎*・小林一輝*・野仲彩希*・藤本唯花*・棟田拓己*・畠山（山賀）陽子*・野並浩・和田博史*．ポンプアッププレッシャーチャンバーを用いたみかん樹体の水分状態計測．令和6年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会．2024年9月6日．
- C-4 小林一輝*・棟田拓己*・藤田圭亮*・畠山（山賀）陽子*・野並浩*・黒田伊智男・百津正樹・中井平昌・藤内直道・和田博史*．携帯型プレッシャーチャンバーを用いた圃場条件下におけるウンシュウミカンの樹体水分状態計測．日本生物環境工学会2024年大阪大会．B12-1．2024年9月18日．
- C-5 Muneta T*, Erra-Balsells R, Hatakeyama Y, Ueda H*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Miyashita N*, Araki T, Nonami H*, Wada H*. Identification of flavonoid compounds in rice stigma papillae using single-cell metabolomics. 日本生物環境工学会2024年大阪大会．P-19．2024年9月18日．
- C-6 Fujita K*, Blokhina O, Miyashita N*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Erra-Balsells R, Fagerstedt K, Nonami H*, Kärkönen A, Wada H*. Metabolome analysis of apoplastic space of developing xylem in Norway spruce. 日本生物環境工学会2024年大阪大会．P-26．2024年9月18日．
- C-7 Fujita K*, Blokhina O, Miyashita N*, Yamaga-Hatakeyama Y*, Erra-Balsells R, Fagerstedt K, Nonami H*, Kärkönen A, Wada H*. Metabolomics of lignin biosynthesis in developing xylem in Norway spruce: A trial for apoplastic solute analysis using centrifugation technique. 令和6年度愛媛大学農学研究科国際ワークショップ．2024年12月11日．
- D-1 和田博史*．温暖化に伴う水稻高温障害の発生機構と対策－高温登熟障害（白未熟粒・充実不足）・高温不稔について－．第3回西条市農業の課題解決に向けた勉強会．2024年8月5日．
- D-2 和田博史*．水ポテンシャルと環境データの相関分析．2024年度第2回かんきつ栽培DX 温州みかん勉強会．2024年8月29日．
- D-3 和田博史*．安定同位体標識と IRMS, Orbitrap-MS, picoPPESI-MS を用いた植物の炭素代謝の解析．日本土壌肥料学会2024福岡大会．シンポジウムⅢ「大気・土壌・植物における安定同位体分析装置の現在地：技術と展開」．2024年9月5日．
- D-4 和田博史*．みかんの樹の水ストレス診断：ポンプアッププレッシャーチャンバーを用いた茎の水ポテンシャル測定．令和6年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会第2分科会「愛媛に必要なスマート農林水産業は」．2024年9月6日．
- D-5 和田博史*．水稻高温障害の発生要因と対策技術．愛媛県補助事業「水田農業競争力強化支援事業」．2024年12月5日．
- D-6 和田博史*．気候変動下の食料生産科学：細胞レベルの最先端アプローチ．第4回愛媛の食農の未来とイノベーション シンポジウム2024．特別講演：食料生産と環境との調和．2024年12月14日．
- D-7 和田博史*・畠山友翔．イネの受粉に伴う細胞内・細胞間ネットワークの解明．公益財団法人住友財団 基礎科学研究助成研究成果報告書．210315．2025年3月．

農業機械システム工学教育分野（Laboratory of Agricultural Mechanical System Engineering）

- B2-1 大畑秀平*・有馬誠一*・上加裕子*．深層学習を用いたトマト収穫ロボットの果実検出モデルの構築－背景削除画像適用による有効性評価－．農業食料工学会誌．86：163-171．2024．
- B2-2 指原豊*・上加裕子*・大畑秀平*・土居義典・有馬誠一*・武山絵美・藤井栄一．急傾斜地向け走行ユニットの開発と収穫運搬作業への適応性．農業食料工学会誌．86：231-239．2024．
- B2-3 横川巧*・上加裕子*・大畑秀平*・有馬誠一*．風選別精度リアルタイム検知システムの構築．農業食料工学会誌．86：405-411．2024．
- B2-4 大畑秀平*・美曹晴天*・有馬誠一*・上加裕子*．トマト収穫ロボットシステムの開発-離層からの果実離脱を容易にする果房および主茎の支持方法の検討-．農作業研究．59：163-172．2024．
- B3-1 河野靖・藤井栄一・上加裕子*・池内温・間健二．愛媛県が主催する「作業効率化モデル整備事業研修会」への参加者における園内道やロボットシステム等の導入意向について．愛媛県農新水産研究所研究報告【技術資料】．17：32-36．2025．
- C-1 松村彩葉*・大畑秀平*・上加裕子*・有馬誠一*．急傾斜地小型-自律走行システム開発に向けた走行

- 制御方法と経路検出方法の検討-. ROBOMECH 2024 in UTSUNOMIYA (ロボティクス・メカトロニクス講演会 2024). 宇都宮. 2024.
- C-2 美曹晴天*・大畑秀平*・有馬誠一*・上加裕子*. 太陽光植物工場におけるトマト収穫ロボットの開発-支持棚による栽培様式および植物各部の検出方法の検討-. ROBOMECH 2024 in UTSUNOMIYA (ロボティクス・メカトロニクス講演会 2024). 宇都宮. 2024.
- C-3 有馬誠一*. 戦略的スマート農業技術等の開発・改良の取り組み. 次世代カンキツ生産システムシンポジウム-かんきつ傾斜園地における小型ロボットシステムの導入に向けて-. 松山. 2024.
- C-4 上加裕子*. 急傾斜農業の超省力化に向けた小型ロボットシステムの開発. 次世代カンキツ生産システムシンポジウム-かんきつ傾斜園地における小型ロボットシステムの導入に向けて-. 松山. 2024.
- C-5 山口晴香*・上加裕子*・井上久雄・河野靖・藤井栄一・中矢龍太郎・大畑秀平*・有馬誠一*・渡壁拓哉. 急傾斜地におけるドローン防除システムの高精度化-樹形改造がドローンのダウンウォッシュに及ぼす影響-. 第 82 回農業食料工学会年次大会. 鶴岡. 2024 年 6 月 10 日.
- C-6 太田晋汰朗*・上加裕子*・有馬誠一*. コンバイン電動刈取部での動的切断負荷の検出. 第 82 回農業食料工学会年次大会. 鶴岡. 2024 年 6 月 10 日.
- C-7 塩月雅史*・上加裕子*・羽生剛・宮田信輝・大畑秀平*・有馬誠一*. キウイフルーツ生産における溶液受粉のための自動スプレーシステムの開発. 第 82 回農業食料工学会年次大会. 鶴岡. 2024 年 6 月 10 日.
- C-8 大畑秀平*・有馬誠一*・上加裕子*. トマト収穫ロボットにおける三次元情報に基づく小果柄検出手法の開発. 第 82 回農業食料工学会年次大会. 鶴岡. 2024 年 6 月 10 日.
- C-9 有馬誠一*. 戦略的スマート農業技術等の開発改良の取組. 急傾斜地小型農業ロボットシンポジウム. 延岡. 2024.
- C-10 上加裕子*. 急傾斜地向け走行ユニットの実用化に向けた研究. 急傾斜地小型農業ロボットシンポジウム. 延岡. 2024.
- C-11 上加裕子*. 小型ロボットによる持続可能な急傾斜地農業の可能性. 地域農林経済学四国支部 第 60 回研究大会. 松山. 2024 年 12 月 7 日.
- C-12 上加裕子*. 我が国の食料安全保障確保に向け地域特性に対応する農業生産システムの開発. 国立大学法人愛媛大学イノベーション創出院キックオフシンポジウム. 松山. 2024.
- C-13 上加裕子*. 農業機械の電動化動向と展望. 自動車以外の陸海空モビリティにおける電動化動向【Web セミナー】S&T 出版. 2024.
- C-14 上加裕子*. スマート農業の現状と課題. 第 26 回 JA えひめ中央 生産者大会 記念講演. 松山. 2025.

流通工学教育分野 (Laboratory of Distribution Engineering)

- B2-1 Gao T, Saito Y, Miwa Y, Kuramoto M, Konagaya K*, Yamamoto A, Hashiguchi S, Suzuki T, Kondo N. Non-destructive estimation of flesh oil content in avocado (*Persea americana* Mill.) using fluorescence images from 365-nm UV light excitation. *Photochemical & Photobiological Sciences*. 23: 1871–1882. 2024.
- B2-2 Nakaura Y, Sok C, Morimatsu K*, Yamamoto K. Effect of incubation temperature after high hydrostatic pressure treatment of *Escherichia coli* on the detection of injured populations. *High Pressure Research*. 1–11. 2024.
- B2-3 Morimatsu K*, Konagaya K*. Various cultivars of citrus fruits: effects of construction on gas diffusion resistance and internal gas concentration of oxygen and carbon dioxide. *AgriEngineering*. 6: 4267–4279. 2024.
- B2-4 Huang Z, Takemoto T, Omwange K A, Orsino M, Konagaya K*, Kondo N. Early detection of blossom-end rot in green peppers using fluorescence and normal color images in visible region. *Food Control*. 111156. 2025.
- C-1 Takahashi N*, Konagaya K*, Nao M, Kohno Y. Development of automatic sorting system for taro using image processing. The IX ISHS International Postharvest Symposium, Rotorua. 2024 年 11 月.
- C-2 Kimura K*, Takahashi N*, Konagaya K*, Nao M, Kohno Y. Classification of rotten taro for automatic sorting system using near-infrared spectroscopy and k-Nearest Neighbor model. The IX ISHS International

Postharvest Symposium, Rotorua. 2024 年 11 月.

- C-3 森松和也*・小長谷圭志*・朝倉将斗・渡部将也. 400 MPa の高压処理を用いた大腸菌の殺菌における抗酸化成分の影響. 2024 生態工学会年次大会. P1. 愛媛. 2024 年 6 月.
- C-4 中浦嘉子・Claudia SOK・森松和也*・山本和貴. 高压損傷大腸菌の検出効率化手法. 日本食品工学会第 25 回 (2024 年度) 年次大会. 広島. 2024 年 4 月.
- C-5 森松和也*・小長谷圭志*・藤田雅彦・朝倉将斗. 高压処理による大腸菌の不活性化への真空脱気率と溶液成分の影響. 日本防菌防黴学会第 51 回年次大会. 2P-Ca37. 東京. 2024 年 9 月.
- C-6 森松和也*・小長谷圭志*. 枯草菌芽胞の高压発芽誘導に対する発芽誘導物質の影響. 農業食料工学会第 82 回 (2024 年度) 年次大会. P-4. 山形. 2024 年 9 月.
- D-1 森松和也*. 熱による前処理が高压発芽誘導に与える影響. FOOMA JAPAN 2024 アカデミックプラザ. 東京. 2024 年 6 月.
- D-2 田村駿・小長谷圭志*・高橋学・山本智規・八木秀次. リンク機構を備え往復運動で切断する農業ハサミ. 愛媛大学社会共創学部紀要. 8:20-24. 2024 年 9 月.
- D-3 小長谷圭志*, 研究奨励賞 (第 23 回), 蛍光による生鮮野菜品質判定と判定メカニズム解明, 一般社団法人農業食料工学会, 2024 年 9 月.

食料生産経営学専門教育コース (Course of Agricultural and Food Production Management)

地域資源管理教育分野 (Laboratory of Regional Resource Management)

- B2-1 竹内サラ・品川憲治・間々田理彦*・山本和博. 後継ぎが未確定の高齢農業者の経営実態と離農に対する意識. 農業経営研究. 62:15-20. 2024.
- B2-2 間々田理彦*・Sam Engleang・高橋あらた*. カンボジア農村部における障害を持った米農家の実態に関する一考察. 愛媛大学農学部紀要. 69:15-19. 2024.
- B3-1 間々田理彦*. 農協間連携による季節雇用農作業アルバイトの実態と地域農業・経済への波及効果の解明. 協同組合奨励研究報告第五十輯. 141-161. 2024.
- C-1 間々田理彦*・鈴木祥隆・高橋あらた*. カンボジアの特別支援学校における学校農園の取り組みに関する一考察. 2024 年度実践総合農学会大会. 東京農業大学. 東京都世田谷区. 2024 年 7 月.
- C-2 間々田理彦*. カンボジアにおける障害者自立支援に関する考察ー農産物の加工・販売に関する事例を対象としてー. 日本特殊教育学会第 62 回大会. 福岡国際センター. 福岡県福岡市. 2024 年 9 月.
- C-3 間々田和彦・鈴木祥隆・間々田理彦*. カンボジアの知的障害児の農業就労プログラム構築への実践 1ー知的障害児学校での農業就労プログラム開発に関する基礎調査ー. 日本特殊教育学会第 62 回大会. 福岡国際センター. 福岡県福岡市. 2024 年 9 月.
- C-4 松岡淳*. 愛媛県におけるスマート農業の現状と今後の展望 (座長). 地域農林経済学会四国支部第 60 回研究大会. 愛媛大学大学院農学研究科. 2024 年 12 月 7 日.
- D-1 間々田理彦*. 首都圏の消費者の温州みかんの産地間評価と品種の認知度. 令和 6 年愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会ポスター展示. 愛媛大学農学部. 松山市. 2024 年 9 月.
- D-2 松岡淳*. 第 1 回農業委員会活動評価検討会 (農業委員会活動評価委員). 松山市. 2024 年 10 月 9 日.
- D-3 松岡淳*. 第 2 回農業委員会活動評価検討会 (農業委員会活動評価委員). 西条市他 4 市町. 2025 年 3 月 13 日, 14 日, 18 日.

フードシステム教育分野 (Laboratory of Food Systems)

- D-1 天野通子*. 水産養殖場の GAP 導入にむけた「基礎的認証」の実態と役割の解明. 一般財団法人東洋水産財団学術奨励金成果報告書.

- D-2 天野通子*. 令和6年度まつやま農林水産物ブランド化推進協議会. 松山市. 2024年5月14日.
- D-3 天野通子*. 令和6年度東温市食育推進会議. 東温市. 2024年8月16日、2025年1月17日.
- D-4 天野通子*. 令和6年度今治市食と農のまちづくり委員会. 今治市. 2024年度9月18日.
- D-5 天野通子*. 愛媛県内水漁場管理委員会. 松山市. 2024年12月20日、2025年3月13日.

農業政策学教育分野 (Laboratory of Agricultural Policy)

- A-1 椿真一*. 酪農危機をどう突破するかー四国最大の酪農基地・愛媛県西予市. 溝手芳計・村田武編. 農業は農民家族経営が担う：日本の実践とビア・カンペシーナ運動. 筑波書房. 26-34. 2024.
- A-2 椿真一*. ドイツ・オーストリア・イタリアの有機農家. 溝手芳計・村田武編. 農業は農民家族経営が担う：日本の実践とビア・カンペシーナ運動. 筑波書房. 69-72. 2024.
- A-3 椿真一*. 経済的行動、政策オプションおよび提言. 溝手芳計・村田武編. 農業は農民家族経営が担う：日本の実践とビア・カンペシーナ運動. 筑波書房. 182-187. 2024.
- B2-1 椿真一*. 広域農協の生産部会を中心とした産地形成過程と成果に関する研究ー愛媛県の園芸産地を中心にー. 愛媛大学農学部紀要. 69:20-30. 2024.
- D-1 椿真一*. 食料自給率を向上させるにはどのような農業政策が求められるか. 愛媛大学最先端研究紹介 infinity. 2024年11月25日.
- D-2 椿真一*. 第54回日本農業賞愛媛県代表表彰式・審査委員長講評. 愛媛県農業協同組合中央会. 2024年12月13日.

農業経営学教育分野 (Laboratory of Agricultural Economics and Farm Management)

- B-1 竹内サラ・品川憲治・間々田理彦・山本和博*. 後継ぎが未確定の高齢農業者の経営実態と離農に対する意識. 農業経営研究. 62:15-20. 2024.
- D-1 山本和博*. 柑橘産業の経営戦略・農産物流通の実態と柑橘の販売方法. 愛媛大学柑橘産業人材育成プログラム. オンライン遠隔講習. 2024年10月26日.
- D-2 井上久雄・山本和博*. 柑橘の栽培実習. 愛媛大学柑橘産業人材育成プログラム. 宇和島市吉田町. 2024年2月1日.
- D-3 山本和博*. JA えひめ中央補助事業業者選定委員会. 松山市. 2024年6月14日.
- D-4 山本和博*. JA えひめ中央補助事業業者選定委員会. 松山市. 2024年8月26日.
- D-5 山本和博*. JA 周桑法人経営運営検討委員会. 西条市. 2024年9月26日.
- D-6 山本和博*. 愛媛県日本型直接支払検討委員会. オンライン開催. 2024年6月13日.
- D-7 山本和博*. 愛媛県日本型直接支払検討委員会. オンライン開催. 2025年2月3日.
- D-8 山本和博*. 愛媛県環境保全型農業推進会議. 松山市. 2024年11月18日.
- D-9 山本和博*. 愛媛県農業改良普及事業に関する外部評価委員会. 松山市. 2025年1月28日.

水産経営研究分野 (Laboratory of Fisheries Management and Business)

- A-2 竹ノ内徳人*. 沿岸域におけるプレジャーボート・マリーナの利用と管理. 海のレジャー的利用と管理ー日本と中国の実践ー. 東海教育研究所. 65-86. 2024.
- B2-1 稲井大典・竹ノ内徳人*. 愛媛県における水産業振興の現状と展望ー人づくり・モノづくり・地域づくりの3つの柱に基づく水産業振興ー. 地域漁業研究. 64:5-14. 2024.
- B2-2 松村俊吾・竹ノ内徳人*. 愛媛県伊方町における水産業振興に向けたロジックモデルの構築. 地域漁業研究. 64:159-168. 2024.
- B2-3 Rizkina FD, Takenouchi N*, Kasamatsu H. Role of skilled workers in a successful supply chain: the case of the Japanese seafood processing company. BIO Web Conf. 165. The 8th International Conference on Green Agro-Industry and Bioeconomy. 2025. doi: <https://doi.org/10.1051/bioconf/202516502001>
- C-1 竹ノ内徳人*. 魚類養殖業における経営イノベーション. 2024年度国際漁業学会 (JIFRS) 大会シンポジウム 漁業・養殖業の成長産業化と経営イノベーション. 国際漁業学会シンポジウムコメンテ

- ーター. 国立研究開発法人水産研究・教育機構横浜庁舎. 2024年8月24日.
- C-2 竹ノ内徳人*. 愛媛の水産業の活性化に向けて. 愛媛県の水産業について考える. 愛媛学術フォーラム. 愛媛県共済会館. 2024年10月27日.
- C-3 松村俊吾・竹ノ内徳人*. 改正漁業法下における資源管理協定導入による漁業管理構造への影響ー北海道枝幸町における沿岸漁業を事例としてー. 地域漁業学会第66回大会東京大会. 東京海洋大学. 2024年11月10日.
- C-4 Rizkina FD, Kasamatsu H, Takenouchi N*. Supply chain management of fishery products in the Indonesian remote island: a case study in Bawean Island. 地域漁業学会第66回大会東京大会. 東京海洋大学. 2024年11月10日.
- C-5 Rizkina FD, Kasamatsu H, Takenouchi N*. Supply chain management of fishery products in the Indonesian remote island: a case study in Bawean Island. 令和6年度農学研究科国際ワークショップ. 愛媛大学農学部. 2024年12月11日.
- C-6 Muchtar MN, Kasamatsu H, Takenouchi N*. Sustainable livelihood assessment and philanthropy utilization for community development in WaqfArea: a case study of peri-urban farmers in Bandung Regency, Indonesia. International Joint Meeting of Young Researchers for Future Research Collaboration. 愛媛大学農学部. 2025年3月14日.
- D-1 竹ノ内徳人*. 水産業を核とした地域振興. 愛媛大学水産人材育成講座ー応用編・水産業と地域振興ー. 愛媛大学南予水産研究センター. 2024年9月21日.
- D-2 竹ノ内徳人*. 水産物の流通・販売. 愛媛大学水産人材育成講座ー基礎編・水産学概論ー. 愛媛大学南予水産研究センター. 2025年1月25日.
- D-3 竹ノ内徳人*. 水産経済・経営ー水産白書よりー. 愛媛大学水産人材育成講座ー基礎編・水産学概論ー. 愛媛大学南予水産研究センター. 2024年2月15日.
- D-4 竹ノ内徳人*. 農林水産物流通対策モデル実証支援事業 水産物活魚輸送検証にかかる評価分析 (業務報告書). 愛媛県漁業協同組合. 2024年6月30日.

アグリビジネス教育分野 (Laboratory of Agribusiness)

- B2-1 Nishimura T*, Taguchi J, Kumazawa T, Hayashi K. Virtual play and real connections: unpacking the impact of rice farming simulation video games. *Frontiers in Computer Science*. 6: 1392862. 2024. doi:10.3389/fcomp.2024.1392862
- B3-1 京井尋佑・菊地直樹・伊藤浩二・西村武司*・岸岡智也・北村健二・山下英輝・森宏一郎. 能登里山里海マイスターにおける社会的ネットワークとその影響の導出. 滋賀大学環境総合研究センター研究年報. 21: 17-27. 2024.
- C-1 西村武司*. キウイフルーツ生産者は雄木を植えるか. 令和6年度日本農業経営学会研究大会. 愛媛大学. 愛媛県松山市. 2024年9月15日.
- C-2 西村武司*. キウイフルーツの共同花粉採取の契約形態に関する比較分析. 2025年度日本農業経済学会大会. 日本大学. 神奈川県藤沢市. 2025年3月30日.
- D-1 西村武司*. キウイフルーツ生産者は雄木を植えるか. 令和6年度日本農業経営学会研究大会 報告要旨. 57-58. 2024年9月15日.
- D-2 西村武司*. (2024衆院選 人口減少, 生活は守れるか: 下) 地方創生 移住者が旗振り, 地域に新風. 朝日新聞. 朝刊. 25. 2024年10月24日.
- D-3 西村武司*. トマトに地方創生の作用あり 遊子川リコピンズ, 西田敏行さんも声援. 朝日新聞デジタル. 2024.
- D-4 西村武司*. 松山市農業協同組合補助事業者選定委員会. 松山市. 2024年12月24日.
- D-5 西村武司*. キウイフルーツの共同花粉採取の契約形態に関する比較分析. 2025年度日本農業経済学会大会 報告要旨. 142. 2025.

知能的食料生産科学特別コース (Special Course of Intelligent Food Production Science)

- C-1 相原孝徳・松尾龍冴・Islam MP*・羽藤堅治*. SPAD 値を用いた植物工場生産ミニトマトの生育評価方法の検討. 農業情報学会全国大会. 2023 年 5 月.
- C-2 相原孝徳・岡本宗樹・Islam MP*・羽藤堅治*. 推定 SPAD 値計測のための画像検束方法と解析プロトコルの検討. 日本生物環境工学会豊橋大会. 2023 年 9 月.
- C-3 Sumire K, Islam MP*, Hatou K*. トマト葉病害の自動分類における Mobilenetv2 の性能評価. 農業情報学会全国大会. 2023 年 5 月.
- C-4 Sumire K, Islam MP*, Hatou K*. トマト葉病害の自動分類における Mobilenetv2_07 の性能評価. The meeting of Japanese Society of Agricultural, Biological and Environmental Engineers and Scientists. 2023 年 9 月.
- C-5 Sota K, Islam MP*, Sumire K, Matsumoto S, Hatou K*. DeepD381v2 を用いたミカン葉病の自動診断システムの性能調査. The meeting of Japanese Society of Agricultural, Biological and Environmental Engineers and Scientists. 2023 年 9 月.
- C-6 相原孝徳・岡本宗樹・Islam MP*・羽藤堅治*. 推定 SPAD 値計測のための画像検束方法と解析プロトコルの検討. 日本生物環境工学会豊橋大会. 2023 年 9 月.

生命機能学科

(Department of Bioscience)

応用生命化学専門教育コース (Course of Applied Bioscience)

生物有機化学教育分野 (Laboratory of bioorganic chemistry)

- A-1 西脇寿*. 創薬の基礎知識, 創農薬の事例—分子設計を中心に—. 日本農薬学会. 2-9. 2025.
- B1-1 山内聡*. 農薬開発を目指したリグナン類の合成および構造活性相関に関する研究. 日本農薬学会誌. 49: 45-48. 2024.
- B1-2 横井大洋*. 昆虫ホルモン様活性化合物の合成・評価・デザインに関する研究. 日本農薬学会誌. 49: 54-56. 2024.
- B1-3 Yokoi T*. Design, synthesis, and biological evaluation of insect hormone agonists. *Journal of Pesticide Science*. 49: 303-310. 2024.
- B1-4 Yamauchi S*. Syntheses and structure-activity relationship of lignans to develop novel pesticides. *Journal of Pesticide Science*. 49: 311-320. 2024.
- B2-1 Sartiva H,* Nishiwaki H,* Akiyama K, Yamauchi S.* Discovery of anti-phytopathogenic fungal activity of a new type of (S)-coumarin bearing a phenylpropanoid unit at the 3-position. *Journal of Pesticide Science*. 49: 262-270. 2024.
- B2-2 Tamada K,* Nishiwaki H,* Yamauchi S.* Syntheses of (S)- and (R)-dihydromethysticin from two yeast-reduction products, which can be prepared from one racemic compound. *Phytochemistry Letters*. 60: 143147. 2024.
- B2-3 Kamezaki M,* Nishiwaki H.* Capsaicin preferentially inhibits slow-inactivation sodium currents in insects. *Toxicon*. 256: 108264. 2025.
- C-1 高里若葉・井上ちはる・小島広之・西脇寿*・佐藤康. ヘキサミン異化経路導入シロイヌナズナにおけるグルコサミン類及びそのポリマーの影響. 中国四国植物学会第 80 回大会. 岡山. 2024 年 5

月.

- C-2 嶋崎颯真*・山内聡*・西脇寿*. 柑橘病原菌に抗菌活性を示す微生物のスクリーニング及び抗菌物質の検討. 日本農芸化学会中四国支部第 68 回講演会. 高松. 2024 年 6 月.
- C-3 Abe S,* Yamauchi S,* Nishiwaki H.* Biosynthesis of the pigments constructing the body colour of green lacewing insects. XXVII International Congress of Entomology. Kyoto. Aug, 2024.
- C-4 村上雅崇・的場洋祐・西脇寿*・佐藤康. シロイヌナズナにおけるヘキソサミン経路の適度な活性化による, 非生物ストレス 耐性向上と内生物質量の変化. 日本植物学会第 88 回大会. 宇都宮. 2024 年 9 月.
- C-5 清水堅太・小野友貴哉・作田悠太郎・西脇寿*・佐藤康. ヘキソサミン経路の植物特異的機能解明に向けたシロイヌナズナ・ホスホアセチルグルコサミンムターゼの解析. 日本植物学会第 88 回大会. 宇都宮. 2024 年 9 月.
- C-6 高里若葉・井上ちはる・小島広之・西脇寿*・佐藤康. ヘキソサミン異化経路導入シロイヌナズナにおけるグルコサミン類及びキチン・キトサン利用能力の変化. 日本植物学会第 88 回大会. 宇都宮. 2024 年 9 月.
- C-7 嶋崎颯真*・山内聡*・西脇寿*. 柑橘病原菌に抗菌活性を示す *Bacillus* 属細菌の生産物質の検討. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 松山. 2024 年 9 月.
- C-8 竹本遥*・山内聡*・西脇寿*. Cyanobacterin の新規合成経路の開発. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 松山. 2024 年 9 月.
- C-9 三木梨花*・西脇寿*・秋山浩一・山内聡*. 3-(1-aryl-1-hydroxyprop-2-yl)coumarin と 3 置換 α -benzylidene- γ -butyrolactone の立体異性体の合成と, 植物生長抑制活性と抗カビ活性の評価. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 松山. 2024 年 9 月.
- C-10 Takamatsu S,* Ito H, Ito M. A chemical approach to uncovering the unique fragrance of agarwood. 1st Lombok International Conference on Sciences, Technology, Environment, and Mathematics. (LICoSTEM) 2024. Indonesia, Oct 2024.
- C-11 三木梨花*・西脇寿*・秋山浩一・山内聡*. α 位に benzylidene 構造を持つ 3 置換 γ -butyrolactone と coumarin 型リグナンの全立体異性体の合成及び, カビと植物に対する生物活性. 第 38 回農薬デザイン研究会. 品川. 2024 年 11 月.
- C-12 竹本遥*・山内聡*・西脇寿*. Cyanobacterin の新規合成経路の検討. 第 38 回農薬デザイン研究会. 品川. 2024 年 11 月.
- C-13 嶋崎颯真*・山内聡*・西脇寿*. 柑橘病原菌に抗菌活性を示す微生物のスクリーニングと抗菌物質の検討. 第 38 回農薬デザイン研究会. 品川. 2024 年 11 月.
- C-14 Nakata A, Nishiwaki H,* Nishi K, Sugahara T, Imai Y. The flavonoid Chrysin suppresses osteoclastogenesis. The 21st Protein Island Matsuyama. Matsuyama. Nov, 2024
- C-15 Takamatsu S.* Agarwood travels the world - its usage around the world and its chemical aspect-. The International Workshop "Agarwood in Wallacea and Papua: Collaborative Research on Species Distribution, Composition, and Conservation of Genetic Resources. Kyoto. Feb, 2025.
- C-16 樋口廉*・西脇寿*・秋山浩一・菅原卓也・山内聡*. インダン型リグナンの構造と生物活性との関係解明のための立体異性体合成. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 札幌. 2025 年 3 月.
- C-17 木村真緒・山中翠・長谷川桃子・山邊由梨・木村真梨子・山内聡*・田村廣人. ヒト乳がん細胞を用いたレポーター遺伝子系によるリグナン系化合物のアンドロゲン/グルココルチコイド受容体情報伝達系かく乱活性. 日本農芸化学会 2025 年度大会. 札幌. 2025 年 3 月.
- C-18 嶋崎颯真*・山内聡*・西脇寿*. 柑橘病原菌に抗菌活性を示す微生物の探索と抗菌物質の検討. 日本農薬学会第 50 回大会. 東京. 2025 年 3 月.
- C-19 Takamatsu S.* Chemical analysis of fragrance and medical source plants. International Joint Meeting of Young Researchers for Future Research Collaboration (iCollab). Ehime. Mar, 2025.
- C-20 Takamatsu S,* Ito H. Scientific background of Japanese traditional agarwood fragrance. The International

Symposium on Wood Science and Technology 2025 (ISWST2025). Sendai. Mar, 2025.

- C-21 阿部風音*・松林紘世*・山内聡*・西脇寿*. ニッポンクサカゲロウの体色を構成する色素の生合成関連タンパク質の検討. 第 69 回日本応用動物昆虫学会大会. 千葉. 2025 年 3 月.
- D-1 安部真人・片岡良太・西脇寿*・上加裕子・水川葉月・高木和弘・須戸幹. 第 40 回農薬環境科学研究会シンポジウム. 日本農薬学会誌. 49 : 25–28. 2024.
- D-2 高松さくら*. 全学ホームページ研究トピックス. 令和 6 年度学長賞及び学長奨励賞表彰式を挙りました. 2024 年 9 月 2 日. (2024 年 9 月 10 日更新)
- D-3 竹本遥*. 第 38 回農薬デザイン研究会優秀発表賞. 2024 年 11 月.
- D-4 阿部風音*・井上鼓椌. XXVII International Congress of Entomology に参加して. 日本農薬学会誌. 50 : 174–176. 2025.
- D-5 丸田真央*. 生命機能学科 卒業論文優秀発表賞. 2025 年 3 月.
- D-6 阿部風音*. 生命機能学専攻 修士論文優秀発表賞. 2025 年 3 月.
- D-7 阿部風音*. 日本化学会中国四国支部支部長賞. 2025 年 3 月.

天然物有機化学教育分野 (Laboratory of Natural Products Organic Chemistry)

- B3-1 安部真人*・廣角道信*・藤原朋哉*・山田啓輔*・多田大輝*・三澤嘉久・馬場直道. リン脂質の発散的全合成と生理機能. 第 66 回天然物討論会講演要旨集.
- B3-2 安部真人*・山田啓輔*・藤原朋哉*・廣角道信*. リン脂質リゾカルジオリピンの全立体異性体の化学合成. 第 66 回脂質生化学会講演要旨集.
- C-1 安部真人*・山田啓輔*・藤原朋哉*・廣角道信*. リン脂質リゾカルジオリピンの全立体異性体の化学合成. 第 66 回脂質生化学会. 静岡. 2024 年 6 月.
- C-2 師岡はるか・藤原朋哉*・安部真人*・三澤嘉久・馬場直道・木岡紀幸・木村泰久. 合成 PS アナログを用いたヒト ABCA1 の活性制御機構の解析. 第 18 回トランスポーター研究会年会. 静岡. 2024 年 6 月.
- C-3 Abe M*, Yamada K*, Yamashita S*, Hirosumi M*, Fujiwara T*, Sato H. Total synthesis of all stereoisomers of the phospholipid lysocardiolipin. *Molecular Chirality* 2024. Kyoto. 2024 年 8 月.
- C-4 安部真人*・廣角道信*・藤原朋哉*・山田啓輔*・多田大輝*・三澤嘉久・馬場直道. リン脂質の発散的全合成と生理機能. 第 66 回天然有機化合物討論会. 京都. 2024 年 9 月
- C-5 Takahashi H, Uchiage Y, Yamagami R, Abe M*, Kami K, Morishita R, Tajima S, Lim CK, Yoshii K, Hori H, Vasudevan SG, Sawasaki T. Synthesis of and biochemical evaluation of non-structural polyprotein of Flaviviridae with a wheat cell-free system for reconstitution of the replication complex. *HCV&Flavi* 2024. Oxford. 2024 年 9 月.
- C-6 Abe M*. Total synthesis of all stereoisomers of negative phospholipids. 66th International Conference on the Bioscience of Lipids. 台北. 2024 年 10 月.
- C-7 内上祐介・山上龍太・安部真人*・紙圭一郎・森下了・田島茂・林昌宏・好井健太郎・堀弘幸・Subhash G. Vasudevan・澤崎達也・高橋宏隆. Application of nanodisc technology for reconstitution of the DENV replication complex in vitro with a wheat cell-free system. 第 71 回日本ウイルス学会学術集会. 名古屋. 2024 年 11 月.
- C-8 師岡はるか・藤原朋哉*・安部真人*・三澤嘉久・馬場直道・木岡紀幸・木村泰久. 合成脂質アナログを用いたヒト ABCA1 の PS 依存的活性調節機構の構造活性相関. 第 97 回日本生化学会大会. 横浜. 2024 年 11 月.
- C-9 安部真人*・山田啓輔*・藤原朋哉*・廣角道信*・山下慧之*. 陰性リン脂質ホスファチジルセリンおよびリゾカルジオリピンの全立体異性体の全合. 第 97 回日本生化学会. 横浜. 2024 年 11 月.
- C-10 安部真人*. リン脂質の収束型合成の確立と拡張. 日本農芸化学会 2025 年度大会シンポジウム. 札幌. 2025 年 3 月.
- D-1 安部真人*. 脂質の生分解性を活かした新規素材の開発研究. 超異分野学会 2024 岡山・中四国フォー

ラム (株式会社リバネス主催). 岡山. 2024 年 5 月.

- D-2 安部真人*. 廃油をその場で精製し再資源化する小型蒸留装置の開発. フードテックグランプリ 2024 (株式会社リバネス主催). 東京. 2024 年 10 月.
- D-3 安部真人*. 脂質の生分解性を活かした新規素材の開発研究. 超異分野学会 東京大会 2025 (株式会社リバネス主催). 新宿. 2025 年 3 月.
- D-3 安部真人*・蔭山健介・山家創・福田裕士. 死の谷を乗り越える, GAP ファンドの使い方. 超異分野学会東京大会 2025 岡山・中四国フォーラムパネルセッション (株式会社リバネス主催). 新宿. 2025 年 3 月.

栄養科学教育分野 (Laboratory of Nutritional Science)

- C-1 堤紀夏*・田所千奈*・大塚陽翔*・土居直史*・中川日向太*・片岡ゆめ*・藤井美羽*・長見美来*・内田健志・吉田恵里子・岡田晋治・井上奈穂子・藤谷美菜*・岸田太郎*. スケソウダラタンパク質摂取による骨格筋重量増加効果の機構解明～摂食タイミング同期モデルでの筋タンパク質合成速度の検討～. 日本栄養食糧学会第 78 回大会. 講演要旨集 2N-13p. 福岡. 2024 年 5 月.
- C-2 小嶋歩・俵わかこ・向井理紗・岡田晋治・岸田太郎*・森司・井上菜穂子. 摂食タイミング同期モデルを用いた魚肉タンパク質摂取が骨格筋肥大に与える影響の解析. 日本栄養食糧学会第 78 回大会. 講演要旨集 3R-02a. 福岡. 2024 年 5 月.
- C-3 山本暁音*・Balikagala Joanita*・原田さゆり*・福本 凜*・八塚愛美・酒井美希・岸田太郎*・西脇寿*. ダイゼイン腸内細菌代謝物エコールの雌特異的食欲抑制作用の機構解明—食欲抑制時のエコール抱合体体内分布と経日変化—. 第 57 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会. 講演要旨集 30. 岡山. 2024 年 11 月.
- C-4 白山ほのか*・池田直人*・川原京佳*・西原一仁*・大成奏子*・北澤七海*・天野拓也*・岸田太郎*・藤谷美菜*・八塚愛実*・酒井美希・秀野晃大. 河内晩柑外皮摂取によるラット脂肪肝抑制の作用機構—インスリン感受性改善の関与について—. 日本食物繊維学会第 29 回学術集会. 講演要旨集 s62-s63. 千葉. 2024 年 12 月.
- C-5 木村愛*・前野元希*・長森公寛*・岡本直大*・小原健太郎*・岸田太郎*・藤谷美菜*・野田耕太. ビートファイバー摂取によるラット摂取エネルギー減少効果の機構解明—食欲抑制因子遺伝子発現への影響—. 日本食物繊維学会第 29 回学術集会. 講演要旨集 s66-s67. 千葉. 2024 年 12 月.

生化学教育分野 (Laboratory of Biochemistry)

- B2-1 Akagashi M*, Watanabe S*, Kwiatkowski S, Drozak J, Terawaki SI, Watanabe Y. Crystal structure of L-2-keto-3-deoxyfuconate 4-dehydrogenase reveals a unique binding mode as a α -furanosyl hemiketal of substrates. *Scientific Reports*. 14: 14602. 2024.
- B2-2 Sakurai Y, Yamaguchi S, Yamashita T, Lu Y, Kuwabara K, Yamaguchi T, Miyake Y, Kanaori K, Watanabe S*, Tajima K*. Mechanisms associated with superoxide radical scavenging reactions involving phenolic compounds deduced based on the correlation between oxidation peak potentials and second-order rate constants determined using flow-injection spin-trapping EPR methods. *Journal of Agricultural and Food Chemistry*. 72: 16018–16031. 2024.
- B2-3 Ohnishi KI, Watanabe S*, Kadoya A, Suzuki, S. Cellulolytic enzymes in *Microbulbifer* sp. Strain GL-2, a marine fish intestinal bacterium, with emphasis on endo-1,4- β -glucanases Cel5A and Cel8. *Journal of General and Applied Microbiology*. 70: 90–99. 2024.
- B2-4 Akagashi M*, Watanabe S*. Crystal structure of L-2-keto-3-deoxyrhamnonate 4-dehydrogenase involved in the non-phosphorylating pathway of L-rhamnose metabolism by bacteria. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. in press. 2025.
- B2-5 Watanabe Y, Kumeta H, Watanabe S*. Structural basis for phosphatidylcholine synthesis by bacterial phospholipid N-methyltransferases. *Journal of Biological Chemistry*. in press. 2025.

- B2-6 Ito T*, Tojo Y, Fujii M, Nishino K, Kosako H, Shinohara Y. Insights into the mechanism of catalytic activity of *Plasmodium* parasite malate-quinone oxidoreductase. ACS Omega. 9: 21647–21657. 2024.
- C-1 赤樫実結*・渡邊誠也*・Sebastian Kwiatkowski・Jakub Drozak・寺脇慎一・渡邊康紀. 構造的に大きく異なる化合物を基質とする酵素の分子認識機構. 第97回日本生化学会大会. パシフィコ横浜ノース. 2024年11月.
- C-2 里陽美花*・赤樫実結*・渡邊誠也*. 新規 L-Threonate 3-dehydrogenase の生化学的および構造生物学的研究. 日本農芸化学会中四国支部第70回講演会(例会). 広島大学. 2025年1月.
- C-3 東條祐真・伊藤剛*・藤井みのり・西野耕平・小迫英尊・篠原康雄. Identification of catalytic site of malate-quinone oxidoreductase. 第15回日本生物物理学会中国四国支部大会. 徳島. 2024年5月25日.
- C-4 藤井玲緒・伊藤剛*・武川和人・篠原康雄. Towards the construction of mitochondrial ADP/ATP carrier forming a stable substrate-complex. 第15回日本生物物理学会中国四国支部大会. 徳島. 2024年5月25日.
- C-5 寺井健太・伊藤剛*・篠原康雄. 不活性型 Atp9 はドミナントネガティブ様作用により標的細胞の ATP 合成を抑制する. 日本薬学会第145年会. 福岡. 2025年3月27日.
- D-1 渡邊誠也*. 令和6年度愛媛大学農学部生命機能学科高大連携企画. 出張実験. 三島高校. 2024年12月28日.
- D-2 赤樫実結*. 令和6年度日本農芸化学会中四国支部学生奨励賞. 日本農芸化学会中四国支部. 2025年3月.
- D-3 赤樫実結*. 生命機能学専攻賞. 2025年3月.

微生物学教育分野 (Laboratory of Microbiology)

なし

発酵化学教育分野 (Laboratory of Fermentation Chemistry)

- C-1 阿野嘉孝*・森島ちひろ*・竹内真慈*. 酢酸菌 PQQ 依存性グルコース脱水素酵素の二糖酸化と構造の相関について. 日本農芸化学会中四国支部第68回講演会. 香川. 2024年6月.
- C-2 金田梨沙*・阿野嘉孝*. キレート耐性を付与した酢酸菌キノプロテイン・グリセロール脱水素酵素による5-ケトグルコン酸生産. 第76回日本生物工学会大会. 東京. 2024年9月.
- C-3 阿野嘉孝*. Gluconobacter 属酢酸菌の多彩な糖質酸化と食品の高機能化. 酢酸菌研究会第12回研究集会. 山口. 2024年11月.
- C-4 金田梨沙*・阿野嘉孝*. グリセロール脱水素酵素の pH と補因子要求性の関係. 酢酸菌研究会第12回研究集会. 山口. 2024年11月.
- C-5 竹内真慈*・河野結衣・森島ちひろ・阿野嘉孝*. オリゴ糖酸生産を目指した酢酸菌膜結合型グルコース脱水素酵素の解析. 酢酸菌研究会第12回研究集会. 山口. 2024年11月.
- C-6 渡部亜弥・中原優菜・松本浩司・阿野嘉孝*. 高糖濃度環境下での継代培養が酢酸菌にもたらした影響. 酢酸菌研究会第12回研究集会. 山口. 2024年11月.
- C-7 金田梨沙*・阿野嘉孝*. PQQ 依存性グリセロール脱水素酵素の補因子と酵素機能の関係. 日本農芸化学会2025年度大会. 札幌. 2025年3月.
- D-1 阿野嘉孝*. 「お酢だけじゃない! 酢酸菌のちから」. 第67回四国醸造酢協会愛媛県総会 特別講演. 2024年6月.
- D-2 金田梨沙*. 日本生物工学会西日本支部学生奨励賞. 2024年12月20日.
- D-3 阿野嘉孝*. 微生物を見てみよう! 愛媛大学ジュニアドクター育成塾開講講座. 2025年1月11日.

動物細胞工学教育分野 (Laboratory of Animal Cell Technology)

- B1-1 青井悦子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 余暇の運動と軽度認知障害及び認知症との関連に関する系統的レビュー. 四国公衆衛生学会雑誌. 70:e1. 2025.

- B2-1 Nishi K*, Nakatani Y, Ishida M*, Kadota, Sugahara T*. Anti-inflammatory activity of the combination of nobiletin and docosahexaenoic acid in lipopolysaccharide-stimulated RAW 264.7 cells: a potential synergistic anti-inflammatory effect. *Nutrients*. 16: 2080. 2024.
- B2-2 Nishi K*, Hirakawa T*, Izumi M, Kageyama N*, Yurue S*, Ozaki A, Toga Y*, Ishida M*, Sugahara T*. Inhibitory effect of dipeptides containing acidic amino acid residue on degranulation of RBL-2H3 cells. *Applied Sciences*. 14: 7048. 2024.
- B2-3 Murata M*, Takahashi R, Marugame Y, Fujimura Y, Tachibana H. Delphinidin induces a fast-to-slow muscle fiber type shift through the AMPK signaling pathway in C2C12 myotubes. *Biochemistry and Biophysics Reports*. 40: 101884. 2024.
- B2-4 Nakayama D*, Nishi K*, Gurusmatika S*, Ishida M*, Sugahara T*. Immunostimulatory effect of cumin (*Cuminum cyminum*) seed water-soluble extract on macrophages. *Journal of Functional Food and Nutraceutical*. 6: 83–93. 2025.
- B2-5 Kusakabe K, Inoue A, Ohnishi T, Nakamura Y, Ohtsuka Y, Nishikawa M, Yano H, Choudhury ME, Murata M*, Matsumoto S, Suehiro S, Yamashita D, Shigekawa S, Watanabe H, Kunieda T. Hypoxia-regulated CD44 and α CT expression contributes to late postoperative epilepsy in glioblastoma. *Biomedicines*. 13: 372. 2025.
- B2-6 細川江梨子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 高血圧者における高血圧未治療と関連する要因解明に関する横断研究. *四国公衆衛生学会雑誌*. 70 : e5. 2025.
- B2-7 Asida F, Mayangsari Y, Suroto DA, Utami T, Nishi K*, Ishida M*, Sugahara T*. Anti-allergic effect of kefir from goat milk with *Lactiplantibacillus plantarum* Dad-13: *in vitro* evaluation. *Journal of Food Bioactives*. In press. 2025.
- C-1 Sugahara T*. Effect of peptides as functional food: modern approach for allergy management. Student-led webinar: *Nutraceuticals & Functional Foods*. Keynote speaker. UCSI University. Malaysia. Online. April, 2024
- C-2 菅原卓也*・平川泰己*・和泉光将・洵江千緑*・石田萌子*・西甲介*. グルタミン酸含有ジペプチドの脱顆粒抑制効果に関する研究. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.189. 福岡市. 2024年5月.
- C-3 村田希*・竹内陽奈子・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. デルフィニジンにより放出が誘導されたマイクロRNAの機能解析. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.199. 福岡市. 2024年5月.
- C-4 中川一志*・石田萌子*・西甲介*・吉野七海・恩田浩幸・菅原卓也*. カルダモン由来イソコロナリンDの抗炎症効果に関する研究. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.276. 福岡市. 2024年5月.
- C-5 石田萌子*・金光穂乃花*・山内聡・土居幹治・木下義浩・菅原卓也*. 微生物代謝物ネオエキヌリンAの抗アレルギー効果. 2024年度生物機能研究会. 要旨 p. S-5. 宮崎市. 2024年7月.
- C-6 Sugahara T*. Functional foods in Japan: Regulation and effects on health. International Conference of Biological, Environment, Agriculture, and Food (ICoBEAF2024). Keynote speaker. Ahmad Dahlan University. Indonesia. Online. July, 2024.
- C-7 小野遥香*・藤岡舞*・金仁恵・戒能亮太*・芝美優香*・中田晶大・今井祐記・菅原卓也*・西甲介*. テトラメトキシルテオリンの破骨細胞分化抑制効果に関する研究. 日本動物細胞工学会2024年度大会 (JAACT2024). 要旨 p.106. 東京. 2024年7月.
- C-8 岡田侑明果・石田萌子*・西甲介*・恩田浩幸・菅原卓也*. クローブエタノール抽出物の抗アレルギー効果に関する研究. 日本動物細胞工学会2024年度大会 (JAACT2024). 要旨 p.108. 東京. 2024年7月.
- C-9 Sugahara T*. Development of functional food from wasted citrus peel for achievement of sustainable society. International Seminar; *Harvesting Resilience: Navigating Food Security Challenges in a Changing Climate*. Keynote speaker. Warmadewa University. Denpasar, Indonesia. July, 2024.
- C-10 Sugahara T*, Minobe S*, Nakagawa K*, Ishida M*, Nishi K*, Yoshino N, Onda H. Studies on the anti-

- inflammation effect of cardamom ethanol extract. The 8th International Symposium on Phytochemicals in Medicine and Food (8-ISPMF). Keynote speaker. Abstract p. 25. Shenyang, China. August, 2024.
- C-11 Sugahara T*, Hirakawa T*, Izumi M, Yurue S*, Ishida M*, Nishi K*. Anti-allergic effect of glutamyl dipeptides. The 22nd World Congress of Food Science and Technology (IUFoST2024). Abstract p. 404. Rimini, Italy. September, 2024.
- C-12 Ishida M*, Kanamitsu H*, Yamauchi S, Doi M, Kinoshita Y, Sugahara T*. Anti-allergic effect of neochinin A. The 22nd World Congress of Food Science and Technology (IUFoST2024). Abstract p. 560. Rimini, Italy. September, 2024.
- C-13 Sugahara T*. Health functions of spices and herbs. International Webinar and Virtual International Summer Class 2024: Cultural Literacy; Wellness Culture for Sustainable Wellbeing. Keynote speaker. Institute of Technology and Education Markandeya Baali. Bangli, Indonesia. August, 2024.
- C-14 小野遥香*・藤岡舞*・金仁恵・西脇寿・戒能亮太*・芝美優香*・中田晶大・今井祐記・菅原卓也*・西甲介*. テトラメトキシルテオリンの破骨細胞分化抑制効果. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 52. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-15 坂本希美・村田希*・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. 緑茶カテキン EGCG の細胞外小胞を介した生体調節作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 52. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-16 堀妃麻利・村田希*・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. 緑茶カテキン EGCG の筋線維型変換作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 53. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-17 中川一志*・石田萌子*・西甲介*・吉野七海・恩田浩幸・菅原卓也*. イソコロナリン D の抗炎症効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 53. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-18 伊東周馬*・西甲介*・石田萌子*・恩田浩幸・菅原卓也*. 香辛料エタノール抽出物の組合せによる抗炎症効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 54. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-19 尾崎愛花里・石田萌子*・西甲介*・菅原卓也*. 酸性アミノ酸含有ジペプチドの抗アレルギー効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 66. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-20 岡田侑明果・石田萌子*・西甲介*・恩田浩幸・菅原卓也*. クローブの脱顆粒抑制効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 67. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-21 濱田皓平*・石田萌子*・西甲介*・伊藤亮・菅原卓也*. センジュサイ葉エタノール抽出物の破骨細胞分化抑制作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 67. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-22 濱本成美・石田萌子*・西甲介*・菅原卓也*. ハダカムギふすま水溶性抽出物の脱顆粒抑制効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 68. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-23 Sugahara T*. International Journal Writing Lecture. Invited Lecture. University of Jember. Jember, Indonesia. December, 2024.
- C-24 菅原卓也*・高石萌加・西甲介*・石田萌子*・土居幹治・松本淳一. ニボシ水溶性抽出物の破骨細胞分化抑制効果. 第 10 回あしなが予防医学研究会. 盛岡市. 2025 年 2 月.
- C-25 細川江梨子・三宅吉博・田中景子・西甲介*. 高血圧者における高血圧未治療と関連する要因解明に関する横断研究. 令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山市. 2025 年 2 月.
- C-26 青井悦子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 余暇の運動と軽度認知障害及び認知症との関連に関する系統的レビュー. 令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山市. 2025 年 2 月.
- C-27 Takaishi M, Nishi K*, Yanagihara Y, Imai Y, Ishida M*, Doi M, Matsumoto J, Sugahara T*. Study on the

- inhibitory effect of water-soluble extract of dried sardines (niboshi) on osteoclast differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 12. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-28 Murata M*, Takahashi R. Delphinidin induces a fast-to-slow muscle fiber type shift through the AMPK signaling pathway in C2C12 myotubes. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 13. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-29 Ono H*, Fujioka M*, Kim I-H, Nishiwaki H, Kaino R*, Nakata A, Imai Y, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the inhibitory effect of flavonoid A on osteoclast differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 14. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-30 Sakurai M*, Kim I-H, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the inhibitory effect of flavonoid A on adipocyte differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 15. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-31 Tsujioka M*, Nishi K*, Ishida M*, Ito R, Sugahara T*. Studies on anti-inflammatory effect of udo leaf ethanol extracts. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 19. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-32 Gurusmatika S*, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Exploring the anti-inflammatory of clove aqueous extract on LPS-stimulated macrophages and SIRS model in mice. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 20. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-33 Hamamoto N, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Studies on the anti-allergic effect of the water-soluble extract of naked barley bran. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 21. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-34 Hyodo K*, Okuyama S, Tanaka J, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the anti-inflammatory effects of flavonoids on microglia. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 22. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-35 Nakaya S*, Teng Z*, Nishi K*, Ishida M*, Shimazu K, Fukumitsu S, Sugahara T*. Studies on anti-degranulation activity of flaxseed water-soluble dietary fiber extract. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 23. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-36 Okada Y, Ishida M*, Nishi K*, Onda H, Sugahara T*. Research on the anti-allergic effects of clove ethanol extract. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 24. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-37 Inoue M, Ishida M*, Nishi K*, Hibi Y, Sugahara T*. Studies on anti-allergic effect of leaf aqueous extracts. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 26. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-38 Takano T, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Studies on the anti-allergic effect of citrus peel-blanching and defrosting solutions. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 27. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-39 Matsumoto S*, Yamauchi S, Nishi K*, Sugahara T*, Ishida M*. Studies on the inhibitory effect of matairesinol on adipocyte differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 28. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-40 Nakagawa K*, Ishida M*, Nishi K*, Yoshino N, Onda H, Sugahara T*. Studies on anti-inflammatory effect of isocoronarin D. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 29. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-41 Ishimaru N, Ishida M*, Nishi K*, Fukuda Y, Sasuga Y, Sugahara T*. Anti-inflammatory effect of fermented soy milk. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 30. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-42 Ishida M*, Takekuni C*, Nishi K*, Sugahara T*. Anti-inflammatory effect of *p*-synephrine on

- lipopolysaccharide-induced inflammatory responses in RAW264.7 cells. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 31. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-43 Hoshikawa Y*, Kim I-H, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the anti-inflammatory effects of flavonoid A. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 32. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- D-1 池田剛・中嶋圭介・吉野七海・中村俊輔・恩田浩幸・葛西雅博・小池麻里子・菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. 2-O-トランス-カフェオイルヒドロキシクエン酸の製造方法. 国際出願 WO 2024/071421. 2024年4月公開.
- D-2 菅原卓也*・恩田浩幸. 抗アレルギー剤. 特許第 7474432 号. 2024年4月登録.
- D-3 菅原卓也*. NHK 松山放送局. ひめポン. 「追求! ひめポン 機能性表示食品」. 2024年4月26日.
- D-4 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. 実践型インターンシッププログラム 愛媛 FoodCamp の運営. 2024年5月~11月.
- D-5 菅原卓也*. 食べて健康になる方法~食品の機能性について~. 愛媛県立松山西中等教育学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年7月22日.
- D-6 菅原卓也*. 食べて健康になる方法~みかんを食べて花粉症予防~. 愛媛大学附属高等学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年8月21日.
- D-7 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. インドネシア国際生命科学大学 短期交流学生1人の受入. 2024年8月26日~11月20日.
- D-8 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*・吉野七海・恩田浩幸. 抗炎症組成物. 特願 2024-160606. 2024年9月出願.
- D-9 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第1回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月8日
- D-10 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第2回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月15日
- D-11 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第3回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月22日
- D-12 中川一志*. 日本農芸化学会 2024年度中四国支部大会優秀発表賞. イソコロナリン D の抗炎症効果に関する研究. 2024年10月.
- D-13 菅原卓也*. 食べて健康になる方法 食品の機能性について~みかんを食べて花粉症予防~. 新田青雲中等教育学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年11月6日.
- D-14 石田萌子*. 動物培養細胞を用いた食品成分の機能性評価: 抗アレルギー効果や抗肥満効果. 愛媛県立松山南高等学校理数科スーパーサイエンス高大連携授業 (農学講座). 松山市. 2024年11月21日
- D-15 菅原卓也*. 愛媛の微生物発酵茶 石鎚黒茶の秘密 ~石鎚黒茶の健康効果の研究~. 愛媛県立西条高等学校高大連携出張講義. 西条市. 2024年12月5日.
- D-16 西甲介*・金仁恵・新藤幹雄. 抗炎症剤. 特願 2024-233106. 2024年12月出願.
- D-17 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. SUIJI 修士学生 1人の受入. 2025年2月1日~9月31日.
- D-18 菅原卓也*. フジテレビ. ぽかぽか. 「シーズン到来! 名医が教える花粉症対策 SP 花粉症に効く食事&超最新治療 徹底解説」. 2025年2月5日.
- D-19 菅原卓也*. 愛媛朝日テレビ. スーパーJチャンネルえひめ. 「愛媛は平均比2倍超飛散予想 県内花粉症対策の最前線に迫る」. 2025年2月19日.
- D-20 菅原卓也*. 機能性表示食品をわかりやすく解説. コープ愛媛松山東ブロック 暮らしの大学. 松山市. 2025年2月21日.
- D-21 菅原卓也*. 愛媛新聞. 「食品表示理解深めて 違いなど解説 コープえひめ 松山で講演会」. 2025年2月24日.
- D-22 Sugahara T*. Strengthening International Publication through International Collaboration. Invited Lecturer.

Institute of Technology and Education Markandeya Bali. Bangli, Indonesia. February, 2025.

- D-23 Sugahara T*. Development of functional foods for food security in Japan -To achieve healthy life-. Invited Lecture. Warmadewa University. Denpasar, Indonesia. March, 2025.
- D-24 菅原卓也*. 愛媛新聞. 「香辛料使い機能性食品 愛媛大 開発へ学術協定 インドネシアの大学などと締結」. 2025年3月12日.
- D-25 兵頭慧真*. 生命機能学科 卒業論文優秀発表賞. 2025年3月.

遺伝子制御工学教育分野 (Laboratory of Molecular Physiology and Genetics)

- A-1 河田美幸*・関藤孝之*・「出芽酵母における AirID による相互作用因子の同定」. リアルな相互作用を捉える近接依存性標識プロトコール. 澤崎達也・小迫英尊 編集. 羊土社. p109-117. 2024年.
- C-1 田上慶佳*・大西祥太*・川内凜子*・尾坂夏味*・市村悠*・野澤彰・金井宗良・小迫英尊・澤崎達也・関藤孝之*・河田美幸*. 酵母液胞膜タンパク質 Vsb1 の機能解析. 第 65 回日本生化学会中国四国支部例会. 発表番号 2B05. 島根. 2024年6月.
- C-2 尾坂夏味*・川内凜子*・山口翔吾*・河田美幸*・関藤孝之*. 出芽酵母におけるリジンによる生育阻害の作用機序. 第 65 回日本生化学会中国四国支部例会. 発表番号 2B04. 島根. 2024年6月.
- C-3 寺下晴夏*・勝野井渉真*・山本悠介*・佐藤有美香*・石本品也*・國米春香*・野澤彰・小迫英尊・澤崎達也・関藤孝之*・河田美幸*. 液胞アミノ酸トランスポーターAvt4 のリン酸化による制御について. 第 65 回日本生化学会中国四国支部例会. 発表番号 2B03. 島根. 2024年6月.
- C-4 中城遥登*・岡村良悟*・中川栞*・河田美幸*・関藤孝之*. オートファジーリジンリサイクルの生理的意義. 酵母遺伝学フォーラム第 57 回研究報告会. 発表番号 IV-4. 香川. 2024年9月.
- C-5 尾坂夏味*・川内凜子*・村尾奈美*・中城遥登*・河田美幸*・関藤孝之*. リジンによる生育阻害のメカニズム. 酵母遺伝学フォーラム第 57 回研究報告会. 発表番号 P25. 香川. 2024年9月.
- C-6 岡村良悟*・中城遥登*・中川栞*・河田美幸*・関藤孝之*. 液胞中性アミノ酸排出トランスポーター多重欠損株の解析. 酵母遺伝学フォーラム第 57 回研究報告会. 発表番号 P26. 香川. 2024年9月.
- C-7 三木梨花・西脇寿・秋山浩一*・山内聡. 3-(1-aryl-1-hydroxyprop-2-yl)coumarin と 3 置換 α -benzylidene- γ -butyrolactone の立体異性体の合成と, 植物生長抑制活性と抗カビ活性の評価. 日本農芸化学会中国四国支部第 69 回講演会. 発表番号 E-9. 愛媛. 2024年9月.
- C-8 Okazaki M*, Mitomo H*, Sato A*, Onishi K*, Nozawa A, Kosako H, Sawasaki T, Kawano-Kawada M*, Sekito T*. The regulation of Avt1 thorough the N-terminal hydrophilic region. The Protein Island Matsuyama 2024, the 22nd International Symposium. P-30. 愛媛大学. 2024年11月.
- C-9 八木新葉*・大西香奈恵*・河田美幸*・関藤孝之*. 液胞アミノ酸トランスポーターAvt3 の制御について. 第 41 回 YEAST WORKSHOP. 発表番号 48. 鹿児島. 2024年11月.
- C-10 岡崎真士*・御供遥*・佐藤明香音*・大西香奈恵*・野澤彰・小迫英尊・澤崎達也・河田美幸*・関藤孝之*. 液胞アミノ酸トランスポーターAvt1 の N 末端親水性領域制御は活性と安定性を制御する. 第 41 回 YEAST WORKSHOP. 発表番号 49. 鹿児島. 2024年11月.
- C-11 岡村良悟*・中城遥登*・中川栞*・河田美幸*・関藤孝之*. 飢餓条件で液胞からのアミノ酸排出を抑えるとどうなるか? 第 41 回 YEAST WORKSHOP. 発表番号 50. 鹿児島. 2024年11月.
- C-12 勝野井渉真*・寺下晴夏*・山本悠介*・佐藤有美香*・石本品也*・國米春香*・野澤彰・小迫英尊・澤崎達也・関藤孝之*・河田美幸*. 排出系液胞アミノ酸トランスポーターAvt4 と TORC1 の相互作用について. 第 41 回 YEAST WORKSHOP. 発表番号 51. 鹿児島. 2024年11月.
- C-13 尾坂夏味*・田上慶佳*・村尾奈美*・濱田和*・中城遥登*・河田美幸*・関藤孝之*. リジン添加によって誘導されるトランスポーター液胞内移行の作用機序. 第 47 回日本分子生物学会年会. 発表番号 1P-395. 福岡. 2024年11月.
- C-14 中城遥登*・岡村良悟*・中川栞*・河田美幸*・関藤孝之*. 液胞アミノ酸リサイクルの窒素飢餓条件での生存への寄与について. 第 47 回日本分子生物学会年会. 発表番号 2P-392. 福岡. 2024年11月.

- C-15 亀岡真由・川内凜子*・尾坂夏味*・関藤孝之*。液胞に塩基性アミノ酸を蓄積しない細胞の表現型を探る。第47回日本分子生物学会年会。発表番号 HS-P-03。福岡。2024年11月。
- C-16 田上慶佳*・大西祥太*・尾坂夏味*・川内凜子*・市村悠*・野澤彰・金井宗良・小迫英尊・澤崎達也・関藤孝之*・河田美幸。酵母 Vsb1 による塩基性アミノ酸液胞内蓄積の生理的意義について。日本農芸化学会中四国支部第70回講演会。発表番号 A-4。広島。2025年1月。
- C-17 寺下晴夏*・勝野井渉真*・山本悠介*・野澤彰・小迫英尊・澤崎達也・関藤孝之*・河田美幸*。TORC1 と液胞アミノ酸トランスポーターAvt4 の相方向制御。日本農芸化学会中四国支部第70回講演会。発表番号 A-5。広島。2025年1月。
- C-18 堤麻結・益村晃司・金井宗良・河田美幸*・曾我朋義・関藤孝之*・水沼正樹。液胞膜に局在する ABC トランスポーターによる寿命制御機構に関する研究。日本農芸化学会中四国支部第70回講演会。発表番号 A-6。広島。2025年1月。
- D-1 秋山浩一*・河田美幸*・関藤孝之*・村田希。令和6年度遺伝子組換え生物実験公開講座／愛媛大学農学部生命機能学科高大連携企画。2024年8月8日。
- D-2 八木新葉*。第41回 YEAST WORKSHOP。優秀発表賞。2024年11月。
- D-3 中城遥登*。生命機能学専攻 修士論文優秀発表賞。2025年3月。
- D-4 田上慶佳*。生命機能学科 卒業論文優秀発表賞。2025年3月。

細胞分子機能学教育分野 (Laboratory of molecular and cellular functions)

- C-1 水関海里*・小室美雨*・中山さくら*・秋田充*。PL 法を用いた大腸菌ペリプラズム蛋白質相互作用因子の検索。日本農芸化学会中四国支部大会 (第69回講演会)。松山。2024年9月。
- C-2 Akita M*・Mizuseki K*・Itoh R*・Morikawa K*・Komuro M*・Nakayama S*。Biotin ligase-based proximity labeling techniques to study protein localization。第22回松山国際学術シンポジウム&PRiME 共同研究発表会。松山。2024年11月。
- C-3 秋田充*。蛋白質局在研究への近位依存性ビオチン標識法の適用。第5回細胞形成研究会。盛岡。2025年2月。

地域健康栄養学分野 (Laboratory of Community Health and Nutrition)

- A-1 磯博康・丸山広達*。第6章主要疾患の疫学と予防対策 1. がん, 2. 循環器疾患。管理栄養士講座三訂公衆衛生学 (第5版)。建帛社。123-137。2024。
- B2-1 Yamamoto N, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T, Kawamura R, Takata Y, Osawa H. Patterns of daily ambulatory activity and the onset of metabolic syndrome in middle-aged and older Japanese women: the Toon health study. *Environmental Health and Preventive Medicine*. 30: 11. 2025.
- B2-2 Toda M*, Maruyama K*, Saito I, Tanaka S, Takeuchi Y, Okubo H, Kato T. Relationship between daily eating habits and occurrence of stroke in the O city cohort I survey: a 26-year follow-up of residents in rural Japan. *Journal of Rural Medicine*. 20: 28-38. 2025.
- B2-3 Li J*, Yoshimura K*, Sasaki M*, Maruyama K*. The consumption of high-amylose rice and its effect on postprandial blood glucose levels: A literature review. *Nutrients*. 23: 4013. 2024.
- B2-4 Tanno S, Ikeda A, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T. Association between iron intake and excessive daytime sleepiness in the community-dwelling Japanese: the Toon health study. *Sleep and Breathing*. 29: 50. 2024.
- B2-5 Matsuo R, Ikeda A, Tomooka K, Naito Y, Uesugi Y, Maruyama K*, Kawamura R, Takata Y, Osawa H, Saito I, Tanigawa T. Longitudinal changes in arterial stiffness associated with physical activity intensity: the Toon health study. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis*. 31: 171-179. 2024.
- B2-6 Yoshida A, Takata Y, Tabara Y, Maruyama K*, Inoue S, Osawa H, Sugiyama T. Interaction effect between low birthweight and resistin gene rs1862513 variant on insulin resistance and type 2 diabetes mellitus in adulthood: Toon genome study. *Journal of Diabetes Investigation*. 15: 725-735. 2024.

- B2-7 Yamamoto N, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T, Kawamura R, Takata Y, Osawa H. Prospective association of daily ambulatory activity with metabolic syndrome in middle-aged and older Japanese adults: the Toon health study. *International Journal of Obesity*. 48: 733–740. 2024.
- B2-8 Li J*, Maruyama K*, Minakuchi S, Toshimitu K, Kawamura R, Takata Y, Osawa H. Effect of high-amylose rice "Hoshinishiki" on postprandial glucose levels measured by continuous glucose monitoring in patients with diabetes. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*. 74: 230–234. 2024.
- B2-9 Funakoshi Y, Maruyama K*, Kato T, Saito I, Takanashi N, Tanno K, Yamagishi K, Muraki I, Yasuda N, Arima K, Nakashima H, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Sawada N. Association of depressive symptoms with incident fractures: the Japan Public Health Center-based Prospective Study for the Next Generation (JPHC-NEXT). *Osteoporosis International*. 35: 1261–1271. 2024.
- B2-10 Narita Z, Hidese S, Kanehara R, Tachimori H, Hori H, Kim Y, Kunugi H, Arima K, Mizukami S, Tanno K, Takanashi N, Yamagishi K, Muraki I, Yasuda N, Saito I, Maruyama K*, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Sawada N. Association of sugary drinks, carbonated beverages, vegetable and fruit juices, sweetened and black coffee, and green tea with subsequent depression: a five-year cohort study. *Clinical Nutrition*. 43: 1395–1404. 2024.
- B2-11 川上大志・川上美由紀・丸山広達*・田中景子・三宅吉博・山口修. カフェイン摂取と心房細動：システマティックレビューによる検討. *四国公衆衛生学会雑誌*. 70 : e2. 2025.
- C-1 李佳*・丸山広達*・宮崎さおり*・古川結唯*・石木純*・金田みなみ*・中島悦子・田中洋子. 健常者を対象とした高アミロース米お粥摂取後の静脈血と毛細血の血糖値の比較. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024年5月.
- C-2 川口真瑠*・丸山広達*. 保健機能食品の利用と体重変化との関連. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024年5月.
- C-3 織井教光*・丸山広達*・友岡清秀・谷川武・斉藤功. 脂肪酸摂取量と血清尿酸値との関連：東温スタディ. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024年5月.
- C-4 木下徹*・白川蒼・半田英里・白川かほる・日野美江子・橋本佳友喜・丸山広達*. ユビキノール(還元型コエンザイム Q10)の長期摂取による認知機能の維持・改善効果の検証. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024年5月.
- C-5 宮崎さおり*・丸山広達・友岡清秀・谷川武・斉藤功. 地域在住の高齢女性における家族の介護時間と糖尿病との関連：東温スタディ. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-6 木下徹*・丸山広達*. ユビキノール含有ヨーグルトを活用した地域住民の健康維持・増進活動. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-7 斉藤功・船越弥生・内山田健次・山内加奈子・丸山広達*・加藤匡宏. ネステッド症例対照研究による血清コレステロールと循環器疾患発症との関連：大洲コホート II. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-8 船越弥生・丸山広達*・内山田健次・山内加奈子・加藤匡宏・斉藤功. 血清 EPA/AA 比と高トリグリセリド血症との関連：大洲コホート II. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-9 加藤祐子・野田愛・友岡清秀・丸山広達*・斉藤功・谷川武. 内臓肥満が無い住民における睡眠呼吸障害とメタボリックシンドロームに関する縦断研究. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-10 浅井ゆかり・野田愛・田島朋知・シャルヴァ・アドリアン・丸山広達*・友岡清秀・斉藤功・谷川武. ソーシャルサポートと軽度認知障害との関連：東温スタディ. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-11 田中希依・野田愛・Hadrien Charvat・佐藤准子・鈴木有佳・丸山広達*・友岡清秀・和田裕雄・谷川武. 就労女性の家庭の経済的状況と不眠との関連. 第83回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024年10月.
- C-12 駒橋玲子・野田愛・丸山広達*・山岸良匡・今野弘規・清水悠路・村木功・大平哲也・岡田武夫・木

山昌彦・磯博康・谷川武. 肉類摂取量と循環器疾患発症との関連について：CIRCS 研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.

- C-13 李麒声・野田愛・友岡清秀・丸山広達*・陶山啓子・斉藤功・谷川武. ビタミン B 群摂取量と軽度認知障害との関連について. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.
- C-14 川口真瑠*・丸山広達*. ダイエット食品の種類と体重変化との関連. 第 70 回四国公衆衛生学会総会令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山. 2025 年 2 月.
- C-15 織井教光*・丸山広達*. 脂質摂取と高尿酸血症発症との関連：東温スタディ. 第 70 回四国公衆衛生学会総会令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山. 2025 年 2 月.
- C-16 岡藤智秋*・丸山広達*. 健康づくり団体に加入する高齢者の歩行・自転車移動許容距離と虚弱傾向との関連. 第 35 回日本疫学会学術総会. 高知. 2025 年 2 月.
- C-17 Aziz Shoaib*, Koutatsu Maruyama*, Kiyohide Tomooka, Takeshi Tanigawa, Isao Saito. Association between low carbohydrate diet score with the incidence of hypertension: The Toon Health Study. 第 35 回日本疫学会学術総会. 高知. 2025 年 2 月.
- C-18 Kaleem Nawal*, Koutatsu Maruyama*, Kiyohide Tomooka, Takeshi Tanigawa, Isao Saito. Longitudinal relationship between eating behaviors and BMI: The Toon Health Study. 第 35 回日本疫学会学術総会. 高知. 2025 年 2 月.
- C-19 Yuliana Ivo*, Koutatsu Maruyama*, Ai Ikeda, Kiyohide Tomooka, Takeshi Tanigawa, Isao Saito. The association of caregiving time with dietary habits and other lifestyles among Japanese aging women. 第 35 回日本疫学会学術総会. 高知. 2025 年 2 月.
- D-1 猪川聡美*・吉田守美子・横田一郎・細川モモ・丸山広達*. 小児期からの骨粗鬆症予防-ビタミン D 欠乏と食育に着目して-. Medical Science Digest. 50 : 499-501. 2024.
- D-2 猪川聡美*・堤理恵・吉田守美子・松田幸恵・丸山広達*. 乳幼児においてビタミン D 欠乏および貧血をスクリーニングする意義と課題—こどもの健康な発育・発達を支える栄養教育のために—. Medical Science Digest. 51 : 224-226. 2025.
- D-3 丸山広達*. 社会参加でフレイル予防. 令和 6 年度 東温市衛生委員会 保健衛生講座. 愛媛県東温市. 2024 年 4 月.
- D-4 丸山広達*. 社会参加とフレイル予防. 令和 6 年度東温市第 2 回いきいき健康講座. 愛媛県東温市. 2024 年 7 月.
- D-5 丸山広達*. 大学の先生って?. 松山市立窪田小学校 6 年生 総合的な学習の時間. 愛媛県松山市. 2024 年 11 月.
- D-6 丸山広達*. 学童期の食事～成人期の健康課題となる食事要因に着目して～. 令和 6 年度健康教育研修会・がん教育等現代的な健康課題研修会. 愛媛県松山市. 2024 年 12 月.
- D-7 丸山広達*. 大洲市の健康課題について～コホート研究から見えてきたこと～. 令和 6 年度大洲市食生活改善推進員教育事業研修会. 愛媛県大洲市. 2024 年 12 月.
- D-8 丸山広達*. 健診データからみる東温市民の健康状態における課題と生活習慣の改善について. 令和 6 年度とうおん健康づくりの会記念講演. 愛媛県東温市. 2025 年 3 月.

健康機能栄養科学特別コース (Special Course of Food and Health Science)

食品機能学教育分野 (Laboratory of Functional Food Science)

- B1-1 青井悦子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 余暇の運動と軽度認知障害及び認知症との関連に関する系統的レビュー. 四国公衆衛生学会雑誌. 70 : e1. 2025.
- B2-1 Nishi K*, Nakatani Y*, Ishida M*, Kadota, Sugahara T*. Anti-inflammatory activity of the combination of nobiletin and docosahexaenoic acid in lipopolysaccharide-stimulated RAW 264.7 cells: a potential

- synergistic anti-inflammatory effect. *Nutrients*. 16: 2080. 2024.
- B2-2 Nishi K*, Hirakawa T, Izumi M*, Kageyama N, Yurue S, Ozaki A*, Toga Y, Ishida M*, Sugahara T*. Inhibitory effect of dipeptides containing acidic amino acid residue on degranulation of RBL-2H3 cells. *Applied Sciences*. 14: 7048. 2024.
- B2-3 Murata M*, Takahashi R*, Marugame Y, Fujimura Y, Tachibana H. Delphinidin induces a fast-to-slow muscle fiber type shift through the AMPK signaling pathway in C2C12 myotubes. *Biochemistry and Biophysics Reports*. 40: 101884. 2024.
- B2-4 Nakayama D, Nishi K*, Gurusmatika S, Ishida M*, Sugahara T*. Immunostimulatory effect of cumin (*Cuminum cyminum*) seed water-soluble extract on macrophages. *Journal of Functional Food and Nutraceutical*. 6: 83-93, 2025.
- B2-5 Kusakabe K, Inoue A, Ohnishi T, Nakamura Y, Ohtsuka Y, Nishikawa M, Yano H, Choudhury ME, Murata M*, Matsumoto S, Suehiro S, Yamashita D, Shigekawa S, Watanabe H, Kunieda T. Hypoxia-regulated CD44 and α CT expression contributes to late postoperative epilepsy in glioblastoma. *Biomedicines*. 13: 372. 2025.
- B2-6 細川江梨子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 高血圧者における高血圧未治療と関連する要因解明に関する横断研究. *四国公衆衛生学会雑誌*. 70 : e5. 2025.
- B2-7 Asida F, Mayangsari Y, Suroto DA, Utami T, Nishi K*, Ishida M*, Sugahara T*. Anti-allergic effect of kefir from goat milk with *Lactiplantibacillus plantarum* Dad-13: *in vitro* evaluation. *Journal of Food Bioactives*. In press. 2025.
- C-1 Sugahara T*. Effect of peptides as functional food: modern approach for allergy management. Student-led webinar: Nutraceuticals & Functional Foods. Keynote speaker. UCSI University. Malaysia. Online. April, 2024
- C-2 菅原卓也*・平川泰己・和泉光将*・淘江千緑・石田萌子*・西甲介*. グルタミン酸含有ジペプチドの脱顆粒抑制効果に関する研究. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.189. 福岡市. 2024年5月.
- C-3 村田希*・竹内陽奈子*・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. デルフィニジンにより放出が誘導されたマイクロRNAの機能解析. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.199. 福岡市. 2024年5月.
- C-4 中川一志・石田萌子*・西甲介*・吉野七海・恩田浩幸・菅原卓也*. カルダモン由来イソコロナリンDの抗炎症効果に関する研究. 第78回日本栄養・食糧学会大会. 要旨 p.276. 福岡市. 2024年5月.
- C-5 石田萌子*・金光穂乃花・山内聡・土居幹治・木下義浩・菅原卓也*. 微生物代謝物ネオエキヌリンAの抗アレルギー効果. 2024年度生物機能研究会. 要旨 p. S-5. 宮崎市. 2024年7月.
- C-6 Sugahara T*. Functional foods in Japan: Regulation and effects on health. International Conference of Biological, Environment, Agriculture, and Food (ICoBEAF2024). Keynote speaker. Ahmad Dahlan University. Indonesia. Online. July, 2024.
- C-7 小野遥香・藤岡舞・金仁恵・戒能亮太・芝美優香・中田晶大・今井祐記・菅原卓也*・西甲介*. テトラメトキシルテオリンの破骨細胞分化抑制効果に関する研究. 日本動物細胞工学会2024年度大会(JAACT2024). 要旨 p.106. 東京. 2024年7月.
- C-8 岡田侑明果*・石田萌子*・西甲介*・恩田浩幸・菅原卓也*. クローブエタノール抽出物の抗アレルギー効果に関する研究. 日本動物細胞工学会2024年度大会(JAACT2024). 要旨 p.108. 東京. 2024年7月.
- C-9 Sugahara T*. Development of functional food from wasted citrus peel for achievement of sustainable society. International Seminar; Harvesting Resilience: Navigating Food Security Challenges in a Changing Climate. Keynote speaker. Warmadewa University. Denpasar, Indonesia. July, 2024.
- C-10 Sugahara T*, Minobe S, Nakagawa K, Ishida M*, Nishi K*, Yoshino N, Onda H. Studies on the anti-inflammation effect of cardamom ethanol extract. The 8th International Symposium on Phytochemicals in Medicine and Food (8-ISPMF). Keynote speaker. Abstract p. 25. Shenyang, China. August, 2024.

- C-11 Sugahara T*, Hirakawa T, Izumi M*, Yurue S, Ishida M*, Nishi K*. Anti-allergic effect of glutamyl dipeptides. The 22nd World Congress of Food Science and Technology (IUFOST2024). Abstract p. 404. Rimini, Italy. September, 2024.
- C-12 Ishida M*, Kanamitsu H, Yamauchi S, Doi M, Kinoshita Y, Sugahara T*. Anti-allergic effect of neoechinulin A. The 22nd World Congress of Food Science and Technology (IUFOST2024). Abstract p. 560. Rimini, Italy. September, 2024.
- C-13 Sugahara T*. Health functions of spices and herbs. International Webinar and Virtual International Summer Class 2024: Cultural Literacy; Wellness Culture for Sustainable Wellbeing. Keynote speaker. Institute of Technology and Education Markandeya Baali. Bangli, Indonesia. August, 2024.
- C-14 小野遥香・藤岡舞・金仁恵・西脇寿・戒能亮太・芝美優香・中田晶大・今井祐記・菅原卓也*・西甲介*. テトラメトキシシルテオリンの破骨細胞分化抑制効果. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 52. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-15 坂本希美*・村田希*・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. 緑茶カテキン EGCG の細胞外小胞を介した生体調節作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 52. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-16 堀妃麻利*・村田希*・丸亀裕貴・藤村由紀・立花宏文. 緑茶カテキン EGCG の筋線維型変換作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 53. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-17 中川一志・石田萌子*・西甲介*・吉野七海・恩田浩幸・菅原卓也*. イソコロナリン D の抗炎症効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 53. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-18 伊東周馬・西甲介*・石田萌子*・恩田浩幸・菅原卓也*. 香辛料エタノール抽出物の組合せによる抗炎症効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 54. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-19 尾崎愛花里*・石田萌子*・西甲介*・菅原卓也*. 酸性アミノ酸含有ジペプチドの抗アレルギー効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 66. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-20 岡田侑明果*・石田萌子*・西甲介*・恩田浩幸・菅原卓也*. クローブの脱顆粒抑制効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 67. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-21 濱田皓平・石田萌子*・西甲介*・伊藤亮・菅原卓也*. センジュサイ葉エタノール抽出物の破骨細胞分化抑制作用に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 67. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-22 濱本成美*・石田萌子*・西甲介*・菅原卓也*. ハダカムギふすま水溶性抽出物の脱顆粒抑制効果に関する研究. 日本農芸化学会 2024 年度中四国支部大会 (第 69 回講演会). 要旨 p. 68. 松山市. 2024 年 9 月.
- C-23 Sugahara T*. International Journal Writing Lecture. Invited Lecture. University of Jember. Jember, Indonesia. December, 2024.
- C-24 菅原卓也*・高石萌加*・西甲介*・石田萌子*・土居幹治・松本淳一. ニボシ水溶性抽出物の破骨細胞分化抑制効果. 第 10 回あしなが予防医学研究会. 盛岡市. 2025 年 2 月.
- C-25 細川江梨子・三宅吉博・田中景子・西甲介*. 高血圧者における高血圧未治療と関連する要因解明に関する横断研究. 令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山市. 2025 年 2 月.
- C-26 青井悦子・田中景子・西甲介*・三宅吉博. 余暇の運動と軽度認知障害及び認知症との関連に関する系統的レビュー. 令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山市. 2025 年 2 月.
- C-27 Takaishi M*, Nishi K*, Yanagihara Y, Imai Y, Ishida M*, Doi M, Matsumoto J, Sugahara T*. Study on the inhibitory effect of water-soluble extract of dried sardines (niboshi) on osteoclast differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 12.

Matsuyama, Japan. March, 2025.

- C-28 Murata M*, Takahashi R*. Delphinidin induces a fast-to-slow muscle fiber type shift through the AMPK signaling pathway in C2C12 myotubes. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 13. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-29 Ono H, Fujioka M, Kim I-H, Nishiwaki H, Kaino R, Nakata A, Imai Y, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the inhibitory effect of flavonoid A on osteoclast differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 14. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-30 Sakurai M, Kim I-H, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the inhibitory effect of flavonoid A on adipocyte differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 15. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-31 Tsujioka M, Nishi K*, Ishida M*, Ito R, Sugahara T*. Studies on anti-inflammatory effect of udo leaf ethanol extracts. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 19. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-32 Gurusmatika S, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Exploring the anti-inflammatory of clove aqueous extract on LPS-stimulated macrophages and SIRS model in mice. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 20. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-33 Hamamoto N*, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Studies on the anti-allergic effect of the water-soluble extract of naked barley bran. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 21. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-34 Hyodo K, Okuyama S, Tanaka J, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the anti-inflammatory effects of flavonoids on microglia. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 22. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-35 Nakaya S, Teng Z, Nishi K*, Ishida M*, Shimazu K, Fukumitsu S, Sugahara T*. Studies on anti-degranulation activity of flaxseed water-soluble dietary fiber extract. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 23. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-36 Okada Y*, Ishida M*, Nishi K*, Onda H, Sugahara T*. Research on the anti-allergic effects of clove ethanol extract. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 24. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-37 Inoue M*, Ishida M*, Nishi K*, Hibi Y, Sugahara T*. Studies on anti-allergic effect of leaf aqueous extracts. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 26. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-38 Takano T*, Ishida M*, Nishi K*, Sugahara T*. Studies on the anti-allergic effect of citrus peel-blanching and defrosting solutions. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 27. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-39 Matsumoto S, Yamauchi S, Nishi K*, Sugahara T*, Ishida M*. Studies on the inhibitory effect of matairesinol on adipocyte differentiation. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 28. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-40 Nakagawa K, Ishida M*, Nishi K*, Yoshino N, Onda H, Sugahara T*. Studies on anti-inflammatory effect of isocoronarin D. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 29. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-41 Ishimaru N*, Ishida M*, Nishi K*, Fukuda Y, Sasuga Y, Sugahara T*. Anti-inflammatory effect of fermented soy milk. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 30. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- C-42 Ishida M*, Takekuni C, Nishi K*, Sugahara T*. Anti-inflammatory effect of *p*-synephrine on lipopolysaccharide-induced inflammatory responses in RAW264.7 cells. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 31. Matsuyama, Japan. March, 2025.

- C-43 Hoshikawa Y, Kim I-H, Shindo M, Sugahara T*, Nishi K*. Studies on the anti-inflammatory effects of flavonoid A. The International Symposium on Health Function of Spices, Herbs and Phytochemicals. Abstract p. 32. Matsuyama, Japan. March, 2025.
- D-1 池田剛・中嶋圭介・吉野七海・中村俊輔・恩田浩幸・葛西雅博・小池麻里子・菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. 2-O-トランス-カフェオイルヒドロキシクエン酸の製造方法. 国際出願 WO 2024/071421. 2024年4月公開.
- D-2 菅原卓也*・恩田浩幸. 抗アレルギー剤. 特許第 7474432 号. 2024年4月登録.
- D-3 菅原卓也*. NHK 松山放送局. ひめポン. 「追求! ひめポン 機能性表示食品」. 2024年4月26日.
- D-4 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. 実践型インターンシッププログラム 愛媛 FoodCamp の運営. 2024年5月~11月.
- D-5 菅原卓也*. 食べて健康になる方法~食品の機能性について~. 愛媛県立松山西中等教育学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年7月22日.
- D-6 菅原卓也*. 食べて健康になる方法~みかんを食べて花粉症予防~. 愛媛大学附属高等学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年8月21日.
- D-7 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. インドネシア国際生命科学大学 短期交流学生1人の受入. 2024年8月26日~11月20日.
- D-8 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*・吉野七海・恩田浩幸. 抗炎症組成物. 特願 2024-160606. 2024年9月出願.
- D-9 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第1回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月8日
- D-10 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第2回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月15日
- D-11 西甲介*. 愛媛大学食品健康機能研究センターと愛媛大学大学院医農融合公衆衛生学環について (第3回). FM 愛媛 For Your Nature Life supported by EHIME UNIVERSITY. 2024年9月22日
- D-12 菅原卓也*. 食べて健康になる方法 食品の機能性について~みかんを食べて花粉症予防~. 新田青雲中等教育学校高大連携出張講義. 松山市. 2024年11月6日.
- D-13 石田萌子*. 動物培養細胞を用いた食品成分の機能性評価: 抗アレルギー効果や抗肥満効果. 愛媛県立松山南高等学校理数科スーパーサイエンス高大連携授業 (農学講座). 松山市. 2024年11月21日
- D-14 菅原卓也*. 愛媛の微生物発酵茶 石鎚黒茶の秘密 ~石鎚黒茶の健康効果の研究~. 愛媛県立西条高等学校高大連携出張講義. 西条市. 2024年12月5日.
- D-15 菅原卓也*・西甲介*・石田萌子*. SUJII 修士学生 1人の受入. 2025年2月1日~9月31日.
- D-16 西甲介*・金仁恵・新藤幹雄. 抗炎症剤. 特願 2024-233106. 2024年12月出願.
- D-17 菅原卓也*. フジテレビ. ぽかぽか. 「シーズン到来! 名医が教える花粉症対策 SP 花粉症に効く食事&超最新治療 徹底解説」. 2025年2月5日.
- D-18 菅原卓也*. 愛媛朝日テレビ. スーパーJチャンネルえひめ. 「愛媛は平均比2倍超飛散予想 県内花粉症対策の最前線に迫る」. 2025年2月19日.
- D-19 菅原卓也*. 機能性表示食品をわかりやすく解説. コープ愛媛松山東ブロック 暮らしの大学. 松山市. 2025年2月21日.
- D-20 菅原卓也*. 愛媛新聞. 「食品表示理解深めて 違いなど解説 コープえひめ 松山で講演会」. 2025年2月24日.
- D-21 Sugahara T*. Strengthening International Publication through International Collaboration. Invited Lecturer. Institute of Technology and Education Markandeya Bali. Bangli, Indonesia. February, 2025.
- D-22 Sugahara T*. Development of functional foods for food security in Japan -To achieve healthy life-. Invited Lecture. Warmadewa University. Denpasar, Indonesia. March, 2025.
- D-23 菅原卓也*. 愛媛新聞. 「香辛料使い機能性食品 愛媛大 開発へ学術協定 インドネシアの大学などと

締結」。2025年3月12日。

食品微生物機能学教育分野 (Laboratory of Food Microbial Biotechnology)

- C-1 阿野嘉孝*・森島ちひろ*・竹内真慈*。酢酸菌 PQQ 依存性グルコース脱水素酵素の二糖酸化と構造の
相関について。日本農芸化学会中四国支部第 68 回講演会。香川。2024 年 6 月。
- C-2 金田梨沙*・阿野嘉孝*。キレート耐性を付与した酢酸菌キノプロテイン・グリセロール脱水素酵素に
よる 5-ケトグルコン酸生産。第 76 回日本生物工学会大会，東京。2024 年 9 月。
- C-3 阿野嘉孝*。Gluconobacter 属酢酸菌の多彩な糖質酸化と食品の高機能化。酢酸菌研究会第 12 回研究
集会。山口。2024 年 11 月。
- C-4 金田梨沙*・阿野嘉孝*。グリセロール脱水素酵素の pH と補因子要求性の関係。酢酸菌研究会第 12 回
研究集会。山口。2024 年 11 月。
- C-5 竹内真慈*・河野結衣・森島ちひろ・阿野嘉孝*。オリゴ糖酸生産を目指した酢酸菌膜結合型グルコー
ス脱水素酵素の解析。酢酸菌研究会第 12 回研究集会。山口。2024 年 11 月。
- C-6 渡部亜弥・中原優菜・松本浩司・阿野嘉孝*。高糖濃度環境下での継代培養が酢酸菌にもたらした影
響。酢酸菌研究会第 12 回研究集会。山口。2024 年 11 月。
- C-7 金田梨沙*・阿野嘉孝*。PQQ 依存性グリセロール脱水素酵素の補因子と酵素機能の関係。日本農芸
化学会 2025 年度大会。札幌。2025 年 3 月。
- D-1 阿野嘉孝*。「お酢だけじゃない！酢酸菌のちから」。第 67 回四国醸造酢協会愛媛県総会 特別講演。
2024 年 6 月。
- D-2 金田梨沙*。日本生物工学会西日本支部学生奨励賞。2024 年 12 月 20 日。
- D-3 阿野嘉孝*。微生物を見てみよう！愛媛大学ジュニアドクター育成塾開講講座。2025 年 1 月 11 日。

地域健康栄養学分野 (Laboratory of Community Health and Nutrition)

- A-1 磯博康・丸山広達*。第 6 章主要疾患の疫学と予防対策 1. がん, 2. 循環器疾患。管理栄養士講座三
訂公衆衛生学 (第 5 版)。建帛社。123-137。2024。
- B2-1 Yamamoto N, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T, Kawamura R, Takata Y, Osawa H. Patterns of
daily ambulatory activity and the onset of metabolic syndrome in middle-aged and older Japanese women:
the Toon health study. Environmental Health and Preventive Medicine. 30: 11. 2025.
- B2-2 Tanno S, Ikeda A, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T. Association between iron intake and
excessive daytime sleepiness in the community-dwelling Japanese: the Toon health study. Sleep and
Breathing. 29: 50. 2024.
- B2-3 Matsuo R, Ikeda A, Tomooka K, Naito Y, Uesugi Y, Maruyama K*, Kawamura R, Takata Y, Osawa H, Saito I,
Tanigawa T. Longitudinal changes in arterial stiffness associated with physical activity intensity: the Toon
health study. Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 31: 171-179. 2024.
- B2-4 Yoshida A, Takata Y, Tabara Y, Maruyama K*, Inoue S, Osawa H, Sugiyama T. Interaction effect between low
birthweight and resistin gene rs1862513 variant on insulin resistance and type 2 diabetes mellitus in
adulthood: Toon genome study. Journal of Diabetes Investigation. 15: 725-735. 2024.
- B2-5 Yamamoto N, Maruyama K*, Saito I, Tomooka K, Tanigawa T, Kawamura R, Takata Y, Osawa H. Prospective
association of daily ambulatory activity with metabolic syndrome in middle-aged and older Japanese adults:
the Toon health study. International Journal of Obesity. 48: 733-740. 2024.
- B2-6 Funakoshi Y, Maruyama K*, Kato T, Saito I, Takanashi N, Tanno K, Yamagishi K, Muraki I, Yasuda N, Arima
K, Nakashima H, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M, Tsugane S, Sawada N. Association of depressive symptoms
with incident fractures: the Japan Public Health Center-based Prospective Study for the Next Generation
(JPHC-NEXT). Osteoporosis International. 35: 1261-1271. 2024.
- B2-7 Narita Z, Hidese S, Kanehara R, Tachimori H, Hori H, Kim Y, Kunugi H, Arima K, Mizukami S, Tanno K,
Takanashi N, Yamagishi K, Muraki I, Yasuda N, Saito I, Maruyama K*, Yamaji T, Iwasaki M, Inoue M,

Tsugane S, Sawada N. Association of sugary drinks, carbonated beverages, vegetable and fruit juices, sweetened and black coffee, and green tea with subsequent depression: a five-year cohort study. *Clinical Nutrition*. 43: 1395–1404. 2024.

- B2-8 川上大志・川上美由紀・丸山広達*・田中景子・三宅吉博・山口修. カフェイン摂取と心房細動：システマティックレビューによる検討. 四国公衆衛生学会雑誌. 70 : e2. 2025.
- C-1 金田みなみ*・丸山広達*・友岡清秀・谷川武・斉藤功. 高齢日本人男女における外食頻度と SMI および位相角との関連：東温スタディ. 第 78 回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024 年 5 月.
- C-2 佐々木穂*・李佳*・丸山広達*. Web 文献検索ツールを使用した高アミロース米摂取後の血糖値への影響に関する文献レビューの正確性について. 第 78 回日本栄養・食糧学会大会. 福岡. 2024 年 5 月.
- C-3 金田みなみ*・丸山広達*・友岡清秀・谷川武・斉藤功. 高齢者における外食頻度と低栄養との関連：東温スタディ. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.
- C-4 横井友梨*・丸山広達*・友岡清秀・谷川武・斉藤功. 魚介類摂取量と睡眠の質との横断的関連：東温スタディ. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.
- C-5 石木純*・丸山広達*・友岡清秀・谷川武・斉藤功. ビタミン A 摂取量と軽度認知障害出現との関連：東温スタディ. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.
- C-6 古川結唯*・丸山広達*・宮崎さおり・山岸良匡・今野弘規・清水悠路・村木功・大平哲也・岡田武夫・木山昌彦・磯博康. 米飯の摂り方と虚血性心疾患発症に関するコホート内症例対照研究：CIRCS 研究. 第 83 回日本公衆衛生学会総会. 札幌. 2024 年 10 月.
- C-7 高田陽奈*・丸山広達*. ダイエット食品のロコミによるダイエット食品の継続的な食べ方について. 第 70 回四国公衆衛生学会総会令和 6 年度四国公衆衛生研究発表会. 松山. 2025 年 2 月.
- D-1 丸山広達*. ふろらぼ 研究室で学んでみませんか、「食と健康」をキーワードに栄養疫学的視点での教育・研究を行う（愛媛大学大学院 農学研究科生命機能学専攻 健康機能栄養科学特別コース 地域健康栄養学分野）. 臨床栄養. 146 : 218-219.. 2025.
- D-2 丸山広達*. 社会参加でフレイル予防. 令和 6 年度 東温市衛生委員会 保健衛生講座. 愛媛県東温市. 2024 年 4 月.
- D-3 丸山広達*. 社会参加とフレイル予防. 令和 6 年度東温市第 2 回いきいき健康講座. 愛媛県東温市. 2024 年 7 月.
- D-4 丸山広達*. 大学の先生って？. 松山市立窪田小学校 6 年生 総合的な学習の時間. 愛媛県松山市. 2024 年 11 月.
- D-5 丸山広達*. 学童期の食事～成人期の健康課題となる食事要因に着目して～. 令和 6 年度健康教育研修会・がん教育等現代的な健康課題研修会. 愛媛県松山市. 2024 年 12 月.
- D-6 丸山広達*. 大洲市の健康課題について～コホート研究から見えてきたこと～. 令和 6 年度大洲市食生活改善推進員教育事業研修会. 愛媛県大洲市. 2024 年 12 月.
- D-7 丸山広達*. 健診データからみる東温市民の健康状態における課題と生活習慣の改善について. 令和 6 年度とうおん健康づくりの会記念講演. 愛媛県東温市. 2025 年 3 月.

生物環境学科

(Department of Science and Technology for Biological Resources and Environment)

森林資源科学専門教育コース (Course of Forest Resources)

森林遺伝学教育分野 (Laboratory of Forest Genetics)

- B2-1 Rachmat HH, Kamiya K*, Yulita KS, Hidayat A, Susilowati A. Genetic structuring of the wild *Aquilaria malaccensis* population from Indonesia inferred by *trnL-trnF* and *trnH-psbA*. Iranian Journal of Science. 48: 541–552. 2024. <https://doi.org/10.1007/s40995-024-01623-x>
- B2-2 Dwiyantri FG, Kustiyantri, NF, Kamiya K*, Rachmat HH, Majiudu M, Wat R, Siregar IZ. Evaluation of phenotypic and genetic characteristics of *Dryobalanops aromatica* (Dipterocarpaceae) seedlings growing in peat and mineral media. HAYATI Journal of Biosciences. 32: 27–40. 2024. <https://doi.org/10.4308/hjb.32.1.27-40>
- C-1 Kamiya K*. Interspecific hybridization of tropical rainforest trees in Southeast Asia. XXVI World Congress of the International Union of Forest Research Organizations (IUFRO). Stockholm, Sweden. June 2024.
- C-2 Ogasahara M, Rahayu SS, Faizah M, Kenzo T, Yoneda R, Mohamad AA, Khoo E, Gumal M, Diway B, Siregar IZ, Lum SKY, Kamiya K*. Genetic structure of *Shorea curtisii* and *S. leprosula* (Dipterocarpaceae) in Southeast Asia using MIG-seq. Annual Meeting of the Society for Molecular Biology and Evolution (SMBE). Puerto Vallarta, Mexico. July 2024.
- C-3 Nasri*, Kamiya K*, Shimamura T, Ichie T. The importance of karst formation to conserve *Hopea celebica* Burck. in Bantimurung Bulusaraung National Park, Indonesia. The 5th International Conference on Environment and Forest Conservation. Bogor, Indonesia. December 2024.

森林資源生物学分野 (Laboratory of Forest Resources Biology)

- B2-1 Shimamura T*, Neishi R*, Poesie ES*, Momose K*, Ninomiya I*, Limin SH. A comparison of organic matter dynamics among degraded, dam-restored, and preserved peat swamp forests. International Journal of Environmental and Rural Development. 15: 27–34. 2024
- B2-2 Enoki T, Uchiyama C, Takagi M, Ugawa S, Nabeshima E*, Ishii H. Plasticity of leaf functional traits and growth responses to disturbance among cutting cultivars of *Cryptomeria japonica* in southern Japan. Journal of Forest Research 26: 440–449. 2024
- C-1 Shimamura T*, Poesie ES, Kusin K, Adi Jaya. Annual variation in litterfall in tropical peat swamp forests. 第34回日本熱帯生態学会大会. 福井市. 2024年6月
- C-2 Shimamura T* Forest and leaf type. Spatial Seminar Graduate School of Forestry. Palangka Raya University, Palangka Raya, Indonesia. September 2024
- C-3 Shimamura T*, An introduction to tropical peat swamp forest. Spatial Seminar (Kulia Tamu) Faculty of Forestry, University of Hsanuddin, Makassar Indonesia. December 2024.
- C-4 Shimamura T*, Poesie ES, Kusin K, Adi Jaya. Peat fire and spatio-temporal variation in litterfall in tropical peat swamp forests. 第72回日本生態学会大会. 札幌市. 2025年3月.
- C-5 鍋嶋絵里*・木村諒. GIS解析を用いた四国内における主要樹種の適地予測. 第72回日本生態学会大会. 札幌市. 2025年3月.

森林資源利用システム教育分野 (Laboratory of Wood Science and Technology)

- C-1 Sugimoto H*, Maruyama K*, Sugimori M*. Optical properties of spectrally irradiated wood. 11th European Conference on Wood Modification. Firenze. 2024年4月.
- C-2 丸山開*・杉元宏行*・杉森正敏*. 可視光照射処理木材の分光特性. 日本色彩学会第55回全国大会 福岡. 2024年6月.
- C-3 秋本真子*・杉元宏行*・杉森正敏*. 熱処理が木材の可視光特性に及ぼす影響Ⅱ-異なる処理温度の影響-. 第75回日本木材学会大会. 仙台. 2025年3月.
- C-4 丸山開*・杉元宏行*・杉森正敏*. 紫外・可視光照射処理木材の分光特性—心辺材での比較—. 第75回日本木材学会大会. 仙台. 2025年3月.

森林環境制御教育分野 (Laboratory of Geo-ecosystem Control and Watershed Management)

- A-1 Kimura T*, Sato G, Ozaki T, Thang NV, Wakai A. Landslide susceptibility in a highly-cultivated hilly region: artificial slope construction in 1963-1979 and subsequent 2018 landslide event in Omishima western Japan. In: Hazarika H, Haigh SK, Chaudhary B, Murai M, Manandhar S (eds) Natural Geo-Disasters and Resiliency. Lecture Notes in Civil Engineering (LNCE), vol. 445, 463-469. Springer Singapore, 2024.
- B2-1 栗本享宥・苅谷愛彦・山田隆二・木村誇*・目代邦康・佐藤昌人. 岐阜県郡上市水沢上の大規模斜面崩壊：地形・地質特性および1586年天正地震との関係. 日本地すべり学会誌. 62:13-21. 2025.
- B3-1 横川佳依・木村誇*. 正規化植生指数の季節変動が崩壊地抽出精度に与える影響～2016年4月熊本地震によって林地と草地で発生した斜面崩壊を例に～. 令和6年度四国森林・林業研究発表集. 63-68. 2025.
- C-1 苅谷愛彦・中西利典・木村恵樹・山田隆二・木村誇*・村松武・青島晃・北川浩之. 堰き止め湖沼堆積物の14C年代から探る大谷崩の発達過程. 日本第四紀学会2024年大会. 宮城県仙台市. 2024年8月.
- C-2 木村誇*. 近年の豪雨による斜面崩壊の規模-頻度分布に過去の土地利用・土地被覆の変遷や雨量の空間分布が及ぼす影響. 第63回日本地すべり学会研究発表会. 宮城県仙台市. 2024年9月.
- C-3 太田遥介・若井明彦・佐藤剛・木村誇*・土佐信一・横山修・尾崎昂嗣・蜂屋孝太郎・高橋啓. 豪雨時の斜面崩壊を再現したひずみ軟化型の弾粘塑性シミュレーション. 第63回日本地すべり学会研究発表会. 宮城県仙台市. 2024年9月.
- C-4 齋藤慎之佑・佐藤剛・尾崎昂嗣・木村誇*. 瀬戸内海島嶼部を対象とした崩壊に伴う土石流流下範囲の推定～平成30年西日本豪雨により発生した土石流の再現シミュレーションを基に～. 第63回日本地すべり学会研究発表会. 宮城県仙台市. 2024年9月.
- C-5 山田隆二・村松武・寺岡義治・苅谷愛彦・木村誇*. 遠山川上流・矢筈山くずれによって形成された堰止湖の痕跡. 第63回日本地すべり学会研究発表会. 宮城県仙台市. 2024年9月.
- C-6 齋藤慎之佑・佐藤剛・尾崎昂嗣・木村誇*. 愛媛県・興居島を対象とした崩壊に伴う土石流流下範囲の推定—平成30年7月豪雨で発生した土石流の再現シミュレーションを活用して. 日本山の科学会2024年秋季研究大会. 長野県大町市. 2024年11月.
- C-7 横川佳依・木村誇*. 正規化植生指数の季節変動が崩壊地抽出精度に与える影響～2016年4月熊本地震によって林地と草地で発生した斜面崩壊を例に～. 令和6年度四国森林・林業研究発表会. 高知県高知市. 2025年1月.
- C-8 鍋嶋絵里・木村誇*. GIS解析を用いた四国内における主要樹種の適地予測. 日本生態学会第72回全国大会. 北海道札幌市. 2025年3月.
- C-9 齋藤慎之佑・佐藤剛・尾崎昂嗣・木村誇*. 瀬戸内海・興居島を対象とした崩壊に伴う土石流流下範囲の推定—平成30年7月豪雨により発生した土石流シミュレーションを基に—. 日本地理学会2025年春季学術大会. 東京都世田谷区. 2025年3月.
- C-10 佐藤剛・若井明彦・Vu Le Minh・Nguyen Van Thang・木村誇*・山口朱莉. 2024年台風YAGIの豪雨によりベトナム・ラオカイ省で発生した大規模地すべり. 日本地理学会2025年春季学術大会. 東京都世田谷区. 2025年3月.
- D-1 木村誇*. 西日本豪雨から6年～あの日を忘れない～ 「この経験を活かす」災害に強い地域づくりとは. 南海放送「NEWS CH.4」. 2024年7月8日.
- D-2 木村誇*. 愛媛・松山市土砂崩れ. 読売テレビ「ウェークアップ」. 2024年7月13日.
- D-3 木村誇*. 斜面変動および土砂移動発生場の地形的特徴. 第2回松山市城山斜面崩壊・緑町土砂災害調査速報会. 愛媛県松山市. 2024年7月28日.
- D-4 木村誇*. 斜面変動および土砂移動の発生要因について. 第3回松山市城山斜面崩壊・緑町土砂災害調査速報会. 愛媛県松山市. 2024年8月10日.
- D-5 木村誇*. 土砂災害どう防ぐ 愛媛大研究者に聞く <上>山際に宅地拡大 被害増 課題は避難促進. 愛媛新聞社. 2024年9月20日付朝刊4面.

- D-6 木村誇*. 土砂災害どう防ぐ 愛媛大研究者に聞く <中>県内のリスク 強度の弱い地層に懸念. 愛媛新聞社. 2024年9月21日付朝刊4面.
- D-7 木村誇*. 土砂災害どう防ぐ 愛媛大研究者に聞く <下>無流水溪流対策 網羅は困難、選別・集中を. 愛媛新聞社. 2024年9月22日付朝刊4面.
- D-8 木村誇*. 近年の豪雨災害とその特徴. 愛媛県森林土木協会・令和6年度森林土木事業担当職員研修会. 愛媛県松山市. 2024年11月8日.
- D-9 木村誇*. 山と森と水との関係を紐解く. 宇摩森林組合・土曜森林林業講座. 愛媛県四国中央市. 2024年12月14日.

森林化学教育分野 (Laboratory of Forest Chemistry)

- B2-1 Indrianingsih AW, Styaningrum P, Suratno, Windarsih A, Suryani R, Noviana E, Itoh K*. The effect of extraction method on biological activity and phytochemical content of *Artocarpus heterophyllus* (jackfruit) leaves extract concurrent with its principal component analysis. *Process Biochemistry*. 143: 135–147. 2024.
- C-1 田中寿郎・伊藤和貴*. 理科教員を目指す学生への実験安全教育. 第14回 REHSE 環境安全研究発表会. 東京. 2025年3月3日.

森林資源計画教育分野 (Laboratory of Forest Resources Planning)

- B2-1 Hirano T, Ohkubo S, Itoh M, Tsuzuki H*, Sakabe A, Takahashi H, Kusin K, Osaki M. Large variation in carbon dioxide emissions from tropical peat swamp forests due to disturbances. *Communications Earth & Environment*. 5: 221. 2024. <https://doi.org/10.1038/s43247-024-01387-7>.
- B2-2 Dalya N*, Tsuzuki H*, Oue H. Biomass by an organ in understory vegetation: Study comparison among upper story tree species. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*. 1277: 012028. 2024. doi: 10.1088/1755-1315/1277/1/012028
- B2-3 Dalya N*, Tsuzuki H*, Oue H. The seasonal pattern of stem diameter growth and litter accumulation based on meteorological conditions in *Pinus merkusii* Plantation Forest on Sulawesi Island, Indonesia. *Open Journal of Forestry*, in press.
- C-1 都築勇人*. 里山を構成する森林を対象としたデジタル計測. 生態工学会年次大会公開シンポジウム「中山間地域と里山の持続可能性に貢献する農林業 DX」. 日本農業気象学会. 松山市. 2024年6月29日.
- C-2 Dalya N*, Tsuzuki H*, Oue H. The influence of environmental factors on stem diameter growth and litter Accumulation: Embracing Changes in Soil Moisture and Climate. The 5th International Conference on Environment and Forest Conservation 2024 (ICEFC 2024). Division in Forest Conservation in the Anthropocene: Adapting to New Environmental Resilience. IPB University, Bogor, Indonesia. Abstract ID: CLI005. Dec 5, 2024.

森林環境管理学教育分野 (Laboratory of Forest Environment Management)

- C-1 Akie Kawasaki*. Who will do the work in the future?: the current status of self-employed forestry contractors in Japan. the XXVI IUFRO World Congress 2024. Stockholmsmässan. 2024年6月.

地域環境工学専門教育コース (Course of Rural Engineering)

施設基盤学研究室 (Laboratory of Geotechnical and Geoenvironmental Engineering)

- B2-1 倉澤智樹・井上一哉・小林範之*. CT画像による間隙分析と数値解析を連携したドロマイト内部の流動・輸送特性の評価. 土木学会論文集. 81: 24-16033. 2025.

- B2-2 Izumi T, Yamashita N, Kobayashi N*. A countermeasure against slope disaster during heavy rain in citrus groves on steep slope - Investigation of soil improvement materials to reduce the rainfall infiltration -. *Journal of Rainwater Catchment Systems*. 30: 49–55. 2025.
- C-1 平石カムイ・武山絵美・小林範之*. 基盤条件からみた中山間地域における非集積型農地管理の成立要因. 2024年度(第73回)農業農村工学会大会講演会要旨集. 349-350. 弘前市. 2024年9月.
- C-2 倉澤智樹・小川凧人・小林範之*. X線CTによる琉球石灰岩の間隙構造と地下水の流動特性の評価. 2024年度(第73回)農業農村工学会大会講演会要旨集. 445-446. 弘前市. 2024年9月.
- C-3 池見孔志・小林範之*・倉澤智樹. 高精度DEMとGISを用いた表層崩壊・深層崩壊開始点の予測. 第79回農業農村工学会中国四国支部講演会. 99-101. 2024年10月.

水資源システム工学教育分野 (Laboratory of Water Resources Engineering)

- B2-1 Sato M, Izumi T*, Abu-Zreig M, Unami U. Linking population fluidity and olive production in Jordan and Syria. *Journal of Arid Land Studies*. 34-S: 39–43. 2024. https://doi.org/10.14976/jals.34.S_39.
- B2-2 山下尚之*・姫野光生・泉智揮*. 重信川水系における水質の長期変動とその変動要因の考察. *Journal of Rainwater Catchment Systems*. 30 : 25–30. 2024.
- B2-3 Izumi T*, Yamashita N*, Kobayashi N. A countermeasure against slope disaster during heavy rain in citrus groves on steep slope. *Journal of Rainwater Catchment Systems*. 30: 49–55. 2025.
- B2-4 Guo W, Magero E, Unami K, Shinjo H, Izumi T*. A dynamical system model for plant-nutrient interactions with symbiotic nitrogen fixation and Allee effect. *Nonlinear Science*. 2: 100018. 2025. <https://doi.org/10.1016/j.nls.2025.100018>.
- B2-5 Tang Y, Sasaki K, Ihara M, Sugita D, Yamashita* N, Takeuchi H, Tanaka H. Evaluation of virus removal in membrane bioreactor (MBR) and conventional activated sludge (CAS) processes based on long-term monitoring at two wastewater treatment plants. *Water Research*. 253: 121197. 2024.
- C-1 Izumi T*, Yamashita N*, Kobayashi N. An improving method of steep-slope citrus grove to enforce resilience against slope failure due to torrential rain. 19th Conference on Sustainable Development of Energy, Water and Environment Systems. Rome, Italy. September 8–12, 2024.
- C-2 Fujihara M, Watanabe K, Ichion E, Chono S, Izumi T*, Yoshioka H. A computational model for upstream migration of Ayu (*Plecoglossus altivelis*). 24th IAHR-APD Congress. Wuhan, China. October 14–17, 2024.
- C-3 土本陽登・一恩英二・長野峻介・藤原洋一・泉智揮*・藤原正幸. 魚道型落差工が設置された農業水路における魚類の移動と成長. 日本雨水資源化システム学会第32回研究発表会. 東京都. 2024年11月.
- C-4 村上勝亮*・泉智揮*・山下尚之*. 非整数階微分に基づいた1次元非定常拡散方程式の数値解析. 第79回農業農村工学会中国四国支部講演会. 鳥取市. 2024年11月.
- D-1 泉智揮*. 樹園地における斜面崩壊の防災・減災に関する研究. 令和6年度愛媛大学大学院農学研究科・愛媛県農林水産研究所合同研修会. 愛媛大学農学部. 2024年9月6日.
- D-2 泉智揮*. 長期的水需給計画改訂事業に伴う検証業務委託(その2)報告書. 松山市. 2025年3月.

地域水文気象学教育分野 (Laboratory of Hydrometeorology for Environmental Science)

- B2-1 Dalya N*, Tsuzuki H, Oue H*. Biomass by an organ in understory vegetation: Study comparison among upper story tree species. *IOP Conference Series: Earth and Environmental Science*. 1277: 012028. 2024. doi: 10.1088/1755-1315/1277/1/012028
- B2-2 Zaw Y*, Oue H*. Influences of tree characters on throughfall and stemflow from rainfall and fog in Popa Mountain Park, Myanmar. *Journal of Forestry Research*. 35: 1–10. 2024. <https://doi.org/10.1007/s11676-024-01760-4>
- B2-3 Yuliawan T*, Ichwan N*, Ukpoju A*, Irsyad F*, Oue H*. Comparisons of growth, yield, and meteorological properties of rice canopy under double-row (Jajar Legowo and Jejer Manten) and tile transplanting systems.

- Journal of Natural Resources and Environmental Management. 14: 325–340. 2024. doi: 10.29244/jpsl.14.2.325
- B2–4 Ukpoju A*, Oue H*. Estimating the water balance of irrigated rice fields in dry season Makurdi, Nigeria. Journal of Natural Resources and Environmental Management. 14: 611. 2024. <https://doi.org/10.29244/jpsl.14.3.611>
- B2–5 Wardiman D*, Oue H*, Irsyad F*. Rotational rice transplanting schedule to prevent water scarcity in West Sumatra. IOP Conference Series: Earth and Environmental Science. 1426: 012020. 2024. doi:10.1088/1755-1315/1426/1/012020
- B2–6 Nazif Ichwan N*, Yuliawan T*, Ukpoju A*, Oue H*. Effect of irrigating cooler water (ICWr) on canopy temperature of Japonica rice cultivars Himenorin and Nikomaru. Journal of Natural Resources and Environmental Management. 2025. <https://doi.org/10.29244/jpsl.20.1.1-10>
- B2–7 Budiman MAK*, Oue H*. Integrating indigenous knowledge into sustainable forest management for climate change adaptation and mitigation strategies: case from Southern Slopes of Mount Slamet, Indonesia. Journal of Tropical Forest Management, IPB. 31: 41–60. 2025. <https://doi.org/10.7226/jtfm.31.1.41>
- B2–8 Nohara D, Sato Y*, Sumi T. Impact of climate change on seasonal operation of hydropower dam reservoir in heavy snowfall area in Japan using 150-year continuous climate experiment. Proceedings of the 40th IAHR World Congress. Rivers - Connecting Mountains and Coasts. August 21–25, 2023, Vienna, Austria. Edited by Helmut Habersack, Michael Tritthart and Lisa Waldenberger. doi: 10.3850/978-90-833476-1-5_iahr40wcp0388-cd
- B2–9 佐藤嘉展*・野原大督・角哲也. 長期連続気候実験データを用いた安濃ダム給水日数への気候変動影響予測. 土木学会論文集 B1 (水工学). 81. 24-16063. doi.org/10.2208/jscej.24-16063<http://doi.org/10.2208/jscej.24-16063>. 2025.
- B2–10 野原大督・佐藤嘉展*・角哲也. 150年連続実験データを用いた手取川流域貯水池群の利水・発電運用への気候変動影響評価. 土木学会論文集 B1 (水工学). 81. 24-16159. doi.org/10.2208/jscej.24-16159<http://doi.org/10.2208/jscej.24-16159>. 2025.
- C–1 Wardiman D*, Oue H*, Irsyad F*. Rotational rice transplanting schedule to prevent water scarcity in West Sumatra. International Conference of Sustainable Agriculture and Biosystem (6th ICSAB). Department of Agriculture and Biosystem Engineering, Faculty of Agricultural Technology, Andalas University. October 1, 2024.
- C–2 Budiman MAK*, Oue H*. Integrating indigenous knowledge into sustainable forest management for climate change adaptation and mitigation strategies. 3rd International Conference on Environmental, Socio-Economic and Health Impacts of Sustainable Land Management (ICESHISLM). Soil Department, Faculty of Agriculture, Brawijaya University, Malang, Indonesia. October 1, 2024.
- C–3 大上博基*・Yuliawan D*・Ichwan N*. イネ群落温度を低下させる灌漑の効果に関する多層モデルを用いた検討. 令和6年度農業気象学会中四国支部. 中国四国の農業気象. 37: 30–31. 鳥取. 2024年11月29日.
- C–4 Dalya N*, Tsuzuki H, Oue H*. The influence of environmental factors on stem diameter growth and litter accumulation: embracing changes in soil moisture and climate. The 5th International Conference on Environment and Forest Conservation 2024 (ICEFC 2024). IPB University, SEAMEO BIOTROP, and Kastamonu University. Dec 5 to 7, 2024
- C–5 Oue H*, Wardiman D*, Budiman MAK*, Ichwan N*. Comparison in evapotranspiration of two rice cultivars Himenorin and Nikomaru under different transplanting systems. International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM2025). ISAM-I2-6. Kumamoto. March 14, 2025.
- C–6 佐藤嘉展*. 深層学習を用いた石手川ダム貯水率の予測. 令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会. 仙台. 2024年9月5日.
- C–7 佐藤嘉展*. 150年連続気候実験データを用いた深層学習による石手川ダムの貯水率予測. 水文・水資源学会2024年度研究発表会. 東京. 2024年9月10日.

- C-8 佐藤嘉展*・角哲也. 150年連続気候実験データを用いた安濃ダム貯水池運用への気候変動影響評価. 第73回農業農村工学会大会講演会. 青森. 2024年9月11日.
- C-9 佐藤嘉展*・野原大督・角哲也. 長期連続気候実験データを用いた安濃ダム給水日数への気候変動影響予測. 第69回水工学講演会. 富山. 2024年12月3日.
- C-10 野原大督・佐藤嘉展*・角哲也. 150年連続実験データを用いた手取川流域貯水池群の利水・発電運用への気候変動影響評価. 第69回水工学講演会. 富山. 2024年12月4日.
- C-11 佐藤嘉展*. 越知川流況評価について. 越知谷発電所流況調査中間報告会. 大畑コミュニティセンター. 兵庫. 2024年8月20日.
- C-12 服部由将*・佐藤嘉展*. 小水力発電による減水を考慮した生息場評価手法を用いた維持流量の検討. 第79回農業農村工学会中国支部講演会. 鳥取. 2024年10月16日.
- D-1 佐藤嘉展*. 木曾三川における流況シミュレーションのモデル化及び評価. 令和6年度研究成果報告書. 名古屋市上下水道局. 2025年3月.

地域環境整備学教育分野 (Laboratory of Rural Resource Management for Environmental Preservation)

- B-1 Takeuchi I, Haruta S*, Katayama T, Kawahara K. Concentration of two herbicides, Irgarol 1051 and Diuron, in coastal waters of coral reefs and adjacent waters in the northwestern part of Okinawa Island, Japan. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology*. 114: 28. 2025.
- B-2 Ishibashi H, Nishimura S, Tanaka K, Haruta S*, Takayama K, Yamashiro H, Takeuchi I. Transcriptome analysis reveals limited toxic effects of the UV-filter benzophenone-3 (BP-3) on the hermatypic coral *Acropora tenuis* and its symbiotic dinoflagellates. *Marine Pollution Bulletin*, 201: 116260. 2024.
- B-3 中野拓治・李雨桐・治多伸介*. 農業集落排水処理水の灌漑利用からみた回分式活性汚泥法の運転管理. *水環境学会誌*. 48: 27-38. 2025.
- B-4 Kume T*, Iwai CB, Yamamoto T, Shimizu K, Ubukat F, Matsuda H. Development of a biological salt utilization system for management of salt-affected agricultural fields in Khon Kaen, Thailand. *International Journal of Environmental and Rural Development*. 15-2, 9197. 2024.
- C-1 岡愛理*・治多伸介*. 農業集落排水汚泥へのマイクロプラスチックの混入実態と堆肥化による影響. 第59回日本水環境学会年会講演集. 327. 北海道大学. 2025年3月.
- C-2 岡愛理*・治多伸介*・久米崇*・中野拓治. 農業集落排水汚泥に混入するマイクロプラスチックの堆肥化による分解. 第79回農業農村工学会中国四国支部講演会講演要旨集. 164-166. 鳥取市. 2024年10月.
- C-3 治多伸介*. 農村地域における環境汚染物質の現状と農業集落排水処理水・汚泥利用を通じた農地管理の重要性. 第73回農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 2024年9月.
- C-4 Kume T*, Yamamoto T, Boonthai Iwai C, Shimizu K. Implementation of the biological salt utilizing system in Khon Kaen Thailand. 第73回農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 2024年9月.
- C-5 Akca E, Buyuk G, Gurbay O, Ardili C, Kume T*. A regenerative agriculture technique in an almond orchard, SE Türkiye. 第73回農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 2024年9月.
- C-6 Yamamoto T, Shimizu K, Boonthai Iwai C, Kume T*. Salinity dynamics in salt-damaged area due to Drainage channel excavation. 第73回農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 2024年9月.
- C-7 Namse S, Phontusang P, Kume T*, Yamamoto T, Boonthai Iwai C. Assessing soil carbon sequestration in salt-affected areas managed with vermicompost and organic waste materials: a geographic information system approach. *The 16th International Conference on Environmental and Rural Development*. Tokyo University of Agriculture. September, 2024.
- D-1 治多伸介*. 『医』と『農』の融合による地域の活性化をめざして. 日本農業新聞愛媛県大会・愛媛県JA教育文化・家の光セミナー. 松山市. 2024年8月.
- D-2 治多伸介*. 持続可能で安全・安心な農業農村を目指して. 中国四国農業土木事業協会創立50周年記念行事記念講演会. 岡山市. 2024年7月.

農村計画学教育分野 (Laboratory of Rural Planning)

- B2-1 指原豊・上加裕子・大畑秀平・土居義典・有馬誠一・武山絵美*・藤井栄一. 急傾斜地向け走行ユニットの開発と収穫運搬作業への適応性. 農業食料工学会誌. 86 : 231-239. 2024.
- B2-2 大北亮*・武山絵美*. シカの持続的な被害対策とジビエ活用を可能にする捕獲方法. 農業農村工学会誌. 92 : 3-7. 2024.
- B2-3 新田将之*・伊藤海音・廣瀬裕一・二宮仁志. 丘陵地域におけるため池に対する担い手評価構造の世代間比較分析. 農業農村工学会論文集. 92 : I_51-I_63. 2024.
- B2-4 新田将之*・青木宗之. 住民参加型川づくり実施区間における年齢層別にみた親水利用の特徴と環境要因. 河川技術論文集. 30 : 65-70. 2024.
- B2-5 武山絵美*・横山真弓・村上道夫. ニホンイノシシ (*Sus scrofa*) のリスク管理のための頭胴長データによる月齢推定法の開発. リスク学研究. 早期 web 公開済み (2025 年 3 月 25 日).
- C-1 新田将之*・伊藤海音. 天水を利用した伝統的な農業水利システムの継承に向けた実践的課題. 環境科学会 2024 年会. 東京大学. 東京都文京区. 2024 年 9 月.
- C-2 平石カムイ*・武山絵美*・小林範之. 基盤条件からみた中山間地域における非集積型農地管理の成立要因. 令和 6 年度農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 弘前市. 2024 年 9 月.
- C-3 大北亮*・武山絵美*. 都市近郊農村集落における地区中心部へのイノシシの侵入経路. 令和 6 年度農業農村工学会中国四国支部学会. とりぎんホール. 鳥取市. 2024 年 10 月.
- C-4 大北亮*・武山絵美*. ニホンジカの持続的な被害対策とジビエ活用を可能にする捕獲方法の検討. 2023 年度農村計画学会秋期大会学術研究発表会. 茨城大学. 土浦市. 2023 年 12 月.
- D-1 武山絵美*. 展望「中山間地域の未来を創造する」. 農業農村工学会誌. 92 : 1-2. 2024.
- D-2 武山絵美*. 地域社会を支える土地改良区の今, そして未来. 令和 6 年度近畿水土里女性リーダー意見交換会. 招待講演. 兵庫県土地改良会館. 神戸市. 2024 年 11 月 15 日.

地域防災学 (Laboratory of Engineering Mechanics for Disaster Prevention)

- B2-1 稲口知花・倉澤智樹*・鈴木麻里子・井上一哉. 模型実験による地下ダム帯水層内の溶質輸送現象の検討. 農業農村工学会論文集. 92 : I_87-I_98. 2024.
- B2-2 倉澤智樹*・井上一哉・小林範之. CT 画像による間隙分析と数値解析を連携したドロマイト内部の流動・輸送特性の評価. 土木学会論文集. 81 : 24-16033. 2025.
- C-1 倉澤智樹*・小川凧人*・小林範之. X 線 CT による琉球石灰岩の間隙構造と地下水の流動特性の評価. 2024 年度 (第 73 回) 農業農村工学会大会講演会. 弘前大学. 弘前市. 2024 年 9 月.
- C-2 池見孔志・小林範之・倉澤智樹*. 高精度 DEM と GIS を用いた表層崩壊・深層崩壊開始点の予測. 第 79 回農業農村工学会中国四国支部講演会. 鳥取大学. 鳥取市. 2024 年 10 月.
- C-3 松岡走・安元純・中屋眞司・澤野陽介・櫛渕みちる・田原康博・倉澤智樹*・安元剛・宋科翰・新城竜一. GETFLOWS による地下ダム流域における土地利用が地下水中の硝酸性窒素濃度に与える影響評価. 日本地下水学会 2024 年秋季講演会. アオーレ長岡. 長岡市. 2024 年 10 月.
- C-4 松岡走・安元純・澤野陽介・田原康博・倉澤智樹*・中屋眞司・新城竜一. 石灰岩の不均質性を考慮した地下ダム流域の 3 次元水循環モデリング. 令和 6 年度農業農村工学会九州沖縄支部大会. 福岡県中小企業振興センター. 福岡市. 2024 年 10 月.
- C-5 中河哲郎・新矢直士・倉澤智樹*・小野耕平. 石川県町野川下流域における地震・大雨による被害の調査および分析. 地盤工学会四国支部令和 6 年度技術研究発表会. 湯ノ浦温泉汐の丸. 今治市. 2024 年 12 月.
- D-1 倉澤智樹*. 琉球石灰岩帯水層を対象とした地下水流速と間隙率の評価. 愛媛大学農学部紀要. 69 : 6-9. 2024.

生物環境保全学専門教育コース (Course of Environmental Conservation)

生態系保全学教育分野 (Laboratory of Ecosystem Conservation)

- A-1 石橋弘志*・高橋真・中村昌文・Behnisch PA, Besselink H, Brouwer A. PFAS の規制動向と対応技術—分析, 除去, 分解, 代替材料の開発—「有機フッ素化合物による環境汚染と生物影響評価」. 技術情報協会. 237–247 : 2024.
- B1-1 石橋弘志*・平野将司.” 奪われし未来” の今 —内分泌かく乱物質の評価・管理の現状と課題「分子生物学的なアプローチによる内分泌かく乱作用の評価」. 水環境学会誌. 46 : 127–131. 2024.
- B2-1 Ishibashi H*, Nishimura S*, Tanaka K*, Haruta S, Takayama K, Yamashiro H, Takeuchi I*. Transcriptome analysis reveals limited toxic effects of the UV-filter benzophenone-3 (BP-3) on the hermatypic coral *Acropora tenuis* and its symbiotic dinoflagellates. *Marine Pollution Bulletin*. 201: 116260. 2024.
- B2-2 Addai-Arhin S, Shino S, Uchida M, Ishibashi H*, Arizono K, Tominaga N. Toxicity of nickel, copper, and selenium in medaka embryos (*Oryzias latipes*): a comparative study. *The Journal of Toxicological Sciences*. 50: 23–32. 2025.
- C-1 幸田惇志*・内田雅也・平野将司・富永伸明・有菌幸司・石橋弘志*. 初期生活段階のメダカに対する GenX 類縁化合物の発生毒性および抗エストロゲン様作用の評価. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島. 2024 年 7 月.
- C-2 前田和勲・平野将司・林太嘉*・飯田緑・倉田博之・石橋弘志*. ヒトペルオキシソーム増殖剤活性化受容体 α (PPAR α) に結合する PFAS の主要特性の解明:説明可能な機械学習アプローチ. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島. 2024 年 7 月.
- C-3 内田雅也・佐藤ちひろ・平野将司・富永伸明・有菌幸司・石橋弘志*. 海産甲殻類アミに対する紫外線吸収剤の慢性影響評価. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島. 2024 年 7 月.
- C-4 中島舞・佐藤愛佳・佐藤楓夏・水川葉月・野見山佳・横山望・池中良徳・石橋弘志*・高橋真. 室内ダスト中 PFAS の汚染実態とペット動物への曝露評価. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島. 2024 年 7 月.
- C-5 高橋真・有岡舞・岡村奏太郎・水川葉月・奥島千恵・高須賀智奈美・石橋弘志*. 愛媛県で捕獲されたトビの肝臓における PFAS の蓄積濃度と化学組成の経年変化. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島. 2024 年 7 月.
- C-6 水川葉月・中島舞・佐藤愛佳・佐藤楓夏・野見山桂・横山望・池中良徳・石橋弘志*・高橋真. 室内ダスト中ペルおよびポリフルオロアルキル物質 (PFAS) の汚染実態解明とペット動物への曝露源推定. 2024 年室内環境学会学術大会. 北海道. 2024 年 11 月.
- C-7 石橋弘志*・松原健太*・長谷川拓人*・内田雅也・富永伸明・有菌幸司・平野将司. メダカに対する PFAS のエストロゲン様作用: *in silico* および *in vivo* による評価. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京. 2024 年 12 月.
- C-8 小滝優弥・岡崎友紀代・石橋弘志*・高橋真・鏑迫典久. ケージング手法を用いた愛媛県内の河川における内分泌かく乱物質の実態調査. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京. 2024 年 12 月.
- C-9 井上綾乃・内田雅也・平野将司・富永伸明・有菌幸司・石橋弘志*. ネオニコチノイド系農薬が海産甲殻類アミ *Americamysis bahia* の繁殖に及ぼす影響評価. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京. 2024 年 12 月.
- C-10 平野将司・内田雅也・有菌幸司・石橋弘志*. アミ類における有機ハロゲン化合物の毒性影響と QSAR モデルによる毒性評価. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京. 2024 年 12 月.
- D-1 石橋弘志*.” 生物化学的測定で迫る PFAS 汚染の実態」PFAS の毒性研究—主に水生生物を中心に—. 第 29 回生物化学的測定研究会学術シンポジウム. 茨城. 2024 年 11 月.
- D-2 石橋弘志*. 環境化学物質の曝露リスク評価・毒性研究の最前線「次世代型 PFAS の毒性影響評価とその予測手法の開発」. 第 21 回環境先端技術セミナー. 愛媛. 2024 年 11 月.

- D-3 石橋弘志*. PFAS の毒性影響について～水生生物を中心に～. 令和 6 年度漁場環境保全関係研究開発推進会議有害物質研究会. 広島. 2024 年 11 月.

水族保全学 (Laboratory of Fish Conservation)

- B2-1 氏部崇之・川田正明・高木基裕*. 香川県吉野川水系日開谷川で採集されたオヤニラミ. 南予生物フィールドノート. 24006. 2024.
- B2-2 中川孝紀*・高木基裕*. 愛媛県愛南町御荘湾で得られたイソテッポウエビ. 南予生物フィールドノート. 24012. 2024.
- B2-3 中川孝紀*・高木基裕*. 愛媛県愛南町御荘湾で得られたテナガツノヤドカリ. 南予生物フィールドノート. 24015. 2024.
- B2-4 清水孝昭・高木基裕*. 愛媛県瀬戸内海沿岸で確認されたイイジマフクロウニ. 南予生物フィールドノート. 24017. 2024.
- B2-5 高木基裕*・鈴木貴明. 高知県柏島周辺海域で得られたタキベラ成魚. 南予生物フィールドノート. 25001. 2025.
- C-1 藤原成晴*・高木基裕*・竹内久登. マダイ人工種苗における多様性評価. 令和 6 度日本水産学会中国・四国支部例会. 講演要旨集: 203. 2024 年 11 月.
- C-2 大西基文*・高木基裕*. メジナの新規養殖魚としての可能性評価. 令和 6 度日本水産学会中国・四国支部例会. 講演要旨集: P10. 2024 年 11 月.
- C-3 中川孝紀*・高木基裕*. 愛媛県御荘湾干潟における生物相モニタリング. 令和 6 度日本水産学会中国・四国支部例会. 講演要旨集: P11. 2024 年 11 月.
- C-4 川原久美*・藤原成晴*・竹内久登・高木基裕*. ED 光照射飼育によるマダイ人工種苗の成長および行動. 令和 6 度日本水産学会中国・四国支部例会. 講演要旨集: P12. 2024 年 11 月.
- C-5 平松ひより*・高木基裕*. mtDNA 多型を用いたクサフグの集団構造解析. 令和 6 度日本水産学会中国・四国支部例会. 講演要旨集: P13. 2024 年 11 月.
- C-6 藤原成晴*・高木基裕*・竹内久登. マダイ人工種苗にみられた競合、摂餌および横臥行動. 令和 7 度日本水産学会春季大会. 講演要旨集: 156. 2025 年 3 月.
- D-1 高木基裕*. 令和 6 年度伊方原発周辺海域における付着生物調査報告書. 2025.
- D-2 高木基裕*. 令和 6 年度愛南町漁場環境改善事業 愛南町沿岸海域の漁場環境改善に係る研究開発受託成果報告書. 愛南町. 2025.
- D-3 高木基裕*. 令和 6 年度愛南町新規養殖魚等研究開発事業 新規養殖対象種メジナ天然種苗の成長と体サイズ選別効果およびマダイエドワジエラ症に対するメジナの耐性評価受託成果報告書. 愛南町. 2025.
- D-4 高木基裕*. 養殖コスト削減に向けた植食性魚種メジナの新規養殖魚としての可能性評価. 令和 6 年度愛媛大学研究協力会特別講演会. 11 月. 講演要旨集. 2024.

水族繁殖生理学研究室 (Laboratory of Fish Reproductive Physiology)

- B1-1 三浦猛*. 昆虫を用いた養殖魚用飼料の開発. 冷凍. 99: 542-547. 2024.
- B2-1 Nishiguchi H*, Suryadi IBB*, Ali MFZ*, Miura C*, Miura T*. Dietary black soldier fly (*Hermetia illucens*)-dipterose-BSF-enhanced zebrafish innate immunity gene expression and resistance to *Edwardsiella tarda* infection. *Insects*. 15: 326. 2024.
- B2-2 Ido A*, Takahashi T*, Miura C*, Hirayasu H, Seyama T, Miura T*. Effect of two full-fat insect meals, yellow mealworm and black soldier fly larva, on growth performance of juvenile yellowtail. *J. Insects as Food Feed*. 11: 303-316. 2025.
- B2-3 Athira A*, Nishiguchi H, Hayashi D, Otsu Y*, Miura C*, Suryadi IBB*, Ali MFZ*, Miura T*. Influence of the silkworm-derived (*Bombyx mori*) functional substance (Silkrose-BM) on the fish meat quality of yellowtail (*Seriola quinqueradiata*). *Fishes*. 10: 130. 2025.

- C-1 赤沼彩太*・Muhammad Fariz Zahir Ali・三浦智恵美*・三浦猛*. 新たに単離したカイコ由来機能性物質の解析. 日本動物学会第95回大会. 長崎市. 2024年9月.
- C-2 Miura T*, Miura C*, Multifunctional utilization of insects in aquaculture. 52nd Scientific Symposium of the UJNR Aquaculture Panel “Next steps for sustainable and resilient aquaculture” 伊勢市. 2024年11月.
- C-3 三浦猛*・赤沼彩太*・西口陽基・長尾優希*・Muhammad Fariz Zahir Ali・滝澤努・飯田千里・高橋明子・三浦智恵美*. カイコサナギ由来機能性由来物質の高温負荷条件下でのブロイラー育成に与える影響. 日本蚕糸学会第95回大会. 京都市. 2025年3月.
- C-4 三浦猛*・高橋雅治・松田教義・Muhammad Fariz Zahir Ali・大津有稀*・三浦智恵美*. カイコ由来機能性物質によるアコヤガイ大量へい死の抑制技術. 令和7年度日本水産学会春季大会. 相模原市. 2025年3月.

海洋分子生態学教育分野 (Laboratory of Marine Molecular Ecology)

- B2-1 Nakayama K, Obayashi Y*, Munechika L, Kitamura S-I, Yanagida T, Honjo M, Murakami S, Hirose E. Regeneration of tunic cuticle is suppressed in edible ascidian *Halocynthia roretzi* contracting soft tunic syndrome. *Diseases of Aquatic Organisms*. 159: 37–48. 2024.
- B2-2 Yabuki A, Fujii C, Yazaki E, Tame A, Mizuno K, Obayashi Y*, Takao Y. Massive RNA editing in ascetosporean mitochondria. *Microbes and Environments*. 40: ME24070. 2025.
- C-1 亀山星奈・剣持瑛行・松浦弘行・吉川 尚・宗林留美・大林由美子*・西川淳. 駿河湾におけるクラゲノミ類 (端脚目, クラゲノミ亜目) の種多様性と季節変動. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月.
- C-2 庄野裕人*・熊本啓太・北村真一・大林由美子*. 条件寄生性魚病繊毛虫のプランクトン生活. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月.
- C-3 剣持瑛行・平井惇也・吉川尚・大林由美子*・西川淳. DNA メタバーコーディングによる海産枝角類の食性解析. 2024年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 松江市. 2024年9月.
- C-4 浦久保陸人*・大林由美子*. 北西太平洋亜寒帯・亜熱帯におけるプロテアーゼ活性プロファイル. 2024年度日本海洋学会秋季大会. 東京. 2024年9月.
- C-5 大林由美子*・Ayunda Ainun Nisa・恵美羽奏*・吉江直樹・日向博文. 海水中でのプラスチック表面への生物付着とそれに伴う密度変化の実測. 2024年度日本海洋学会秋季大会. 東京. 2024年9月.
- C-6 Obayashi Y*. Starting collaborative study on diversity and ecology of edible jellyfish and their relations to coastal environment in Southeast Asia: (1) Thailand. *JSPS Core-to-Core Symposium on One Health Approaches to Chemical Risk Management*. 松山市. 2024年9月.
- C-7 大林由美子*. 微生物と有機物の動態から海洋物質循環プロセスの実態を探る. 学術変革領域研究「ハビタブル日本: 島嶼国日本の生存基盤をなす大気・海洋環境の持続可能性」合同班会議. 広島市 / オンライン (ハイブリッド). 2024年10月.
- C-8 大林由美子*. 西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯の生態系と物質循環. 愛媛大学沿岸環境科学研究センター・北海道大学低温科学研究所合同研究集会「亜寒帯-亜熱帯域を含めた日本周辺の海洋環境科学の統合的理解2」. 松山市. 2024年11月.
- C-9 Obayashi Y*. Microbial processes in marine ecosystem and biogeochemical cycles. *International Forum on Advanced Genomics: Environmental and Resource Genomics and Life Sciences-III*. 高松市. 2025年1月.
- C-10 浦久保陸人*・大林由美子*. 北西太平洋亜寒帯・亜熱帯域での海水中の有機物分解ポテンシャル. 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「西部北太平洋域における大気海洋境界領域の統合研究」. 柏市 / オンライン (ハイブリッド). 2025年3月.
- C-11 大林由美子*・浦久保陸人*. 亜寒帯測点・亜熱帯測点の海洋極表層での有機物分解ポテンシャル. 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会「西部北太平洋域における大気海洋境界領域の統合研究」. 柏市 / オンライン (ハイブリッド). 2025年3月.

- C-12 浦久保陸人*・大林由美子*. 西部北太平洋亜寒帯・亜熱帯における海水中のプロテアーゼ活性プロフィール. 学術変革領域研究「ハビタブル日本：島嶼国日本の生存基盤をなす大気・海洋環境の持続可能性」領域全体会議. 新潟市. 2025年3月.
- D-1 大林由美子*・上野洋路. 対面での開催復活！ 第29・30回「海のサイエンスカフェ」開催報告. JOS ニュースレター. 14:11-12. 2024.
- D-2 安中さやか・川合美千代・大林由美子*. 「女子中高生夏の学校 2024～科学・技術・人との出会い～」参加報告. JOS ニュースレター. 14:05. 2024.
- D-3 大林由美子*・上野洋路. 第31回「海のサイエンスカフェ」：東京開催，新たな場所で. JOS ニュースレター. 14:06. 2024.

水圏・土壌環境学教育分野 (Aquatic & Soil Environmental Science Laboratory)

- B1-1 渡邊健史・伊藤英臣・高橋嘉夫・清水優希・小暮敏博・光延聖*・大塚重人. 水田土壌の鉄の酸化還元研究の現在. 日本土壌肥料学雑誌. 95:161-166. 2024.
- B2-1 Ihsan T, Johan E, Fukugaichi S, Maruyama M, Mitsunobu S*, Matsue N* Innovative DIY drinking water disinfection for underserved communities. *Science of the Total Environment*. 927: 172257. 2024.
- B2-2 Mitsunobu S*, Wagai R, Shimada H, Kato H, Ito K, Sato S, Hayatsu M, Minamisawa K. First microscale data on depth profiles of microbial N₂O reduction, O₂ availability, and pore networks inside contrasting single soil aggregates. *Soil Biology and Biochemistry*. 202: 109684. 2024.
- C-1 内島智輝*・加藤真悟・濱村奈津子・光延聖*. 環境優占種の分離を目的とした新しい鉄酸化菌培養法「カスタマイズ培地法」の確立. 2024年度日本微生物生態学会. 広島市. 2024年10月.
- C-2 光延聖*. 水田土壌におけるヒ素-鉄-微生物相互作用の解明. 2024年度日本地球化学会. 金沢市. 2024年9月. (招待講演)
- C-3 河上智也・島田紘明・光延聖*・和穎朗太. 放射光 X 線 μ CT による団粒孔隙構造の高解像度解析：微生物の住处としての孔隙構造に黒ボク土と赤黄色土の間に違いはあるのか？2024年度日本土壌肥料学会. 福岡市. 2024年9月.

環境産業科学教育分野 (Environmental Science for Industry)

- B2-1 宮内佑子・池内保菜美・高井政貴・川嶋文人*・森田智士・佐藤優成・円城寺隆治. 連続フロー式誘電泳動法システムと定量PCRを組み合わせたレジオネラ属菌の迅速検出法. 日本防菌防黴学会誌. 52:141-146. 2024.
- C-1 中村裕史*・滝川葵*・川嶋文人*. 水試料における PFAS 分析法の課題とその対策. 第3回環境化学物質合同大会第32回環境化学討論会. 広島. 2024年7月.
- C-2 西川竜平*・川嶋文人*. 綿廃棄物を原料とするヒドロキシルメチルフルフラール (HMF) の生成方法の研究. 第33回日本エネルギー学会大会. 東京. 2024年8月.
- C-3 宮内佑子・池内保菜美・高井政貴・川嶋文人*・森田智士・佐藤優成・円城寺隆治. 連続フロー式誘電泳動法システムと定量PCRを組み合わせたレジオネラ属菌の迅速検出に関する検討. 日本防菌防黴学会第51回年次大会. 東京. 2024年9月.
- C-4 池内保菜美・宮内佑子・高井政貴・川嶋文人*・古畑勝則. 連続フロー式誘電泳動法システムと遺伝子検査法を組み合わせたレジオネラ属菌迅速検出法の浴槽水への適用検討. 日本防菌防黴学会第51回年次大会. 東京. 2024年9月.
- C-5 高井政貴・宮内佑子・池内保菜美・青木千華・渡邊隆史・川嶋文人*. 連続フロー式誘電泳動法システムと定量PCRを組み合わせたレジオネラ属菌迅速検出法の冷却塔水への適用検討. 日本防菌防黴学会第51回年次大会. 東京. 2024年9月.
- C-6 松下尚史*・石坂閣啓・川嶋文人*. アルデヒドと揮発性有機化合物が同時捕集・同時測定可能なパッシブサンプリング手法の検討—分析の妥当性評価とアルデヒド・ケトン共存下でのサンプリング性能について—. 2024年室内環境学会学術大会. 札幌. 2024年11月.

- C-7 正中孝弥*・松下尚史*・石坂閣啓・川嶋文人*. 室内環境中 VOCs 測定におけるパッシブサンプラーのサンプリングレート予測モデルの構築. 2024 年室内環境学会学術大会. 札幌. 2024 年 11 月.
- C-8 岡本みなみ*・安瀬地千奈美*・川嶋文人*. 膜ろ過 (SPEEDIA) 法を用いた牛乳中の動物用医薬品における簡易・迅速一斉分析法の検討. 第 120 回日本食品衛生学会. 愛知. 2024 年 11 月.
- C-9 巻田優花・岡本みなみ*. GC 一斉分析農薬の LC-MS/MS 分析の検討及び膜ろ過 (SPEEDIA) 法による残留農薬分析. 第 47 回農薬残留分析, 第 41 回農薬環境科学合同研究会. 徳島. 2024 年 11 月.

環境計測学教育分野 (Laboratory of Environmental Analytical Chemistry)

- A-1 Hoang AQ, Takahashi S*. Chapter 1 - Analytical methods for determining organic compounds in air. In: *Sample Handling and Trace Analysis of Pollutants: Innovations to Determine Organic Contaminants, Second Edition* (Damià Barceló, Yolanda Pico, eds.). Elsevier Science. 3–34. 2024.
- B2-1 Hoang AQ, Tue NM, Goto A, Karyu R, Tuyen LH, Viet PH, Matsukami H, Suzuki G, Takahashi S*, Kunisue T. Bioaccessibility of halogenated flame retardants and organophosphate esters in settled dust: Influences of specific dust matrices from informal e-waste and end-of-life vehicle processing areas in Vietnam. *Science of The Total Environment*. 926: 172045. 2024.
- B2-2 Uno Y, Tsukiyama-Kohara K, Ishizuka M, Mizukawa H*, Murayama N, Yamazaki H. Investigation of functional cytochrome P450 4A enzymes in liver and kidney of pigs, cats, tree shrews, and dogs in comparison with the metabolic capacity of human P450 4A11. *Drug Metabolism and Disposition*. 52: 1009–1019. 2024.
- B2-3 Watanabe H, Abe R, Tatarazako N*, Yamamoto H. Non-chemical stresses do not strongly induce male offspring in *Daphnia magna* ascertained using the short-term juvenile hormone activity screening assay. *Journal of Applied Toxicology*. 44: 1914–1923. 2024.
- B2-4 Takaguchi K, Nagano Y, Mizukawa H*, Nakatsu S, Nomiya K. Species- and tissue-specific profiles and potential risks of polychlorinated biphenyls (PCBs) and their metabolites in dogs and cats. *Science of The Total Environment*. 958: 177965. 2025.
- B2-5 Falahudin D*, Arifin Z, Yogaswara D, Edward E, Wulandari I, Dharmawan IWE, Sudaryanto A, Hoang AQ, Takahashi S*. Halogenated organic compounds in mangrove sediments from Bintan Island, Indonesia: Occurrence, profiles, sources, and potential ecological risk. *Environmental Pollution*. 367: 125667. 2025.
- C-1 Takahashi S*, Ueno D, Hoang AQ, Watanabe I, Kuwae M. Temporal trends of contamination by POPs and alternative flame retardants: Retrospective studies using dates sediment core samples from Japan. BFR2024. Incheon, Korea. 2024 年 4 月.
- C-2 Falahudin D*, Wulandari I, Octaviani S, Takahashi S*. Contamination status, bioaccumulation profiles, and human health risk assessment of polychlorinated biphenyls (PCBs) in shark species from Indonesia. 2nd UN Ocean Decade Regional Conference & 11th WESTPAC International Marine Science Conference. Bangkok, Thailand. 2024 年 4 月.
- C-3 Tatarazako N*, Okazaki Y*. Evaluation Method of Ecotoxicity for Biodegradable Plastics II. SETAC Europe 34th Annual Meeting. Seville, Spain. 2024 年 5 月.
- C-4 Tatarazako N*, Okazaki Y*. Biological effects of microcapsules. SETAC Europe 34th Annual Meeting. Seville, Spain. 2024 年 5 月.
- C-5 高橋真*・有岡舞*・岡村奏太郎*・水川葉月*・奥島千恵*・高須賀智奈美*・石橋弘志. 愛媛県で捕獲されたトビの肝臓における PFAS の蓄積濃度と化学組成の経年変化. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島市. 2024 年 7 月.
- C-6 佐藤愛佳・田上瑠美・水川葉月*・野見山桂. 有機フッ素化合物 (PFAS) によるイヌ・ネコ用ドライペットフードの汚染実態. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島市. 2024 年 7 月.
- C-7 平川周作・堀就英・香月進・宮脇崇・平野将司・水川葉月*・野見山桂・岩田久人・辻学. *In silico* シミュレーション及び *in vitro* 代謝試験によるヒト CYPs を介した PCBs の代謝能評価. 第 3 回環境化学物質合同大会. 広島市. 2024 年 7 月.

- C-8 植田豪*・岡崎友紀代*・鎌迫典久*．マイクロカプセルの合成および生態影響評価．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-9 中島舞*・佐藤愛佳・佐藤楓夏・水川葉月*・野見山桂・横山望・池中良徳・石橋弘志・高橋真*．室内ダスト中PFASの汚染実態とペット動物への曝露評価．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-10 七山慧奈*・新里優太*・デデファラフディン*・奥島千恵*・加三千宣・高橋真*．別府湾底質柱状試料を用いたPOPs及び新規代替臭素系難燃剤の時系列トレンド解析．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-11 新里優太*・水川葉月*・渡辺桃加*・野見山桂・池中良徳・ヤレドバイエネ・石塚真由美・高橋真*．野生鳥類におけるPCBsおよび水酸化代謝物(OH-PCBs)の残留と安定同位体比分析に基づく種間差解析．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-12 徳田深咲・佐藤愛佳・田上瑠美・水川葉月*・高橋真*・野見山桂．生体組織試料中に残留する新規PFASを対象とした分析手法の開発．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-13 釘宮雄大*・高橋真*・岡崎友紀代*・鎌迫典久*．植物中ミジンコ幼若ホルモン様物質の探索．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-14 宮武孟蔵*・岡崎友紀代*・ヒョウジョウ*・鎌迫典久*．ヒメダカ、オオミジンコを用いた生分解性プラスチックの生態影響について．第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-15 Falahudin D*, Wulandari I, Octaviani S, Fahmi F, Takahashi S*. First insight of 209 polychlorinated biphenyls (PCBs) in shark species from Eastern Indian Ocean: contaminant status, bioaccumulation profiles, potential sources, and ecological risk assessments. 第3回環境化学物質合同大会．広島市．2024年7月．
- C-16 Tatarazako N*, Okazaki Y*. Development of ecotoxicity test methods for biodegradable plastics? ~ The decomposition pretreatment method to obtain testing samples. SETAC North America 45th Annual Meeting. Fort Worth, Texas. 2024年10月．
- C-17 Tatarazako N*, Okazaki Y*, Tanigawa T, Yoshimura N. Ecotoxicity of water-soluble synthetic film (III). SETAC North America 45th Annual Meeting. Fort Worth, Texas. 2024年10月．
- C-18 Falahudin D*, Wulandari I, Octaviani S, Fahmi F, Takahashi S*. Full congener analysis of polychlorinated biphenyls (PCBs) in shark species from the Indonesian Seas. 8th International Chemical Hazard Symposium & 第8回環境化学会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会 合同シンポジウム．札幌市．2024年10月．
- C-19 Amalia R*, Okujima C*, Falahudin D*, Mizukawa H*, Takahashi S*. Development of rapid and simultaneous analysis of current-use pesticides and their residues in soils from Indonesian agricultural fields. 8th International Chemical Hazard Symposium & 第8回環境化学会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会 合同シンポジウム．札幌市．2024年10月．
- C-20 Shinzato Y*, Mizukawa H*, Nomiyama K, Watanabe M*, Ikenaka Y, Beyene Y, Ishizuka M, Takahashi S*. 野生鳥類におけるPCBsおよびOH-PCBsの残留実態解明と代謝能力の種間差比較．8th International Chemical Hazard Symposium & 第8回環境化学会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会 合同シンポジウム．札幌市．2024年10月．
- C-21 Sato A, Sato F, Mizukawa H*, Saeki K, Ikenaka Y, Tanoue R, Yokoyama N, Takiguchi M, Nakatsu S, Nomiyama K. コンパニオンアニマルを指標とするPFASの汚染実態解明．8th International Chemical Hazard Symposium & 第8回環境化学会 北海道東北地区部会・中国四国地区部会 合同シンポジウム．2024年10月．
- C-22 水川葉月*・中島舞*・佐藤愛佳・佐藤楓夏・野見山桂・横山望・池中良徳・石橋弘志・高橋真*．室内ダスト中ペルおよびポリフルオロアルキル物質(PFAS)の汚染実態解明とペット動物への曝露源推定．2024年室内環境学会学術大会．札幌市．2024年11月．

- C-23 長江真樹・羽田龍史・小林 亨・征矢野清・鑪迫典久*・井口泰泉. 日本産メダカ 2 種雄の二次性徴発現比較～試験法利用種検討のための基礎的知見集積～. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京都. 2024 年 12 月.
- C-24 兼藤亮太郎*・岡崎友紀代*・鑪迫典久*. カプセル化された内分泌攪乱物質の生態影響評価. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京都. 2024 年 12 月.
- C-25 小滝優弥*・岡崎友紀代*・石橋弘志・高橋真*・鑪迫典久*. ケーシング手法を用いた愛媛県内の河川における内分泌かく乱物質の実態調査. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京都. 2024 年 12 月.
- C-26 米山宙舞*・岡崎友紀代*・鑪迫典久*. マイクロカプセルを用いたメダカへの経口曝露の評価. 日本内分泌攪乱物質学会第 26 回研究発表会. 東京都. 2024 年 12 月.
- C-27 徳田深咲・亀田直人・中村進一・要田莉穂・柴原崇・畑大二郎・水川葉月*・田上瑠美・野見山桂. ツシマヤマネコにおける残留性有機ハロゲン化合物の汚染実態. 第 30 回日本野生動物医学会大会. 沖縄県国頭郡恩納村. 2024 年 12 月.
- C-28 七山慧奈*・Falahudin D*・加三千宣・高橋真*. GC-MS/MS を用いた臭素系難燃剤の一斉分析法の開発と別府湾底質柱状試料を用いた環境負荷解析. 第 59 回日本水環境学会年会. 札幌市. 2025 年 3 月.
- D-1 高橋真*. 臭素系難燃剤等の分析法開発とアジア環境モニタリング. 第 3 回環境化学物質合同大会ラウンチョンセミナー. 広島市. 2024 年 7 月.
- D-2 高橋真*. 人工化学物質の光と影: DDT, PCB そして PFAS. 令和 6 年度えひめ環境大学. 松山市. 2024 年 9 月.
- D-3 高橋真*. 新興 POPs 等の環境・生態系モニタリングと時系列トレンド解析. 第 13 回 e-MAT 検討会(環境測定分析技術検討会). 高松市. 2024 年 10 月.
- D-4 高橋真*. PFAS の生体蓄積について～野生動物組織中からの検出事例を中心に～. 令和 6 年度漁場環境保全関係研究開発推進会議有害物質研究会. 廿日市市. 2024 年 11 月.
- D-5 鑪迫典久*. 植物セルロース系生分解プラスチックの環境安全性評価. オノ木トークカフェ驚きの木の使い方 2 -バイオリファイナリーの実用化の最前線-. 松山市. 2024 年 10 月.
- D-6 鑪迫典久*. メダカを用いた PFAS 汚染の全国調査. 第 29 回生物化学的測定研究会学術シンポジウム -生物化学的測定で迫る PFAS 汚染の実態-. つくば市. 2024 年 11 月.

農生態学教育分野 (Laboratory of Agroecology)

- B1-1 日鷹一雅*. 島嶼日本列島における α - β - γ レベルの農多様性とその歴史的変遷. 所収: アグロエコロジーから見た持続可能な食料生産と景観保全: 日本とアメリカの協働. 羽生淳子編. 総合地球環境学研究所. 19-22. 2024. https://www.chikyu.ac.jp/rihn/cms_upload/publicity/368/book.pdf
- B3-1 本林隆・日鷹一雅*・羽生淳子. 長野県松本市四賀地区におけるオニグルミの分布. 所収: アグロエコロジーから見た持続可能な食料生産と景観保全: 日本とアメリカの協働. 羽生淳子編. 総合地球環境学研究所. 69-81. 2024. https://www.chikyu.ac.jp/rihn/cms_upload/publicity/368/book.pdf
- C-1 日鷹一雅*・楠本良延企画. 国際シンポジウム (日米同時バイリンガル) アグロエコロジーの発展的展望: 持続可能な食農システムの生態学. Developmental perspective of Agroecology: The Ecology of sustainable food system. 第 71 回日本生態学大会. 横浜. 2024 年 3 月.
- C-2 日鷹一雅*. 農生態系・多様性・安定性とアグロエコロジカルな食農のデザイン. Agroecological design of agri-food systems based on agroecosystems, diversity and stability. 第 71 回日本生態学大会. 横浜. 2024 年 3 月.
- C-3 本林隆・馬場海帆・日鷹一雅*. 種感受性分布 (SSD) を活用した水田の水生昆虫群集に対する育苗箱処理剤の生態リスク評価 II -新規ウンカ防除剤トリフルメゾピリムを中心に-. 日本昆虫学会第 84 回大会・第 68 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会. 仙台. 2024 年 3 月.
- D-1 日鷹一雅*. アグロエコロジー (Agroecology): 作物, 土, 水, 大気, 動植物ら生物多様性と結ぶ持続

バイオマス資源学コース
(Course of Biomass Resources Science)

紙産業教育分野 (Laboratory of New Paper Industry Program Center)

- A-1 秀野晃大*・藪谷智規*・内村浩美*．セルロースナノファイバー連続脱水濃縮・シート化法の開発．セルロースナノファイバーの研究と開発：現状と将来展望（監修 能木雅也）．（株）シーエムシー出版．108-120．2024．
- B1-1 深堀秀史*．繊維学会創立80周年記念特集（レビュー）紙・機能紙．繊維学会誌．80：408-412．2024．
- B2-1 麻川明俊・真木孝雄・松本雅光・畝田廣志・越後至・三上天・佐崎元・塚本勝男・川野潤・勝野弘康・藪谷智規*・小松隆一．炭酸カルシウムの溶解過程を例とした熱水中での高度なその場観察への挑戦．日本結晶成長学会誌．52．2025．
- B2-2 伊藤弘和*・潟岡陽・内村浩美・續木康広・神原聖史．表面処理パルプによるウッドプラスチックの改質．強化プラスチック．70：121-126．2024．
- B2-3 Yamaguchi S, Chao L, Matsushima E, Ito H*, Uetsuji Y. Multiscale computational study on the thermal properties and CO2 emission reduction effect of bio-insulation materials sprayed with cellulose nanofibers. Construction and Building Materials. 465: 1-11. 2024.
- B2-4 Ihsan T, Johan E, Fukugaichi S*, Maruyama M, Mitsunobu S, Matsue N. Innovative DIY drinking water disinfection for underserved communities. Science of the Total Environment. 927: 172257. 2024.
- B2-5 Pratama GBS, Yasuhara H, Kinoshita N, Putra H, Almajed A, Fukugaichi S*, Ihsani ZM. Efficacy of soybean-derived crude extract in enzyme-induced carbonate precipitation as soil-improvement technique. Journal of Water, International Journal of Geo-Engineering. 15: 1-22. 2024.
- B2-6 Fukugaichi S*. Binderless incorporation of titanium dioxide nanoparticles into glass fibres via a straightforward alkali treatment. Bulletin of Materials Science. 47: 184. 2024.
- B2-7 Fukugaichi S*, Maruyama S, Johan E, Matsue N. Facile removal of Escherichia coli from water using amorphous membrane fabricated on aluminum plate. Emergent Materials. 2024.
- B2-8 Zhang W, Nomura Y, Fukahori S*, Kiso T, Myoujin K, Fujiwara T. Modeling, validation, and optimization of a rotating advanced oxidation contactor equipped with TiO₂-zeolite composite sheets for sulfamethazine removal. Process Safety and Environmental Protection. 187: 1248-1258. 2024.
- B3-1 内村浩美*・藪谷智規*・秀野晃大*．CNF連続脱水・シート化装置の開発．Cellulose Communications. 32：9-14．2025．
- B3-2 深堀秀史*・藤原拓・野村洋平．光触媒-吸着材複合紙による水中のサルファ系抗菌剤の除去．WEB Journal. 11：23-26．2024．
- B3-3 秀野晃大*．草本系バイオマス等からの環境調和型バイオ燃料・バイオナノ材料創成プロセスの研究開発（進歩賞（学術部門）受賞論文）．日本エネルギー学会機関誌えねるみくす．103：229-236．2024．
- C-1 内村浩美*・井村文太・藪谷智規*．筆記したボールペンインキを一定時間内消去可能な機能紙の開発．第91回紙パルプ研究発表会．東京．2024年6月．
- C-2 内村浩美*・藪谷智規*・伊藤弘和*・福垣内暁*・深堀秀史*・秀野晃大*・潟岡陽*．愛媛大学紙産業イノベーションセンター研究紹介．四国CNF展示会．四国中央．2024年9月．
- C-3 内村浩美*・藪谷智規*・伊藤弘和*・秀野晃大*・潟岡陽*・川之江造機株式会社．CNF連続脱水技術の開発．ふじのくにセルロース循環経済国際展示会．富士．2024年10月．
- C-4 内村浩美*・藪谷智規*・伊藤弘和*・福垣内暁*・深堀秀史*・秀野晃大*・潟岡陽*．愛媛大学紙産業

イノベーションセンター研究紹介. 機能紙研究会. 東京. 2024年11月.

- C-5 藪谷智規*・秀野晃大*・瀧岡陽*・伊藤弘和*・内村浩美*・西内大貴・曾我部海青・木下聖也・合田真二. セルロースナノファイバーの連続脱水・シート化装置の開発. 日本海水学会第75年会. 2024年6月.
- C-6 藪谷智規*. 検査・分析用新規紙製流路デバイスの開発. JST 新技術説明会. 2024年9月.
- C-7 藪谷智規*. 製紙技術を活用した紙製分析デバイスの高機能化. 分析化学会第73年会. 2024年9月.
- C-8 Yabutani T*, Hiden A*, Nishida N, Uchimura H*. Dewatering of cellulose nanofiber with a cloud point extraction using 1-dodecanol and production of acryl resin composites by a high-share kneading, International Conference on Advanced Materials Development and Performance 2024. September, 2024.
- C-9 Yamada Y, Takayanagi T, Yabutani T*. A visible sensing device for selenium (IV) using a microcolumn packed with β -cyclodextrin modified octadecyl silica, International Conference on Advanced Materials Development and Performance 2024. September, 2024.
- C-10 Kataoka Y*, Yabutani T*, Mogi M, Liu S. Development of a plasma separation device based on papermaking technology and its application to pretreatment for determination of diagnostic biomarkers by simple assay kits. 1st International Joint Meeting of Young Researchers for Future Research Collaboration. Matsuyama. March 2025.
- C-11 Kataoka Y*, Ito H*, Kambara M, Tsuzuki Y. Effect of pulp surface treatment methods on the mechanical properties of pulp-reinforced polymer composite materials. 13th Asian-Australasian Conference on Composite Materials. Kyoto. Augst, 2024.
- C-12 高木勇雅・Ondiek Wycliffe・瀧岡陽*・マカドレアルノー・伊藤弘和*・合田公一. 薄膜状 WPC の引張強度に及ぼす膜厚の影響. 日本機械学会 2024 年度年次大会. 松山. 2024 年 9 月.
- C-13 Kataoka Y*, Ito H*. Effects of fiber properties and compatibility on the mechanical properties of recycled pulp/polyethylene composites. 12th International Conference on Green Composites. Kochi. November, 2024.
- C-14 瀧岡陽*・伊藤弘和*・續木康広・神原聖史. 表面処理パルプ添加による混練型 WPC の機能化. 2024 年度 JCOM 若手シンポジウム. 洲本. 2024 年 12 月.
- C-15 福垣内暁*・須賀悠介*・青野宏通*・能浦崇太*・北村憲彦. 層状複水酸化物合成法を用いた Al 冷間鍛造加工潤滑膜の作製. 第 67 回粘土科学討論会. 福岡. 2024 年 9 月.
- C-16 福垣内暁*・須賀悠介・青野宏通・能浦崇太・北村憲彦. MgAl 型層状複水酸化物 (LDH) 膜によるポリスチレン粒子の吸着. 日本セラミックス協会 第 37 回秋季シンポジウム. 名古屋. 2024 年 9 月.
- C-17 福垣内暁*・藤田航・竹内久登・清水園子. 攪拌条件下で合成された MgAl-LDH 膜の赤潮プランクトン除去効果. 日本セラミックス協会第 37 回秋季シンポジウム. 名古屋. 2024 年 9 月.
- C-18 野村洋平・藤原拓・深堀秀史*. 触媒複合シートを搭載した回転円板型促進酸化装置による廃水中微量化学物質の除去技術の開発. 京大ー清華大日中環境技術共同研究・教育センター協議会セミナー. 京都. 2024 年 7 月.
- C-19 松本千蓮・Sorn Sovannlaksmy・伊藤政雄・藤原拓・野村洋平・深堀秀史*・井原賢. 機能性シートによるバクテリオファージの不活化評価. 高知大 75 周年研究成果報告シンポジウム. 高知. 2024 年 9 月.
- C-20 仲川秀汰・近松暁彦・伊藤政雄・松本千蓮・井原賢・藤原拓・野村洋平・深堀秀史*. 金属担持シートによる青枯病菌および大腸菌の殺菌効果の検証. 第 59 回日本水環境学会年会. 札幌. 2025 年 3 月.
- C-21 松本千蓮・片岡優斗・Sorn Sovannlaksmy・伊藤政雄・井原賢・藤原拓・野村洋平・深堀秀史*. 機能性シートを搭載した回転ドラム式装置によるバクテリオファージの不活化作用の評価. 第 59 回日本水環境学会年会. 札幌. 2025 年 3 月.
- C-22 Zhnag W, Nomura Y, Fujiwara T, Fukahori S*, Kiso T, Myoujin K. Comprehensive modeling of sulfamethazine transformation: hydrophobicity-driven insights from photocatalysis with TiO_2 /high-silica zeolite composites. 第 59 回日本水環境学会年会. 札幌. 2025 年 3 月.

- C-23 秀野晃大*・藪谷智規*・内村浩美*．抄紙法を応用したセルロースナノファイバー連続脱水濃縮・シート化法の開発．セルロース学会第31回年次大会．熊本．2024年7月．
- C-24 秀野晃大*．広葉樹漂白パルプおよび針葉樹漂白パルプ由来機械的解繊セルロースナノファイバーの熱分解挙動と組成の影響．第33回日本エネルギー学会大会．新宿．2024年8月．
- C-25 Hiden A*．Preparation and application of cellulose nanofibers from local waste biomass (Keynote speaker)．12th Asian Conference on Biomass Science (ACBS2024)．Ho Chi Minh City, Viet Nam．November, 2024．
- C-26 三好隆裕*・秀野晃大*・藪谷智規*・内村浩美*．セルロースナノファイバー薄膜転写シートの調製とそのガスバリア性．第20回バイオマス科学会議．京都．2024年12月．
- D-1 内村浩美*・藪谷智規*．構造体．特許7566307．2024年10月4日．
- D-2 内村浩美*．機能性シートおよび機能性シートの製造方法．特許7637401．2025年2月19日．
- D-3 内村浩美*．お札の偽造防止技術と紙の機能を応用した製品開発．放送大学愛媛同窓会．松山．2024年4月．
- D-4 内村浩美*．紙の総合マッチングサイト“四国は紙國”の設立について．愛南町役場．愛南．2024年5月．
- D-5 内村浩美*．紙産業イノベーションセンターの産学連携活動報告．四国中央市教育委員会．四国中央．2024年5月．
- D-6 内村浩美*．CNFの社会実装に向けた愛媛大学の取組み．四国地域連携支援計画総会．高松．2024年6月．
- D-7 内村浩美*．国立印刷局と愛媛大学の連携協定の趣旨および経緯について．国立印刷局・愛媛大学の連携協定締結式．松山．2024年7月．
- D-8 内村浩美*．身近な紙製品と新たな紙製品開発の可能性．東予地方局若手職員現地研修．四国中央．2024年7月．
- D-9 内村浩美*．愛媛大学紙産業イノベーションセンターの取組み～CNFを活用した新たな紙製品の開発～．愛媛県法人会連合会産業交流会．四国中央．2024年8月．
- D-10 内村浩美*．紙産業イノベーションセンターの概要紹介～地域産業特化型研究センターの活動～．イノベーション創出院キックオフシンポジウム．松山．2024年8月．
- D-11 内村浩美*．身近な紙製品と新たな紙製品開発の可能性　そして、紙の未来．四国中央市発足20周年記念　日本一の紙の博覧会．四国中央．2024年10月．
- D-12 内村浩美*．愛媛県の紙産業の課題と紙産業イノベーションセンターの取組み．地域創生イノベーター育成プログラム．今治．2024年11月．
- D-13 内村浩美*．紙産業イノベーションセンターの教育・研究活動報告～地域産業特化型研究センターの活動～．文部科学省高等教育局．東京．2025年1月．
- D-14 内村浩美*．紙産業の現状とセルロースナノファイバーの社会実装に向けた愛媛大学の取組み．徳島県CNF勉強会．四国中央．2025年3月．
- D-15 内村浩美*．四国中央市立新宮小中学校　お札の技術と新たな紙製品開発の可能性．四国中央．2024年6月．
- D-16 内村浩美*．四国中央市立川滝小学校　新たな紙製品開発の可能性ーおもしろい紙を発明しよう！ー．四国中央．2024年9月．
- D-17 内村浩美*．香川県立観音寺第一高等学校　サイエンスレクチャー．お札の技術と新たな紙製品開発の可能性．観音寺．2024年9月．
- D-18 内村浩美*．四国中央市立川之江南中学校　ものづくり体験講座・紙産業を学ぼう．四国中央．2024年10月．
- D-19 内村浩美*．四国中央市立川之江北中学校　ものづくり体験講座・紙産業を学ぼう．四国中央．2024年11月．
- D-20 内村浩美*．インキ消去機能紙　紙産業特化、技術革新探る．日本経済新聞．2024年4月24日．
- D-21 内村浩美*．四国中央市功労賞受賞（四国中央市発足20周年記念式典）．四国中央レポート．2024年

6月15日.

- D-22 内村浩美*. 新宮小・中学校公開授業. 四国中央レポート. 2024年7月15日.
- D-23 内村浩美*・藪谷智規*・伊藤弘和*・福垣内暁*・深堀秀史*・秀野晃大*・瀧岡陽*. 紙産業イノベーションセンターシンポジウム. 愛媛経済レポート. 2024年11月11日.
- D-24 内村浩美*・藪谷智規*・秀野晃大*・川之江造機株式会社. 川之江造機・愛媛大「機械振興協会会長賞」CNF脱水シート化 輸送費減. 愛媛新聞. 2025年2月21日.
- D-25 藪谷智規*. 分光分析に関する体験講座. 愛媛県立三島高等学校 課外授業. 四国中央. 2024年8月.
- D-26 藪谷智規*. 紙と化学の関わりについての講義. 四国中央市立新宮小中学校 課外授業. 四国中央. 2024年11月.
- D-27 伊藤弘和*. バイオマス材料を用いたプラスチック代替材料の研究. 愛媛大学 ジュニアドクター育成塾. 松山. 2024年4月-2025年3月.
- D-28 伊藤弘和*. 脱炭素による紙製品の価値創造. 四国中央市カーボンニュートラル協議会. 経営者層向け人材育成プログラム. 四国中央. 2024年6月.
- D-29 伊藤弘和*・瀧岡陽*. 紙から新しいイノベーション. 愛媛大学 四国型次世代科学術チャレンジプログラム. 松山. 2024年7月.
- D-30 伊藤弘和*. プラスチックは本当に悪者か. 社会共創学部出前授業. 北条高校. 2023年7月.
- D-31 伊藤弘和*. 環境に配慮したプラスチック材料. 愛媛県立三島高等学校 課外授業. 四国中央. 2024年8月.
- D-32 伊藤弘和*・瀧岡陽*. 地域紙産業の新しい取り組み. 四国中央市立新宮小中学校 課外授業. 四国中央. 2024年11月.
- D-33 伊藤弘和*. 脱炭素による紙製品の価値創造. 四国中央市カーボンニュートラル協議会. 従業員向け人材育成プログラム. 四国中央. 2024年12月.
- D-34 伊藤弘和*・内村浩美*・藪谷智規*・福垣内暁*・深堀秀史*・秀野晃大*・瀧岡陽*. 紙産業イノベーションハブに向けた「脱石油資源につながる新規紙マテリアル」の創出. 愛媛大学第24回学術フォーラム. 松山. 2025年3月.
- D-35 伊藤弘和*・瀧岡陽*. 徳島県ものづくり企業GX推進コンソーシアム. 徳島. 2025年3月.
- D-36 伊藤弘和*・瀧岡陽*・藪谷智規*・秀野晃大*・上井和也・前垣内奏多. 複合体の製造方法. 特願2025-55572.
- D-37 福垣内暁*. 地域発の新しい和紙“芭蕉和紙”について. 特別展 喜如嘉の芭蕉布物語. 愛媛民芸館. 2024年5月.
- D-38 福垣内暁*. 芭蕉和紙・紙漉きワークショップ. 特別展 喜如嘉の芭蕉布物語. 愛媛民芸館. 2024年5月.
- D-39 福垣内暁*. 芭蕉和紙について. 第20回和紙創作展. 天神産紙 art gallery. 2024年10月.
- D-40 Fukugaichi S*. Basho-Washi. Banana farm. National Sun Yat-sen University. 2025年3月.
- D-41 深堀秀史*. 紙製品の機能と拡がり. 愛媛県立土居高等学校 出張講義. 四国中央. 2024年5月.
- D-42 深堀秀史*. 働く紙づくりにチャレンジしてみよう. 四国中央市立新宮小中学校 課外授業. 四国中央. 2024年7月.
- D-43 深堀秀史*. 水中の微量環境汚染物質の除去. 愛媛県立三島高等学校 課外授業. 四国中央. 2024年8月.
- D-44 深堀秀史*. 紙製品の機能と拡がり. 愛媛県立三島高等学校 課外授業. 四国中央. 2024年8月.
- D-45 深堀秀史*. 化学の力できれいな水を作ろう!. 香川県立観音寺第一高校 サイエンスレクチャー. 観音寺. 2024年9月.
- D-46 深堀秀史*. 紙の機能と将来を考える. 愛媛県立土居高等学校 出張講義. 四国中央. 2024年11月.
- D-47 秀野晃大*. セルラーゼと遺伝子. 愛媛県立三島高等学校 課外授業. 四国中央. 2024年8月.
- D-48 秀野晃大*. 環境調和型バイオ燃料・バイオナノ材料創製プロセスの研究開発. バイオマスプロダクトツリー特別セミナー. 宇治. 2024年9月.

- D-49 秀野晃大*. PCR とは？紙を溶かす酵素の遺伝子を増やして確認してみよう. 四国中央市立新宮小中学校 課外授業. 四国中央. 2024 年 11 月.

演習林

- B2-1 渡邊洋心・吉田明恵*. 愛媛大学における学生主導によるクラウドファンディングの実践と課題—えひめ学生起業塾による資金調達 プロジェクトを事例に—大学教育実践ジャーナル. 24 : 75-83. 2025.
- C-1 Yumoto K, Nakashiro T, Hamaguchi M*, Sato M, Sato H, Aoyama S, Endo Y, Nakagawa K, Kabemura Y, Yamashita T, Kasai E, Ozaki Y, Nakamura T, Murata S, Yamauchi K, Ikeda H, Osako Y, Saito Y, Kaneko S, Shiyake S, Tsuda Y. Genetic structure and demography of three cicada species in tribe Cicadini at various spatio-temporal scale. 日本生態学会大会講演要旨. 2025 年 3 月. 札幌市.
- D-1 濱口正幹*. 愛媛大学農学部附属演習林の昆虫. えひめ生物教育. 15 : 37-42. 2024.
- D-2 濱口正幹*. 高松市西植田町にてカバフキシタバを採集. みんつく香川 FIELD NOTE. 3 : 7-8. 2024.
- D-3 濱口正幹*. 高松市塩江町でクモランを撮影. みんつく香川 FIELD NOTE. 3 : 16-17. 2024.
- D-4 須田珠恵・濱口正幹*. 高松市男木島にてサカグチトリノフンダマシを撮影. みんつく香川 FIELD NOTE. 3 : 14-15. 2024.
- D-5 脇悠太・濱口正幹*. 香川県高松市以東におけるアカハネオンブバッタの記録. へりぐる. 46 : 31-32. 2025.
- D-6 吉富博之・武智礼央・濱口正幹*. 愛媛県で得られたタイワンタケクマバチ. 南予生物フィールドノート. 2024 : 24008. 2024.

南予水産研究センター (South Ehime Fisheries Research Center)

- A-1 dos Santos Miranda SS, Tercya H, Saito T*, Siqueira-Silva DH. Stem Germ Cells in Fish, the Methods for Cryopreservation in Neotropical South American Species and Its Potential for Fish Conservation and Restoration. In Cryobiology for South American Neotropical Fish Species. pp. 220-240. CRC Press. 2024.
- B1-1 斎藤大樹*. 魚類の不妊化法：特に紫外放射を用いた始原生殖細胞形成阻害について. 照明学会誌. 109: 93-99. 2024.
- B2-1 Gao L, Franěk R, Tichopád T, Rodina M, Gela D, Šindelka R, Saito T*, Pšenička M. Mitochondria as indispensable yet replaceable components of germ plasm: insights into PGCs specification in sturgeons. *Reproduction*. 169: e240441. 2025.
- B2-2 Shah MA, Xie X, Rodina M, Stundl J, Braasch I, Šindelka R, Rzepkowska M, Saito T*, Pšenička M. Sturgeon gut development: a unique yolk utilization strategy among vertebrates. *Frontiers in Cell and Developmental Biology*. 12:1358702. 2024.
- B2-3 Güngör E, Ekici A, Erçin M, Oktayoğlu S, Saito T*, Keskin İ. Cryopreservation of early-stage male Black Sea trout (*Salmo trutta labrax*) germ cells and comparison of the whole tissue and enzymatically isolated cells. *Czech Journal of Animal Science*. 69: 331-343. 2024.
- B2-4 Nagasaka T, Fujimoto T, Saito T*, Yamaha E, Arai K. Isogenic fish sperm produced by transplanting gynogenetic haploid-derived germ cells. *Biology of Reproduction*. 112: 572-582. 2025.
- B2-5 Gao L, Franěk R, Tichopád T, Rodina M, Gela D, Šindelka R, Saito T*, Pšenička M. Mitochondria as indispensable yet replaceable components of germ plasm: insights into primordial germ cell specification in

non-teleost sturgeons. bioRxiv. 2025.

- C-1 藤本悠雅*・松原孝博*・後藤理恵*・斎藤大樹*. 異なる保存条件におけるスマの品質に関する研究. 令和6年度日本水産学会中国・四国支部例会. 2024年12月30日. 高知大学.
- C-2 鈴木琉生*・松原孝博*・後藤理恵*・斎藤大樹*. 生殖腺外科的摘出法の検討. 令和6年度日本水産学会中国・四国支部例会. 2024年12月30日. 高知大学.
- C-3 境途幾*・西宮攻・後藤理恵*・斎藤大樹*・松原孝博*. 養殖マダイ満2歳非産卵魚スクリーニングシステムの構築に関する研究. 令和6年度日本水産学会中国・四国支部例会. 2024年12月30日. 高知大学.
- C-4 森本寛大*・後藤理恵*・斎藤大樹*・松原孝博*. 初回産卵年齢遅延選抜育種のための成熟度判定技術の開発. 令和6年度日本水産学会中国・四国支部例会. 2024年12月30日. 高知大学.
- C-5 Saito T*. Quantitative data collection of multiple traits, including muscle quality, and their application in breeding of the aquaculture fish *Euthynnus affinis* (Kawakawa). International Workshop on the Promotion of Sustainable Aquaculture and Aquatic Animal Health in Southeast Asia (SAHSEA). Iloilo, Philippine. March 12–14, 2025.
- C-6 Saito T*. Empowering communities with practical education and research: the SEFREC approach. international symposium on higher education in fisheries. Fish Genomics and Aquaculture-Oriented Biotechnology. pp18. Wuhan China. December 4–5, 2024.
- C-7 Saito T*. Introduction to Kawakawa, *Euthynnus affinis*. research: from traits analysis to germ cell transplantation. Fish Genomics and Aquaculture-Oriented Biotechnology. pp37. Wuhan China. December 4–5, 2024.
- C-8 Saito T*, Goto R*. Introduction to kawakawa research: From traits analysis to germ cells transplantation. SEFREC seminar at Mote research institute. Sarasota, USA (Mote Research Institute). August 19, 2024
- D-1 Saito T*. Improving the quality of "Suma" (*Euthynnus affinis*) through breeding. 高知大学 2024 年度 JICA 課題別研修「水産業を通じた地場産業育成と持続的な利用」. SEFREC Ehime University. July 17, 2024